

第十九條 稅務管理局長犯罪事件ヲ調査シ犯罪ノ心證ヲ得サルトキハ其ノ旨ヲ犯罪則嫌疑者ニ通知シ物件ノ差押アルトキハ之カ解除ヲ命スヘシ

第二十條 本法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 本法中市町村吏員又ハ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ適用ス

○間接國稅犯則者處分法施行規則 明治三十三年三月二十二日 勅令第五十二號

朕間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

間接國稅犯則者處分法施行規則

- 第一條 間接國稅犯則者處分法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス
- 一 酒造稅
 - 二 混成酒稅
 - 三 沖繩縣酒類出港稅
 - 四 醬油稅(自家用醬油稅トモ)
 - 五 賣藥印紙稅
 - 六 印紙稅
- 第二條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ所有者又ハ市町村ヲシテ保管セシムル

トキハ之ニ封印ヲ爲シ若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ

- 第三條 差押目錄ニハ物件ノ品名、數量、帳簿、書類ノ名稱、箇數、差押ノ場所及時、所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ
- 第四條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ之ヲ官廳又ハ市町村ニ送致スルトキハ差押目錄ノ謄本ヲ其ノ所持者ニ交付スヘシ
- 第五條 收稅官吏市町村ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ
- 第六條 稅務管理局長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ公告スヘシ
- 第七條 稅務管理局長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ノ公賣代金ヲ供託シタルトキハ其ノ金額ト共ニ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ
- 第八條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキ調製スル顛末書ニハ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ノ事實、場所及時並供述ノ要領ヲ記載スヘシ
- 第九條 間接國稅犯則者處分法第十四條ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ
- 第十條 通告書ノ送達ハ使丁ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ受領證ヲ徴スヘシ但シ配達證明郵便ヲ以テ送達ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條 稅務管理局長間接國稅犯則者處分法第十九條ニ依リ犯罪ノ心證ヲ得サル旨ヲ犯罪則嫌疑者ニ通知スル場合ニ於テ同法第七條ニ依リ供託シタル金額アルトキハ供託受領證ニ供託金ヲ受取ルヘキ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添付シ之ヲ差押當時ノ物件所持者ニ交付スヘシ

第十二條 犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入、削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スヘシ

第十三條 收稅官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス差押物件又ハ沒收物件ヲ買受クルコトヲ得ス

附則

本令ハ間接國稅犯則者處分法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○間接國稅犯則者處分法施行心得 明治三十三年三月二十四日 大藏省訓令第八號

稅務管理局

間接國稅犯則者處分法施行上左ノ通心得ヘシ

第一條 收稅官吏臨檢搜索ヲ爲スハ犯則ノ嫌疑ヲ起スニ足ルヘキ事實アリタルトキニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條 收稅官吏犯則嫌疑者參考人ヲ尋問スルハ犯則ノ現場又ハ尋問ヲ受クヘキ者ノ所在ニ就テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 差押物件ニハ常ニ注意ヲ爲シ應敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ時機ヲ失セス公賣ニ付シ其ノ代金ノ供託ヲ爲スコトヲ要ス但急速ヲ要スル場合ノ外ハ成ルヘク公賣前差押當時ノ所持者ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

第四條 收稅官吏證憑ヲ他ノ稅務署ノ收稅官吏ニ引繼ク場合及事件ヲ稅務管理局長ニ報告スル場合ニ

於テハ所屬稅務署長ヲ經由スルコトヲ要ス

第五條 犯則事件ノ調査及處分ハ速ニ結了スルコトヲ要ス故ナク遲滯スルカ如キコトアルヘカラス

第六條 稅務管理局長通告ヲ爲ス場合ニ於テハ成ルヘク犯則者ノ住所地又ハ居所地所轄ノ稅務署ヲ指定シ金錢物品ノ納付所ト爲スコトヲ要ス但シ沒收スヘキ物品ニシテ市町村又ハ所有者ノ保管ニ係ルトキハ其ノ物品ニ關シテハ特ニ其ノ所在ノ場所ヲ指定スルコトヲ妨ケス

第七條 通告書ハ金錢物品ノ納付所ト指定シタル稅務署ヲ經由シテ送達スルコトヲ要ス

第八條 稅務管理局長犯則事件ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知シ且ツ差押物件ノ解除ヲ當該官吏ニ命スルコトヲ要ス

差押解除ノ命令ヲ受ケタル當該官吏ハ直ニ之レカ解除ヲ爲スコトヲ要ス

○法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタ

ル場合ニ關スル件 明治三十三年三月十二日 法律第五十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅及葉煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス但シ其ノ罰則ニ於テ罰金科料以外

間接國稅犯則者處分法施行心得 法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル件

ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二條 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス
 第三條 法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ
 之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命
 令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス
 前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

○登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルノ件 明治二十四年十二月十六日 勅令第二百四十五號

朕登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ納ムヘキ手数料ハ其金額ニ相當スル登記印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得但其種目ハ主務大臣之
 ヲ定ム
 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

○登記印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料又ハ代價ノ種類及納付方

明治三十年十月十一日 內務省令第二十八號

左ノ種目ノ手数料又ハ代價ヲ登記印紙ヲ以テ納ムルトキハ其ノ金額ニ相當スル印紙ヲ願書其ノ他ノ書
 類ニ貼用スヘシ

- 一 醫術開業試験手数料
 - 一 藥劑師試験手数料
 - 一 藥品其ノ他検査手数料
 - 一 藥品其ノ他再検査手数料
 - 一 醫術開業免狀書換手数料(毀損亡失ニ係ルモノ)
 - 一 藥劑師免狀書換手数料(毀損亡失ニ係ルモノ)
 - 一 文官試験手数料
 - 一 版權登録證再度下付手数料
 - 一 版權登録證訂正手数料
 - 一 版權免許料
 - 一 痘苗代價
 - 一 血清代價
 - 一 阿片代價(三十二年內務省令第
十五號ヲ以テ追加)
 - 一 明治三十二年內務省令第二十六號第五條ニ依ル目錄閱覽手数料(三十二年七月四日內務省
令第三十號ヲ以テ追加)
- 前項ニ依リ貼用シタル登記印紙ハ當該官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但出願者又ハ請求者ニ於テ
 自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケナシ

登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルノ件 登記印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料又ハ代價ノ種類及納付方 下卷 一八九

兵事

○徵兵令 明治二十二年一月二十一日 法律第一號

朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵令

第一章 總則

二十八年三月
法律第十五號
ヲ以テ第二條
以下改正

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年四箇月海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在テハ第一補充兵役第二補充兵役トシ第一補充兵役ハ七箇年四箇月ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服シ第二補充兵役ハ一箇年四箇月ニシテ其年所要ノ第一補充兵員ニ超過スル者之ニ服ス又海軍ニ在テハ一箇年ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者之ニ服ス

第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス

徵兵令

第一國民兵役ハ後備兵役及第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國民兵役ハ常備兵役後備兵役補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第八條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第九條 陸軍現役兵及補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵及補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及嶋嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置キタル嶋嶼ノ壯丁近衛師團ニ編入スル者ヲ除クハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス

第十條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十一條 抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム

第十二條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十三條 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立學校小學校及操科等府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依

リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ

一年志願兵ノ豫備後備役年期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備後備役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス(二十二年法律第二十九號) (二十六年三月法律第四號ヲ以テ「滿二十」ヲ以テ本條中改正追加) (六歲ヲ滿二十八歳ト改正以下同)

第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十五條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十六條 豫備兵後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十七條 第一補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補缺ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス但第一補充兵ヲ以テ現役兵ノ補缺ニ充ツルハ其服役ノ初年ニ限ル

第一補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫

備兵令

備兵ニ同シ

第二補充兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ第一補充兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス

第十八條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十九條 兵役ヲ免スルハ廢疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第二十條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第二十一條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十二條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス

其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ

本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十三條 第十三條第一項ニ掲クル學校ニ在ル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歲迄徵集ヲ猶豫ス其

事故滿二十八歲迄ニ止ミ又ハ二十八歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集

ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在

ラス(二十二年法律第二十九號ヲ以テ改正)

外國ニ在ル者朝鮮國ニ在ル者ヲ除クハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿三十二歲迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラ

スシテ之ヲ徵集シ三十二歲ヲ過クル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ

志願スル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條

餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及收入役ハ豫備兵後備兵ニ在ルト第一補充兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

第四章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ又第

二十三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歲迄ニ事故止ミ同條第二項ニ當ル者ニシテ三十二歲迄ニ歸朝

シタル者ハ十四日以内ニ書面ヲ以テ戶主ニ非サル者ハ其戶主ヨリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歲未滿ニシテ現

役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルモノトス

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛

匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 服役年期ノ計算ハ現役豫備役補充役及海軍後備役ニ在テハ各其役ニ就ク年ノ十二月一日

計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算スヨリ陸軍後備役ニ在テハ其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ起算ス但

第七條ニ依リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期ニ算入セス其豫備

役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海軍ニ在テハ第五年目ノ

十一月三十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シタル場合ニ於ケル

豫備役年期ニ應シ本項ニ準シテ計算ス

備兵令

豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第五章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限り三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ漸ヲ以テ施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫ス可キモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備役年期ヲ通シテ十二箇年四箇月トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲クル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故八箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ八箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得(二十六年法律第四號ヲ以テ六ヶ年ヲ八ヶ年ト改正)

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間明治二十一年十二月一日ヨリ起算ス徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲クル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第十三條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ

本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第一項及第二項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ(二十二年法律第二十九號ヲ以テ本條中改正追加)

○北海道ニ徵兵令ヲ施行スルノ件 明治二十八年九月二十日 勅令第百二十六號

朕北海道ニ徵兵令ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 明治二十九年一月一日ヨリ北海道渡島、後志、膽振、石狩ノ四箇國ニ徵兵令ヲ施行ス

明治三十一年一月一日ヨリ天鹽、北見、日高、十勝、釧路、根室、千島ノ七箇國ニ徵兵令ヲ施行ス(三十年七月勅令第百五十七號ヲ以テ追加)

第二條 前條ノ徵兵令施行地ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ後五箇年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後前條ノ區域外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス

第三條 屯田現役豫備役下士兵卒ノ戸籍内ニ在ル者ハ徵集ヲ免除ス(三十年七月勅令第百五十七號ヲ以テ改正)

第四條 從來徵兵令ヲ施行セル函館江差福山ニハ本令ヲ適用スルノ限ニアラス

○沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行

スルノ件 明治三十年七月三十日 勅令第百五十八號

朕沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十一年一月一日ヨリ沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行ス
沖繩縣壯丁ニシテ徵集ニ應スルトキハ從來ノ産業ヲ維持スルコト能ハスト認ムル者ハ特ニ徵集ヲ免除ス

小笠原島ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ後五箇年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後本島外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス

○徵兵事務條例 明治二十九年三月二十日 勅令第百十二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵事務條例

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管及聯隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從テ

第二條 聯隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市北海道ニ在テハ區ヲ以テ一區ト爲ス

一市ニシテ二聯隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス

北海道ニ徵兵令ヲ施行スルノ件 沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行スルノ件 徵兵事務條例

三十二年勅令
第三百三號ヲ以テ
第四條以下改正

數郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其ノ島廳ヲ置クモノ亦同シ

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ更ニ徵募區ヲ檢査區ニ分チ區ヲ以テ檢査區ト爲ス

第四條 步兵隊ノ兵員ハ聯隊毎ニ其ノ師管ノ一聯隊區(第一師管ニ在テハ二聯隊區)ヨリ其ノ他ノ兵員ハ其ノ師管各聯隊區ヨリ徵集ス但要員ヲ充シ能ハサルトキハ他ノ聯隊區若クハ他ノ師管ヨリ其ノ不足ヲ補充スルコトヲ得

近衛ノ歩兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其ノ他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス

鐵道隊ノ兵員ハ第一第二第三第四第八及第九師管ヨリ徵集ス

警備隊ノ兵員ハ其ノ警備隊區ヨリ徵集ス

海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル聯隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官、師管徵兵官、聯隊區徵兵官、警備隊區徵兵官及聯隊區聯合徵兵署徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ內務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

北海道ニ於テハ師團長及北海道廳長官ヲ以テ師管徵兵官ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 聯隊區徵兵官ハ聯隊區内徵募區毎ニ聯隊區司令官及島司郡市長北海道ノ區ニ在テハ區長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司郡長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首坐トシ

其ノ區内徵募事務ヲ執行ス

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ檢査區毎ニ聯隊區司令官及區長ヲ以テ聯隊區徵兵官ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ抽籤事務ヲ除クノ外其區内徵募事務ヲ執行ス

第九條 聯隊區聯合徵兵署徵兵官ハ東京市、京都市、大阪市ニ於テ徵募區毎ニ聯隊區司令官、市長及各區長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ其ノ區内抽籤事務ヲ執行ス

第十條 第八條第九條ニ掲クル徵兵官ノ外聯隊區内徵募區東京市、京都市、大阪市ニ在テハ檢査區毎ニ聯隊區徵兵參事員警備隊區内徵募區毎ニ警備隊區徵兵參事員ヲ置ク

第十一條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ徵兵令第二十二條ニ當ル徵集延期及徵集免除並ニ明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ノ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス

第十二條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ郡市名譽職參事會員ヲ以テ之ニ充ツ但市ニ於テハ其ノ市名譽職參事會員ニ於テ四名ヲ互選シ之ヲ定ム

東京市、京都市、大阪市ノ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ市會ニ於テ其ノ區内ニ住スル市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ四名ヲ選舉シ之ヲ定ム其ノ任期ハ市會議員ノ例ニ依ル

島廳ヲ置ク島嶼ノ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ島司ニ於テ各町村會議員中ヨリ四名ヲ選ヒ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス其ノ任期ハ町村會議員ノ任期ニ依ル

北海道ノ郡又ハ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ徵募區毎ニ四名トシ北海道廳長官之ヲ命ス其ノ任期等ハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 毎年徵募事務執行中ハ師管徵兵醫官及聯隊區徵兵醫官聯隊區徵兵副醫官又ハ警備隊區徵兵

徵兵事務條例

醫官警備隊區徵兵副醫官ヲ置ク但シ警備隊區徵兵副醫官ハ時宜ニ依リ之ヲ置カサルコトヲ得
師管徵兵醫官ハ師團長ニ屬シ師管內徵兵身體検査ニ係ル事ヲ管掌シ聯隊區徵兵醫官ハ聯隊區司令官
ニ警備隊區徵兵醫官ハ警備隊司令官ニ屬シ其ノ區內徵兵身體検査ニ係ル事ヲ管掌シ聯隊區徵兵副醫
官ハ聯隊區徵兵醫官ヲ警備隊區徵兵副醫官ハ警備隊區徵兵醫官ヲ補佐ス

第十四條 師管徵兵醫官ハ師團軍醫部長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區徵兵醫官及警備隊區徵兵醫官ハ陸軍一
等軍醫一名聯隊區徵兵副醫官及警備隊區徵兵副醫官ハ陸軍二三等軍醫ノ内一名ヲ以テ之ニ充ツ
第十五條 毎年徵募事務執行中ハ聯隊區徵兵署、警備隊區徵兵署及聯隊區聯合徵兵署ニ事務員ヲ置キ
該徵兵署ノ庶務ニ従事セシム

第十六條 聯隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ聯隊區書記又ハ警備隊書記二名及島廳郡
市書記東京市、京都市、大阪市及北
海道ノ區ニ在テハ區書記二名若クハ三名ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 徵募事務執行ニ際シ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ノ全部ヲ缺クトキハ府縣知
事ハ徵募區内ノ公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ就キ臨時聯隊區徵兵參事員又ハ臨時
警備隊區徵兵參事員ヲ命スルコトヲ得
島廳ヲ置キタル島嶼ノ臨時徵兵參事員ハ島司ニ於テ便宜之ヲ命スルコトヲ得

第三章 配賦

第十八條 毎年徵集スヘキ現役兵及補充兵ノ員數ハ上裁ヲ經テ陸軍大臣之ヲ各師管ニ配賦ス

第十九條 師團長ハ第十八條ニ依リ現役兵及補充兵ノ要員ヲ各聯隊區又ハ警備隊區ニ聯隊區司令官又
ハ警備隊司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十條 現役兵及補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ基準トシテ之ヲ定ム

第四章 徵募

第二十一條 町村長町村制ヲ施行セサル地方
ニ在テハ月長以下同シハ毎年戶籍簿ニ據リ徵兵適齡者ヲ取調ヘ徵兵令第二十五條ノ
屆書ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り二月十五日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募
區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出スヘシ
市長東京市、京都市、大阪市及
北海道ノ區ニ在テハ區長ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ聯隊區徵兵
署ニ提出スヘシ

第二十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ各徵募區及検査區ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク
但土地廣濶若ハ交通不便若ハ壯丁多數ノ徵募區ニ於テハ二箇所以上ノ地ニ逐次開設スルコトヲ得
東京市、京都市、大阪市ニ於テハ抽籤執行ノ爲メ別ニ徵募區ニ聯隊區聯合徵兵署ヲ設ク

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署開設ノ日割ヲ定メ聯隊區司
令官警備隊司令官ハ師團長ニ島司郡市長ハ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ
島司郡市長ハ検査抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ豫メ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員
ニ通知シ且其ノ管內ニ告示スヘシ

第二十四條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ
其ノ検査ハ徵兵官及徵兵參事員ノ面前ニ於テスルモノトス

第二十五條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十六條 島司郡市長東京市、京都市、大
阪市ニ在テハ區長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス

第二十七條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵集延期、徵集猶豫、徵

集免除及兵役免除ノ處分ヲ爲シ又壯丁名簿ヲ以テ徵集名簿、徵集延期名簿、徵集猶豫名簿、徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ作ルヘシ

第二十八條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分チ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ但東京市、京都市、大阪市ニ於テハ聯隊區聯合徵兵署ニ於テ之ヲ行フ

抽籤ハ徵兵官及徵兵參事員列席ノ上抽籤總代人^ニ之ヲ爲スモノトス但シ東京市、京都市、大阪市ノ徵兵參事員ハ各検査區ヨリ一名宛出席スヘシ
抽籤總代人ハ其ノ年ノ壯丁ニ就キ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員之ヲ選定ス其ノ人員ハ適宜トス

第二十九條 前條ノ徵兵官ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿ニ通テ作ルヘシ

第三十條 抽籤終ルトキハ抽籤名簿及徵集名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ領シ抽籤名簿、徵集延期名簿、徵集猶豫名簿、徵集免除名簿及兵役免除名簿ハ島司郡市長之ヲ領シ島廳、郡市役所ニ備置クヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ於テハ抽籤名簿ヲ除クノ外ハ區長之ヲ領シ區役所ニ備置クヘシ

第三十一條 各徵募區ノ抽籤終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ第十九條ノ配賦ニ基キ現役兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又徵集名簿ヲ以テ現役兵名簿、補充兵名簿及要員超過名簿ヲ作ルヘシ

第三十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵名簿ヲ各聯隊長^{聯隊長ニ在テハ其ノ隊長}及海兵團長ニ交付シ且現役兵ニ徵募スヘキ者及補充兵ニ編入スヘキ者ノ順序ヲ島司郡市長ニ通知スヘシ

抽籤名簿及補充兵名簿ハ之ヲ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ備置キ要員超過名簿ハ島司郡市長ニ交付シ島廳郡市役所ニ備置クヘシ

第三十三條 第二十七條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官第三十一條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ證書ヲ附與セス但徵集免除ノ者竝ニ要員ニ超過シタル者ニハ證書ヲ附與セス

第三十四條 徵募事務終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師團長ニ差出シ師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上スヘシ

第五章 裁決

第三十五條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第三十六條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ現役兵徵募、補充兵編入、要員超過、徵集免除及兵役免除ノ事ヲ裁決ス

第三十七條 徵集延期、徵集猶豫、徵集免除及兵役免除ノ裁決ハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ其ノ他ノ裁決ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ爲ス

第三十八條 壯丁若クハ其ノ家族ニ於テ徵兵令第二十二條及明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ關スル聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲ニ裁決ノ執行ヲ停止セズ
本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期日ヲ過クルモノハ受理セズ

第三十九條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願ヲ爲サントスル者ハ其ノ訴願書ニ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添ヘ其ノ裁決ヲ爲シタル徵兵官ヲ經由シテ差出スヘシ

第四十條 總理徵兵官又ハ師管徵兵官ニ於テ下級徵兵官ノ裁決不當ナリト認ムルトキ又其ノ裁決詐僞若ハ錯誤ニ起因シタルモノナリト認ムルトキハ之ヲ取消シ更ニ處分ヲ命スヘシ但シ師管徵兵官ハ總理徵兵官ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第六章 現役兵及補充兵

第四十二條 現役兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム

警備隊諸兵ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年六月一日トシ砲兵輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年四月一日第三期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ四期ニ分チ其第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年三月一日第三期ハ同年六月一日第四期ハ同年九月一日トス

第二師管第七師管第八師管及第九師管ニ於テハ砲兵輸卒ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年四月一日第二期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年三月一日第二期ハ同年六月一日第三期ハ同年九月一日トス但シ第七師管及第八師管ニ於テ輜重輸卒ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年五月一日第二期ハ同年八月一日トス
戰時若ハ事變ノ際其ノ他必要ノ場合ニ在テハ前諸項ノ入營期日ヲ變更スルコトヲ得

第四十三條 現役兵ヲ入營セシムルトキハ聯隊區司令部員ヲ入營地若ハ近衛、海軍入營兵集合地ニ派遣シ之ヲ當該隊長又ハ近衛、海軍入營兵受領員ニ交付セシム但シ土地ノ狀況ニ由リ入營兵引率員ヲシテ入營地若ハ近衛、海軍入營兵集合地ニ引率セシムルコトアルヘシ
入營兵ノ人員寡少ナルトキ及入營兵受領員出發後到着シタル者ハ直ニ入營セシム

第四十四條 現役兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ二十日以内ノ延期ヲ許スヘシ
其ノ延期ヲ願フモノハ願書ニ市町村長 東京市京都市大阪市ニ在テハ區長以下同シノ與書證印ヲ受ケ其ノ父母疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ差出スヘシ

第四十五條 現役兵入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍 戶籍上本人ノ出入モ所屬ノ隊籍ヲ變更セス 徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者ハ身體検査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ムルモノトス但第四條ノ區域外ニ轉籍シタル者ハ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ム

第四十六條 現役兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ缺員ヲ生シ若ハ入營シ難シト認メタル者又ハ入營ノ後翌年一月三十一日前ニ死亡シタル者若クハ一時服役ニ堪ヘサル者又ハ常備後備ノ服役及永久服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ其ノ徵募區同兵種ノ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ補充シ若シ其ノ徵募區ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ聯隊區内他ノ徵募區ヨリ補充ス其ノ配賦ハ各徵募區補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム但警備隊諸兵及砲兵輸卒輜重輸卒ニシテ入營スヘキ月ノ十日迄ニ本文ノ事故ヲ生シタル者アルトキハ次期入營スヘキ者ヲ繰上ケ入營セシム其ノ最終期ニ在テハ前期ニ繰上ケタル缺員ト其ノ期ノ缺員ハ第一補充兵ヲ以テ補充ス

第四十七條 現役兵入營前廢疾又ハ不具ト爲リ永久現役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ兵役ヲ免ス但徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者其ノ年徵募事務終結前ハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 現役兵入營前徵兵令第二十二條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ徵集ヲ延期ス

其ノ願書ニハ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ現役兵ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付スヘシ

第四十九條

現役兵入營前及補充兵補充兵證書附與後其ノ年十一月三十日以前ノ者以下同シ轉籍シタルトキハ十四日以内ニ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ

其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通報スヘシ

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十條

現役兵入營前及補充兵寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ復歸シタルトキ亦届出ヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタルトキハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七章 雜則

第五十一條

徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ願書ニ戶主或ハ後見人連署シ身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ九月一日以前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ海兵團ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但軍隊又ハ海兵團遠隔ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵検査ノ際聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ申立テ身體検査ヲ受ケ合格ノ者ハ合格證書ヲ添ヘ願出ルコトヲ得

検査ノ爲メ往復ノ旅費及入營旅費ハ自辨トス

第五十二條

第五十一條ニ依リ服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第五十三條

他ノ徵募區ニ寄留シ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ冀望スル者ハ本籍及寄留地徵募區ノ検査開始前寄留地ノ島司郡市長東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長以下同シニ願出テ且其ノ由ヲ本籍ノ市町村長ニ届出ヘシ

島司郡市長其ノ願ヲ許可シタルトキハ直ニ之ヲ本籍地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

第五十四條

徵兵令第二十二條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ三月一日迄ニ三月一日後抽籤ニ事故ノ生聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ但其事故

二年以上繼續スル者ハ毎年願出テ其ノ三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ本文ノ保證書ヲ添ヘ届出ヘシ

前項ノ願書及届書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十五條 徵兵令第二十三條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ添ヘ三月一日迄ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ

公使領事及貿易事務官ヲ置カサル國ニ在ル者及一定ノ地ニ在留セサル旅行ノ者ハ其ノ徵集猶豫願書ニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ證明書ヲ添ヘ差出スヘシ

公使領事及貿易事務官ヲ置キタル國ニ在ル者ト雖徵集猶豫願書ヲ差出ストキ未タ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ得サルトキハ之ニ換フルニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ承認書ヲ添ヘ差出シ置キ追テ證明書ヲ差出スコトヲ得

本條ノ願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十六條 明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ毎年三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ヘシ

前項ノ願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十七條 徵兵令第二十三條第一項ノ事故止ミタル者ノ届書及同條第二項ノ歸朝シタル者ノ届書ハ町村長ヨリ其ノ年ノ壯丁名簿進達前ニ在テハ其ノ名簿ト共ニ進達後ニ在テハ受領ノ日ヨリ三日以內ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ差出スヘシ

市長ハ前項ノ届書ヲ聯隊區徵兵署若クハ聯隊區聯合徵兵署開設ノトキ同署ニ提出スヘシ

第五十八條 疾病傷痰或ハ犯罪等ニテ身體検査ヲ受ケ難キ者及志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司郡市長ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痰ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ

島司郡市長ニ差出ス届書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十九條 疾病傷痰或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痰ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ其ノ届書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十條 徵兵署ノ諸費壯丁及抽籤總代人ノ旅費現役兵入營ノ旅費徵兵參事員ノ手當金、旅費ハ官給ス

第六十一條 第四十條ニ依リ更ニ處分ヲ爲ストキハ臨時徵兵署ヲ開設スルコトヲ得

第六十二條 島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長、地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第六十三條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ得其ノ願出手續及取扱ハ第五十三條ノ例ニ準ス

第六十四條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其ノ年又ハ翌年ノ徵募ニ應セシム但年齡二十六歳ヲ過キ轉籍シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附則

第六十五條 第七師團ノ兵員ハ當分第一第二第七及第八師管ヨリ徵集ス但シ第七師管外ヨリ徵集スル者ノ入營ニ係ル取扱ハ第四十三條近衛、海軍入營兵ノ例ニ依ル

第六十六條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ末々郡制ヲ施行セサル郡ニ在テハ其ノ郡内ニ於テ四名ヲ選舉シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ選舉人被選舉人資格、選舉ノ方法及任期ハ總テ府

縣會議員ノ例ニ依ル
第六十七條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○徵兵事務條例補則 明治三十一年三月十二日
勅令第四十一號

朕徵兵事務條例補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵事務條例補則

- 第一條 徵兵事務條例中北海道及沖繩縣並小笠原島ニ實施シ難キ諸件ハ當分本則ニ依ル
- 第二條 北海道廳支廳ノ管轄區域及沖繩縣ノ區並小笠原島ハ各之ヲ徵募區ト爲ス
- 第三條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ一徵募區ニ四名トシ地方長官之ヲ命ス其ノ任期等ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル
- 第四條 沖繩縣及小笠原島ニ在テ徵兵參事員ハ徵兵事務條例第十一條ニ掲クル外明治三十年勅令第二百五十八號第二項若ハ第三項ノ徵集免除又ハ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス
- 第五條 明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ當ル者ハ從來ノ經歷及產業ノ現況ヲ詳記シ三月一日迄三月一日以後事故ノ生シタニ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ
迄三月一日以後事故ノ生シタニ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ
明治三十年勅令第二百五十八號第三項ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ毎年三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ヘシ

- 本條ノ願書ニハ町村長ニ準スヘキ者ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス
- 第六條 壯丁若ハ其ノ家族ニ於テ明治三十年勅令第二百五十八號第二項及第三項ニ依ル警備隊區徵兵官又ハ聯隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ徵兵事務條例第五章ノ規程ニ依リ訴願スルコトヲ得
 - 第七條 沖繩縣ニ在テ島司郡區長ハ明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ依ル徵集免除ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス
 - 第八條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師管徵兵官ノ認可ヲ得某徵募區ノ徵兵署ヲ他ノ徵募區内ニ設クルコトヲ得
 - 第九條 沖繩警備隊區ノ壯丁ハ之ヲ第六師團第十二師團及海軍諸兵ニ徵集ス
沖繩警備隊區ニ於ケル現役兵及補充兵ノ要員ヲ其ノ區ノ壯丁ヲ以テ充スコト能ハサルトキハ其ノ不足員ハ第六師管及第十二師管若ハ其ノ一ヨリ補充ス
 - 第十條 沖繩警備隊區ニ於ケル現役兵及補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總員ヨリ明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ當ルヘキ豫定ノ人員ヲ除算シタルモノヲ以テ率トス
 - 第十一條 沖繩警備隊區ヨリ徵集ノ現役兵入營ノトキハ地方吏員之ヲ引率シ當該隊長又ハ海兵團長ニ交付セシム
 - 第十二條 徵兵事務條例中警備隊司令官警備隊司令部附軍醫ノ職務ハ沖繩警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官警備隊區司令部附軍醫市長市書記ノ職務ハ沖繩縣ニ在テハ區長區書記、郡市長郡市書記ノ職務ハ北海道ニ在テハ北海道廳支廳長同支廳ノ屬、町村長ノ職務ハ沖繩縣及小笠原島ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ
 - 第十三條 北海道廳紗那支廳管下及小笠原島ニ於ケル聯隊區徵兵官タル聯隊區司令官ノ職務ハ聯隊區

副官若ハ他ノ將校ヲシテ臨時之ヲ行ハシムルコトヲ得
北海道廳紗那支廳管下及小笠原島ニ於ケル徵兵事務執行ノ際ハ徵兵事務條例第十四條ノ軍醫ノ外仍
軍醫一名ヲ以テ聯隊區徵兵醫官ト爲スコトヲ得

附則

第十四條 本則中警備隊區ニ係ル事項ハ明治三十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 第五條第一項及第二項ノ願出期日ハ明治三十一年ニ限り四月二十日迄トス

○徵兵事務條例施行細則 明治二十九年四月二十三日
陸軍省令第十號

徵兵事務條例施行細則左ノ通改正ス

徵兵事務條例施行細則

- 第一條 條例第二十一條ノ壯丁名簿ハ附錄第一様式ニ依リ之ヲ作り一市東京市、京都市、大阪市、一町村ヲ及北海道ノ區ニ在テハ區一冊ト爲シ冊尾ニ其ノ人員ノ總計ヲ記シ市町村長東京市、京都市、大阪市、大之ニ署名押印スヘシ
- 第二條 徵兵令第八條第二十五條但書及明治二十八年勅令第二百二十六號第三條ニ當ル者ハ市町村長東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長之ヲ調査シ人名書各事項ヲ頭書スヲ作り壯丁名簿ニ添附スヘシ
- 第三條 島司郡市長ハ毎年一月一日調ヲ以テ其ノ年ノ壯丁人員及前年假決ノ人員ヲ同月三十一日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ聯隊區司令官及警備隊司令官ハ壯丁人員ヲ取練メ二月十五日迄ニ師團長ニ報告シ師團長ハ三月一日迄ニ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ
- 前項ノ人員中明治二十八年勅令第二百二十六號第三條及明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ當ル

三十二年四月
省令第八號ヲ
以テ第一條以
下改正

ヘキ人員ハ之ヲ別記スヘシ

第四條 聯隊區徵兵署聯隊區聯合徵兵署及警備隊區徵兵署ハ島司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ要

スレハ吏員ヲ派シテ豫メ準備シ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官到著ノ上之ヲ開設スヘシ

一 徵募區ニ二箇所以上聯隊區徵兵署ヲ設ケントスルトキハ聯隊區徵兵官豫メ師管徵兵官ノ認可ヲ受

ケ一箇所概テ壯丁百七十人交通不便ノ地ニ在テハ適宜以上ヲ召集スヘキ地ニ設クヘシ(三十年省令第七) 參

第五條 聯隊區徵兵署警備隊區徵兵署開設日割既ニ定マルトキハ島司郡市長東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長ハ其ノ徵

募區又ハ検査區内ニ於テ毎日検査ヲ受クヘキ壯丁ノ順序ヲ定メ期日ニ至リ壯丁ヲ徵兵署ニ出頭セシ

ムヘシ

第六條 身體検査ヲ行フトキハ島廳都市書記東京市、京都市、大阪ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵検査規則ニ依

リ身體ヲ検査シ體格ノ等位其ノ他所要ノ件ヲ壯丁名簿前年ノ假決名簿中検査ヲ受ニ記入シ聯隊區司令官

又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ

第七條 身體検査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ナラシムルトキハ勉メテ別室若クハ隔障内ニ於テスヘ

シ

第八條 身體検査ハ毎年四月中旬ヨリ九月下旬迄ノ間ニ於テ之ヲ行フ例トス

其ノ日割表ハ附錄第十一様式ニ依リ之ヲ作り聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ師團長ニ報告シ師團

長ハ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第九條 徵兵令第二十條第二十一條第二十二條ニ依リ徵集延期ニ屬スル者徵兵令第二十三條及明治二

十八年勅令第二百二十六號第二條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者並ニ徵兵令第十九條ニ依リ兵役免除ニ屬

スル者ニハ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附錄第二第三様式ニ依リ徵集延期證書徵集猶豫

證書兵役免除證書ヲ作り市ハ市長東京市、京都市、大ヨリ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ付與セシムヘシ

徵集免除ニ屬シ國民兵役ニ服スル者ニハ前項ノ例ニ依リ本人ニ達スヘシ

第十條 徵兵令第二十二條ノ願ヲ許可セサル者及同條ノ事故繼續シテ三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル旨届出タル者ニシテ徵集免除ニ屬セサル者ニハ其ノ裁決書ヲ市ハ市長東京市、京都市、大ヨリ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ付與セシムヘシ

明治二十八年勅令第百二十六號第二條ノ願ヲ許可セサル者亦同シ

第十一條 陸軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フヘシ

- 一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ユル者
 - 二 騎兵ハ成ルヘク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ過キサル者
 - 三 砲兵ハ體力強大ニシテ視力清明ナル者
 - 四 工兵ハ成ルヘク工兵ノ作業ニ適當シ臂力アル者
 - 五 輜重兵砲兵輸卒及輜重輸卒ハ成ルヘク馬匹ノ使用ニ慣レ且臂力アル者
 - 六 砲兵助卒ハ身體強健ニシテ臂力アル者
 - 七 職工ハ成ルヘク其ノ職ニ從事セシ者
 - 八 看護卒ハ成ルヘク患者ノ取扱ニ慣レタル者
- 第十二條 海軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フヘシ
- 一 水兵ハ成ルヘク帆、錨、舵等ノ使用ニ慣レタル者
 - 二 機關兵ハ成ルヘク汽機汽罐ノ取扱又ハ火焚ノ業ニ慣レタル者

三 軍樂生ハ齒列齊正ニシテ且指節ノ強剛ナラサル者

四 木工及鍛冶ハ成ルヘク其ノ職業ニ慣レタル者

五 看護ハ成ルヘク患者ノ取扱ニ慣レタル者

六 主廚ハ成ルヘク割烹ノ職ニ慣レタル者

第十三條 條例第二十七條ノ諸名簿ハ種類ヲ分テ之ヲ編綴シ冊尾ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官署名押印スヘシ

公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其ノ年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿ニ志願兵出願中及認可ヲ受ケタル者六週間現役ニ服スヘキ者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其ノ事由ヲ記スルモノトス

第十四條 聯隊區ニ於テ歩兵ノ要員ヲ充スコト能ハサルトキハ聯隊區司令官ヨリ之ヲ師團長ニ具狀シ師團長ハ師管内他ノ各聯隊區ニ配賦スヘシ其ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス(三十年省令第七號ヲ以テ改正)

第十五條 徵兵令第二十三條及明治二十八年勅令第百二十六號第二條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スヘキ者ニハ身體検査ヲ施行セス

第十六條 疾病傷痍ノ爲メ身體検査ニ出頭セサル者ハ時宜ニ由リ其ノ家ニ就キ検査スヘシ

第十七條 抽籤施行ニ先タチ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ聯隊區聯合徵兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ兵種及甲乙兩種ニ分チ籤札ヲ作ルヘシ

籤ノ番號ハ甲乙兩種各合格者ノ數ニ應シ第一番ヨリ起スヲ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者ア

ルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附著シ其ノ次番號ヨリ籤番號ヲ起スヘシ

第十八條 籤札ハ附録第四様式ニ依リ之ヲ作り籤箱ニ納レ之ヲ封鎖シ徵兵官徵兵參事員列席ノ前ニ置

キ其ノ封ヲ披キ徵兵署事務員籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ヒ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム

第十九條 條例第二十九條ノ抽籤名簿ハ附録第五様式ニ依リ之ヲ作り冊尾ニ徵兵官署名押印スヘシ

第二十條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ヒ其ノ籤札ヲ徵兵署事務員ニ渡シ徵兵署事務員ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼附シ徵兵署印章ヲ以テ割印ヲ爲シ一人毎ニ之ヲ截チ切り總代人ニ交付スヘシ

第二十一條 身體検査ニ合格シタル壯丁中讀書算術ヲ能クシ且身元確實ナル者ニシテ抽籤ノ法ニ依ラ

ス現役ニ服センコトヲ志願スル者アルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ許可スルコトヲ得(三十年省令第七號ヲ以テ改正)

第二十二條 現役兵及補充兵ノ編入順序ハ左ノ如シ

- 一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者(二人以上ナルトキハ年齢ノ順序同年齡ノ者ハ誕生日ノ順ニ從テ)
- 二 甲種合格者ニシテ徵兵令第十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者
- 三 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者
- 四 第二十一條ニ依リ現役志願ヲ許可シタル者(三十年省令第七號ヲ以テ改正)
- 五 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者(番號ノ順序ニ從テ)
- 六 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者
- 七 乙種合格者ニシテ徵兵令第十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者

八 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者

九 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官條例第三十一條ノ處分ヲ爲シタルトキハ附録第六様式ニ依リ現役兵證書及補充兵證書ヲ作り市ハ市長ヲ經テ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ島司郡長及町村長ヲ經テ本人ニ付與スヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ尙ホ區長ヲ經由スヘシ要員超過ノ爲メ國民兵役ニ服スル者ニハ前項ノ例ニ依リ其ノ由ヲ本人ニ達スヘシ

第二十四條 條例第三十一條ノ諸名簿ハ種類ヲ分テ編綴シ冊尾ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官署名押印スヘシ

第二十五條 條例第三十四條ノ徵兵表ハ附録第七様式ニ準シ之ヲ作ルヘシ

第二十六條 壯丁名簿進達前(市ニ在テハ)市町村ニ轉籍スル者アルトキハ市町村長ヨリ本人徵兵適齡屆書ヲ添ヘ轉籍地ノ市町村長ニ通知スヘシ但シ原籍地東京市、京都市、大阪市ナルトキハ區長ヨリ又轉籍地同三市ナルトキハ區長ニ通知スヘシ

第二十七條 壯丁名簿進達後條例第三十一條ノ處分前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ市町村ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ抽籤前ハ島司郡長其ノ名簿ヲ訂正加除シ抽籤後ニ在テハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

市ニ在テ壯丁名簿調製後抽籤前本條ニ當ル者アルトキハ市長(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ)其ノ名簿ヲ訂正加除シ抽籤後條例第三十一條ノ處分前ニ在テハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ(三十年省令第七號ヲ以テ改正)

第二十八條 現役兵入營前及補充兵(補充兵證書付與其ノ年十一月三十日以前ノ者)ノ名簿ニ關スル異動(轉入籍ヲ除ク)ヲ生シタルトキハ町

村長之ヲ島司郡長ニ報告シ島司郡長ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ
市ニ在テ前項ノ異動ハ市長之ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長ヨ
リ聯隊區司令官及市長ニ通知スヘシ

第二十九條 壯丁名簿受領後市ニ在テ抽籤前徵募區外ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ壯丁名簿
若クハ條例第二十七條ノ名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知スヘシ但シ原籍地東京市、京都
市、大阪市ナルトキハ區長ヨリ又轉籍地同ニ市ナルトキハ區長ニ通知スヘシ

第三十條 身體検査後抽籤前ハ他ノ徵募區ニ轉籍スルモ總テ舊徵募區ニ於テ之ヲ處分シ其ノ合格者ハ
新舊徵募區ノ最高番號ヲ率トシ比例ヲ以テ轉籍地徵募區同等番號ノ上位ニ列セシム但轉籍地徵募
區現役兵補充兵ノ裁決後ニ係リ要員ニ超過スルトキハ順次之ヲ繰下クヘシ
身體検査前抽籤ヲ終リタル徵募區ニ轉籍シタル者アルトキハ成ルヘク其ノ年便宜ノ徵兵署ニ呼出シ
身體検査ヲ爲シ置クヘシ

第三十一條 抽籤後徵集延期徵集猶豫若クハ入營延期翌年同ト爲リタル者ノ名簿ニ關スル異動ヲ生ス
ル者アルトキハ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ島司郡長ハ其ノ名簿ヲ訂正加除スヘシ但市ニ在テハ市
長 東京市、京都市、大 阪市ニ在テハ區長 之ヲ訂正加除スヘシ
其ノ徵募區外又ハ検査區外ニ轉籍スル者ハ島司郡市長ヨリ前項ノ名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市
長ニ通知スヘシ但シ原籍地東京市、京都市、大阪市ナルトキハ區長ヨリ又轉籍地同ニ市ナルトキハ區
長ニ通知スヘシ

第三十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官條例第四十九條現役兵入營前及補充兵轉籍ノ通報ヲ受ケ
タルトキハ之ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡長ハ町村長ニ達スヘシ但シ東京市、京都市、大阪市ニ在テ

ハ區長ニモ通知スヘシ

第三十三條 徵兵令第十三條第五項及條例第六十四條ニ當ル者アルトキハ町村長ハ戶籍ニ基キ壯丁名
簿ヲ作り島司又ハ郡長ニ差出シ市ニ在テハ市長其ノ名簿ヲ作ルヘシ但シ東京市、京都市、大阪市ニ在
テハ區長其ノ取扱ヲ爲スヘシ

第三十四條 現役兵入營ノ期ニ先タテ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵入營地若クハ集合地ニ
到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島司郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達スヘシ但シ東京
市、京都市、大阪市ニ在テハ尙ホ區長ヲ經由スヘシ

聯隊區外又ハ警備隊區外ニ轉籍シタル者ニ在テハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ其ノ召
集ノ場所及日時ヲ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司
令官ハ前項ノ例ニ依リ之ヲ各自ニ達スヘシ

第三十五條 條例第四十三條及第六十五條ニ依ル集合地ハ左ノ如シ

麻布、横濱、高崎、長野、佐倉、 水戸、本郷、宇都宮聯隊區ハ	近衛兵 集合地	東 京	海軍兵 集合地	横 須 賀	第七師團 兵集合地	宇 都 宮
仙臺、福島聯隊區ハ	同	白 河	同	白 河	同	仙 臺
新發田、柏崎聯隊區ハ	同	直 江 津	同	直 江 津	同	仙 臺
弘前、盛岡、秋田、山形聯隊區ハ	同	仙 臺	同	仙 臺	同	青 森
名古屋、津、豊橋、静岡聯隊區ハ	同	沼 津	同	四 日 市		
金澤、富山聯隊區ハ	同	直 江 津	同	敦 賀		
鯖江、岐阜聯隊區ハ	同	名 古 屋	同	敦 賀		

徵兵事務條例施行細則

大阪、和歌山、大津、京都聯隊區ハ	同	京都	同	神戸
福知山、神戸、姫路、鳥取聯隊區ハ	同	神戸	同	姫路
廣島、尾道、山口、濱田聯隊區ハ	同	尾道	同	吳
九龍、德島、松山聯隊區ハ	同	九龍	同	九龍
高知聯隊區ハ	同	神戶	同	神戶
熊本、大村、鹿兒島、宮崎、小倉、大分、福岡、佐賀聯隊區ハ	同	門司	同	佐世保
札幌、函館、旭川、釧路聯隊區ハ	同	青森	同	青森
對馬警備隊區ハ	同	門司	同	青森

第三十六條 東京衛戍及大阪衛戍ニ入營セシムル現役兵ハ條例第四十三條但書ニ依リ引率員ヲ附シ之ヲシテ當該隊長ニ交附セシム對馬要塞砲兵隊ニ入營セシムル現役兵亦同シ

第三十七條 近衛師團第七師團及海軍現役兵入營ノ期ニ先タチ近衛師團第七師團司令部及海兵團ニ於テ入營兵集合地ヨリ入營地ニ到ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ各聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第三十八條 條例第四十四條ノ入營延期願濟ノ者其ノ他事故不參ノ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ入營地或ハ集合地派遣ノ聯隊區又ハ警備隊司令官ヨリ各隊長又ハ近衛師團若ハ海軍入營兵受領員ニ其ノ由ヲ通知スヘシ

第三十九條 條例第四十六條ニ依リ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ現役兵ノ缺員ヲ補フニハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ其ノ取扱ヲ爲スヘシ但他ノ聯隊區又ハ警備隊區ニ轉籍シタル者ニシテ入營セサル者ノ補缺ハ轉籍地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ノ通知ヲ得テ其ノ取扱ヲ爲スヘシ

現役兵入營後ノ補缺ハ各隊長又ハ海兵團長ヨリ當該聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スルモノトス

第四十條 入營地又ハ集合地派遣ノ聯隊區司令部員又ハ警備隊司令部員ハ現役兵交附ノ際ニ於テ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ一時入營ヲ差止メ其ノ診斷證書ヲ添ヘ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ具申スヘシ

第四十一條 現役兵第一補充兵及現役兵ニ繰上ケタル海軍補充兵ハ島司郡市長（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長）ヨリ各自ノ戶籍寫ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送附シ聯隊區司令官ハ第一補充兵ニシテ現役兵ニ繰上ケサル者ヲ除クノ外之ヲ各隊長又ハ海兵團長ニ送附スヘシ（三十年省令第七號ヲ以テ改正）

第四十二條 條例第四十九條及本則第二十八條ニ當ル現役兵入營前ノ異動ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官（條例第四十九條ノ異動ハ轉籍地ノヨリ各隊長又ハ海兵團長ニ通知スヘシ）

第四十三條 現役兵入營前徵集延期若クハ入營延期翌年回ト爲リタル者又ハ兵役免除ト爲リタル者ノ名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ島司郡市長ニ送附スヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ尚ホ市長ヨリ區長ニ送附スヘシ

前項ノ名簿中入營延期翌年回ト爲リタル者ノ名簿ハ島司郡市長（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長）之ヲ徵集延期名簿ニ編入スヘシ

第四十四條 補充兵ニシテ他ノ徵募區ニ轉籍（抽籤後其ノ年十一月三十日迄ニ係ルモノヲ包含ス）シタル者ハ新舊住地徵募區同種補充兵最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシムヘシ（三十年省令第七號ヲ以テ改正）

第四十五條 前條ノ轉籍者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ島司郡市長ニ通知スヘシ但シ東京市、京都市、大阪市ニ在テハ尚ホ區長ニ通知スヘシ

其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官其ノ名簿ヲ添ヘ舊住地徵募區ノ同種補充兵最高ノ抽籤番號ヲ轉籍地ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第四十六條 現役兵入營前及補充兵ニシテ轉籍シタル者ノ現役兵證書、補充兵證書ハ總テ轉籍地ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ訂正スヘシ

第四十七條 現役兵證書、補充兵證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ更ニ下渡ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ請求シ徵集延期證書、徵集猶豫證書及兵役免除證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ更ニ下渡ヲ島司郡市長（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長）ニ請求スヘシ

第四十八條 條例第五十條ノ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ハ成年以上ノ男子ニ限ル

第四十九條 條例第五十三條及第六十三條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ許可シタルトキハ島司郡市長ハ附錄第一様式ニ準シ假壯丁名簿ヲ作り徵兵署ニ提出スヘシ

前項ノ者身體検査終ルトキハ假壯丁名簿ニ検査ノ結果及兵種選定ノ見込ヲ記入シ直ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ送附スヘシ

第五十條 條例第五十三條及第六十三條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ検査ヲ受ケタル者本籍徵募區ノ抽籤前日迄ニ前條第二項ノ名簿到達セサルトキハ其ノ年ノ検査成績ニ依リ翌年假決若クハ終決ノ處分ヲ爲スヘシ（三十年省令第七號ヲ以テ追加）

第五十一條 條例第五十一條ノ願書ハ附錄第八様式ニ依リ身元證書ハ附錄第九様式ニ依リ合格證書ハ附錄第十様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

附則
第五十二條 第二條中明治二十八年勅令第二百二十六號第三條ニ當ル者ノ人名書ハ明治二十九年ニ於テ

ハ明治二十八年陸軍省令第三十號第三項ニ依リ作りタル名簿ヲ以テ之ニ換フヘシ
第五十三條 本則中町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長又ハ之ニ準スヘキモノトス

○徵兵事務條例施行細則中北海道及沖繩縣並小笠原島

ニ施行シ難キ諸件ニ關スル件 明治三十一年三月十九日 陸軍省令第三號

- 一 徵兵事務條例施行細則中北海道及沖繩縣並小笠原島ニ施行シ難キ諸件ハ當分左ノ諸項ニ依リ屬スヘキ者ニハ身體検査ヲ施行セス（三十二年省令第十號ヲ以テ改正）
- 二 明治三十年勅令第二百五十八號ニ依リ徵集免除徵集猶豫ニ屬スル者ニハ徵兵事務條例施行細則第九條ノ例ニ依リ徵集猶豫證書ヲ付與シ又ハ徵集免除ノコトヲ達スヘシ其ノ徵集免除又ハ徵集猶豫願ヲ許可セサル者ニハ徵兵事務條例施行細則第十條ノ例ニ依リ裁決書ヲ付與スヘシ
- 三 沖繩警備隊區ニ於テ要員ヲ充スコト能ハサルトキハ警備隊區司令官ヨリ第六師團長ニ第六師團長ハ之ヲ陸軍大臣ニ具狀スヘシ
- 四 徵兵事務條例施行細則第二十五條ニ依ル第六師管徵兵表其一中沖繩警備隊區ヨリ第十二師團ニ徵集スル現役兵ノ人員ハ之ヲ朱書シ第六師團ニ徵集スルモノト區分スヘシ
- 五 沖繩縣ノ島司郡區長ハ現役兵及第一補充兵現役兵ニ線上ケタル海軍補充兵ノ戶籍寫ヲ警備隊區司令官ニ送附スヘシ

- 令官ニ送付シ警備隊區司令官ハ第一補充兵ニシテ現役兵ニ繰上ケサル者ヲ除ク外之ヲ各隊長又ハ海兵團長ニ送付スヘシ
- 六 徵兵事務條例補則第十一條ノ引率吏員ハ現役兵交付ノ際徵兵事務條例第四十四條ノ入營延期願濟ノ者其他事故不參者ノ人名ヲ各隊或ハ海兵團ニ通知シ又引率ノ際永久兵役ニ堪ヘ難キト認ムル者アルトキハ警備隊區司令官ニ通知スヘシ
- 七 徵兵事務條例施行細則中ニ記載スル警備隊司令官ノ職務ハ沖繩警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官之ヲ行フ
- 沖繩縣ニ在テ市長ノ職務ハ區長、市書記ノ職務ハ區書記、町村長ノ職務ハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ
- 北海道ニ在テ郡市長ノ職務ハ北海道廳支廳長、郡市書記ノ職務ハ北海道廳支廳ノ屬之ヲ行ヒ小笠原島ニ在テ町村長ノ職務ハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ
- 八 前諸項中警備隊區ニ係ル事項ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス其以前ニ在テ警備隊區司令官ノ職務ハ聯隊區司令官之ヲ行フ

○陸軍六週間現役兵條例

明治二十八年十月四日 勅令第四百一十一號

朕陸軍六週間現役兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍六週間現役兵條例

- 第一條 徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシムヘキ者ハ教職ニ就キタル年若クハ其ノ翌年ニ於テ其ノ居住地師管内ノ歩兵隊警備隊ヲ置ク島嶼ニ在テハ警備隊ニ編入シ服役セシムニ編入シ服役セシム
- 第二條 六週間現役兵ノ入營期日ハ毎年六月一日（舊曆ニ在テハ十月一日）トス但疾病其ノ他ノ事故ニ由リ期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キ者ハ翌年徵集ス
- 第三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ其徵集ヲ延スコトアルヘシ
- 第三條 現役服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス
- 第四條 六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ隊長警備隊ニ在テハ司令官以下ニ徵テ其ノ責ニ任ス
- 第五條 六週間現役兵中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ材幹アル者ニハ聯隊長其ノ成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長臺灣ニ在テハ旅團長ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス
- 第六條 六週間現役兵ノ身體検査ハ入營スヘキ年ニ於テ一般ノ徵兵検査ト同時ニ之ヲ行フ徵集ニ適セサル者ハ徵兵検査規則ニ照シ處分ス
- 北海道臺灣及沖繩縣ニ在ル者ノ身體検査ニ關スル規程ハ陸軍大臣別ニ之ヲ定ム
- 第七條 検査往復旅費及入營旅費ハ官給ス
- 附 則
- 第八條 北海道ニ在ル者ハ第七師管ニ常備歩兵隊ヲ置ク迄ハ第二師管ノ歩兵隊ニ編入シ服役セシム

第三十二年勅令
第四百一十五號
以下第一條以下
改正

第九條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス
明治二十三年勅令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○陸軍六週間現役兵條例施行細則 明治三十年四月五日
陸軍省令第九號

陸軍六週間現役兵條例施行細則左ノ通改正ス

陸軍六週間現役兵條例施行細則

- 第一條 六週間現役兵ノ身體検査ハ教職ニ就キタル年居住地所在ノ聯隊區内又ハ警備隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ之ヲ行フ但其ノ年ノ入營期日ニ切迫シ若クハ入營期日後教職トナリタル者ハ翌年廻トス
- 第二條 府縣廳ニ於テハ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り身體検査ニ先テ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官以下同シニ送付シ検査ノ手續ヲ協議スヘシ但官立小學校ノ教職モ亦本文同様該校所在府縣ニ於テ取扱フヘシ
- 第三條 聯隊區司令官警備隊司令官ハ六週間現役兵ノ身體検査ニ關シテハ尋常徵兵ト同一ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ附錄第一様式ノ合格證書ヲ付與シ其ノ名簿ヲ師團長ニ差出シ且其ノ成績ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ
- 其ノ徵集ニ適セサル者ハ徵集延期徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集延期名簿ヲ北海道廳又ハ府縣廳ニ送付シ合格者並ニ徵集延期者ノ人名書徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ本籍所管ノ島司郡市

三十一年三月
省令第四號ヲ
以テ第二條以
下改正

三十二年四月
省令第九號ヲ
以テ第三條以
下改正

長 北海道ニ在テハ北海道廳支廳長、東京市、京都市、ニ送付スヘシ
大阪府及沖繩縣ノ區ニ在テハ區長以下同シ

- 第四條 師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ適宜之ヲ各隊ニ配付スヘシ
- 第五條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師團長地方官協議ノ上時宜ニ依リ教職ニ就クヘキ年身體検査ヲ爲シ又北海道ニ在テハ居住地所在ノ聯隊區外ニ於テ身體検査ヲ爲スコトヲ得
- 第六條 身體検査後入營前教職ヲ罷メタル者アルトキハ道廳府縣廳ヨリ直ニ師團司令部ニ通報スヘシ
- 第七條 臺灣ニ在ル者ノ身體検査ハ左ノ諸項ニ依リ施行スヘシ
 - 一 總督府ニ於テハ身體検査ヲ受クヘキ者ヲ調査シ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り最寄ノ歩兵隊ニ送付シ身體検査ヲ施行セシムヘシ
 - 二 歩兵隊長ハ第三條第一項ニ準シ身體検査及徵否ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ合格證書ヲ付與シ合格者及徵集延期ニ屬スル者ノ名簿ヲ總督府ニ差出シ總督府ニ於テハ第四條ニ準シ合格者ヲ各歩兵隊ニ配賦スヘシ
 - 三 歩兵隊長ハ合格者及徵集延期ニ屬スヘキ者ノ人名書若クハ徵集ニ適セサル者ノ名簿ヲ添へ本籍所管ノ聯隊區又ハ警備隊區徵兵官ニ通知シ該徵兵官ハ其ノ徵集ニ適セサル者ノ處分ヲ爲スヘシ
- 第八條 六週間現役兵退營スルトキハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ其ノ隊長警備隊ニ在テハ該司令官以下同シハ該名簿ヲ本籍所管ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ聯隊區司令官警備隊司令官ハ之ヲ島司郡市長ニ送付スヘシ
- 條例第五條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタル者アルトキハ聯隊長其ノ旨ヲ名簿ニ記載シ其ノ國民軍幹部適任證書ハ附錄第二様式ニ準シ調製スヘシ
- 第九條 國民軍幹部適任證書ヲ授與セラレタル者ニシテ懲戒處分ヲ受ケ又ハ家資分散若クハ破産ノ宣

陸軍六週間現役兵條例施行細則

告ヲ受ケ若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ證書ヲ返還セシム
第十條 前諸條ニ掲クルモノノ外ハ師團長及道廳長官府縣知事協議ノ上之ヲ定メ臺灣ニ在テハ臺灣總
督之ヲ定ムヘシ

附則

明治三十年ニ於テ徵募スル六週間現役兵ノ身體検査ハ聯隊區司令部若クハ聯隊區内便宜ノ地ニ於テ施
行スルコトヲ得
(様式畧ス)

○陸海軍兵籍ニ編入スル學生生徒トナリ又ハ之ヲ免セラレタル者
届出方 明治二十九年七月十三日
陸軍省令第十六號

- 一 陸海軍兵籍ニ編入スル學生生徒トナリ又ハ之ヲ免セラレタル者届出方左ノ通定ム
一年齡二十歳未満ノ者ニシテ陸海軍兵籍ニ編入スル學生生徒トナリタルトキハ其ノ戶主ヨリ二十歳
トナル年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ市町村長 東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル
地方ニ在テハ區戸長及之ニ準メヘキ者以下同シニ届出
ヘシ年齡二十歳以上ノ者ニシテ徵兵事務條例ニ依リ終決ノ處分ヲ受ケサル者ニ在テハ學生生徒ト
ナリタル日ヨリ十四日以内ニ届出ヘシ
- 二 前項届出ヲ爲シタル者傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依リ學生生徒ヲ免セラレ豫備役又ハ後備役編入、
常備後備ノ役又ハ兵役免除ノ處分ヲ受ケサルトキハ本人ヨリ十四日以内ニ市町村長ニ届出ヘシ但

年齡二十歳未満ニシテ本文兵役ニ關スル處分ヲ受ケタル者亦同シ

- 三 陸海軍兵籍ニ編入セラレタル學生生徒 年齡二十歳前
後ヲ問ハズニシテ將校同相當官准士官下士又ハ兵卒トナリ
タルトキハ本人ヨリ十四日以内ニ市町村長ニ届出ヘシ
- 四 第一項及第二項 但書ヲ
除クノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○陸軍召集條例 明治三十二年十月七日
勅令第三百九十八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ陸軍召集條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍召集條例

第一章 總則

- 第一條 召集及簡閱點呼ハ在郷軍人及國民兵本籍地所管ノ師團長之ヲ掌ル
將官同相當官ノ召集ハ本條例ノ規定ニ依ラス師團長直ニ之ヲ行フ
- 第二條 戒嚴ヲ宣告シ得ル權アル司令官時機切迫シテ命ヲ請フ途無キトキハ獨斷シテ充員召集補充召
集及國民兵召集ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テ該司令官ハ召集ニ關シ師團長ト同一ノ職權ヲ有
ス
- 第三條 召集事務ニ關シ師團長ノ定メタル規定ハ警視總監地方長官憲兵隊長及其ノ各所部ノ官吏公吏
之ヲ遵行スヘシ

陸海軍兵籍ニ編入スル學生生徒トナリ又ハ之ヲ免セラレタル者届出方 陸軍召集條例

師團長ノ定メタル規定ニシテ公示ヲ要スルモノハ明治二十六年勅令第九十九號ノ規定ヲ準用ス

第四條 師團長ハ定期又ハ臨時ニ地方官廳及公署ニ於ケル召集事務ノ整否ヲ檢閲シ又ハ部下將校ヲシテ之ヲ檢閲セシムヘシ

警視總監地方官憲兵司令官及憲兵隊長ハ其ノ所部召集事務ノ整否ヲ檢閲シ又ハ部下官吏ヲシテ之ヲ檢閲セシムヘシ

第五條 在郷軍人ノ召集ニハ召集令狀ヲ用キ召集部隊到着地及到着日時ヲ指定シ簡閱點呼ニハ點呼令狀ヲ用キ點呼場及到着日時ヲ指定ス

國民兵ノ召集ニハ召集令狀ヲ用キシテ召集令ヲ達ス

第六條 應召員ノ到着スル地ニハ召集事務所ヲ設ク

第七條 召集ニ應スル爲旅行ヲ爲ス者ニハ其ノ出發前ニ於テ旅費ヲ給ス但シ一日行程以内ヲ旅行シタル後之ヲ給スルコトヲ得國民兵ニ在テハ到着地ニ到着シタル後之ヲ給スルコトヲ得

第八條 町村長ハ在郷軍人名簿及第一國民兵名簿ヲ調製シ常ニ其ノ異動ヲ訂正スヘシ

第九條 本條例中在郷軍人トアルハ豫備役後備役ノ將校同相當官准士官下士兵卒雜卒職工ヲ包含ス以下同シ 歸休兵及補充兵ヲ謂フ

第十條 本條例中到着地トアルハ召集部隊ノ所在地及應召員ノ召集部隊ニ到ル途中ニ於テ集合場ヲ設ケタル地ヲ謂フ

應召員トアルハ召集ニ應スヘキ者ヲ謂フ

第十一條 本條例中聯隊區司令部トアルハ警備隊司令部又ハ警備隊區司令部、聯隊區トアルハ警備隊區、郡トアルハ島司ヲ置キタル島嶼、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在テハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者、島司又ハ郡長ニ準スヘキ者無キ島嶼ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者、東京市京都市大阪市及北海道沖繩縣ノ區ニ在テハ區、北ニ該管ノ管轄區、市 北海道ノ區制ヲ施行セサル地方ニ在テハ支廳長ノ管轄區ニ該當ス

第十二條 本條例中聯隊區司令官ノ職務ハ警備隊區ニ在テハ警備隊司令部又ハ警備隊區司令部、郡長ノ職務ハ島司ヲ置キタル島嶼ニ在テハ島司、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在テハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者、北海道ノ區制ヲ施行セサル地方ニ在テハ支廳長、郡長及町村長ノ職務ハ市ニ在テハ市長、東京市京都市大阪市及北海道沖繩縣ノ區ニ在テハ區長、島司郡長又ハ之ニ準スヘキ者ヲ置カサル島嶼ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者、町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第十三條 島嶼ニ於テ本條例中ノ規定ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第十四條 動員ニ方リ休職停職ノ將校同相當官准士官ヲ就職セシメ及十二月一日以後ニ於テ未タ入營セサル現役兵ヲ徵集スルニハ充員召集ノ方法ニ依ル

第二章 充員召集

第一款 通則

第十五條 充員召集トハ動員ニ方リ諸部團隊ノ要員ヲ充足スル爲在郷軍人ヲ召集スルヲ謂フ

第十六條 充員召集事務ニ關シ職責アル者ハ平時之ニ關スル諸件ヲ計畫準備シ召集實施ニ方リ其ノ事務ニ關シ訓示ヲ請フコトヲ許サス

第二款 充員召集準備

第十七條 師團長ハ召集要員ヲ定メテ各聯隊區ニ配當ス聯隊區司令官ハ之ニ基キ各郡ノ充員召集名簿待命員名簿及充員召集令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第十八條 地方長官東京府ニ在テハ警視總監ハ召集實施ニ方リ應召員ノ宿泊ニ供スル爲軍用旅舎ヲ定メ其ノ他召集ヲ容易ナラシムル措置ヲ爲スヘシ

第三款 充員召集實施

第十九條 充員召集ハ動員令ニ依リ之ヲ實施ス

第二十條 師團長ハ動員令ヲ聯隊區司令官ニ達シ警視總監地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第二十一條 聯隊區司令官ハ動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡長ニ達スヘシ

第二十二條 地方長官東京府ニ在テハ警視總監ハ動員令ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ警察署長警察分署長ヲ包含ス以下同シニ達シ東京市京都市及大阪市ニ在テハ地方長官之ヲ市長ニ達スヘシ

憲兵隊長ハ動員令ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵分隊長ニ達スヘシ

第二十三條 郡長ハ動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ充員召集令狀ヲ町村長ニ送付スヘシ但シ演習召集教育召集中ノ者ノ令狀ハ之ヲ送付セサルモノトス

第二十四條 町村長ハ令狀ヲ受ケタルトキハ之ヲ應召員又ハ召集通報人休職停職者ニ軍需ノ命令ヲ通報スヘキ者ヲ包含ス以下同シニ交付シ召集通報人ヲ設ケサル不在者ニ在テハ其ノ戸主ニ交付シ受領證ヲ受取ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ戸主不在ナルトキハ其ノ家族中家事ヲ擔當スル者ニ令狀ヲ交付シ受領證ヲ受取ルヘシ

召集通報人不在ナルトキハ前二項ニ依ル

第二十五條 應召員ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ハ直ニ確實迅速ナル方法ヲ以テ召集部隊到着地及到着日時ヲ本人ニ通報本人ノ所在地ト到着地ト遠隔スル爲到着ヲ遅延スルシ其ノ令狀ヲ速ニ交付スルノ處置ヲ爲スヘシ

第二十六條 應召員ハ令狀又ハ召集ノ通報ヲ受ケタルトキハ令狀ヲ携ヘ指定ノ日時ニ到着地ニ到着シ召集事務所ニ届出ツヘシ但シ通報ヲ受ケタル者ニシテ令狀ヲ交付ヲ受クル爲到着ヲ遅延スルノ虞アル場合ニ於テハ令狀ヲ携フルヲ要セス

召集ノ通報ヲ受ケタル應召員ニシテ指定ノ日時ニ到着スルコト能ハサル者ハ所在地ノ憲兵又ハ警察官吏ニ就キ其ノ通報ヲ受ケタル日時及出發日時ノ證明書ヲ受ケ到着ノ上召集事務所ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ集合場ニ到着スヘキ者ハ直ニ召集部隊ニ到着スヘシ

第二十七條 應召員ニシテ動員ニ方リ演習召集又ハ教育召集中ノ者アルトキハ部隊長其ノ召集ヲ解除シ其ノ部隊ノ充員召集ニ應スヘキ者ハ直ニ之ヲ當該部隊ニ編入シ他ノ部隊ノ充員召集ニ應スヘキ者ニハ聯隊區司令官ヨリ受ケタル令狀ヲ交付スヘシ

第二十八條 應召員中令狀又ハ通報受領ノ際傷疾疾病ノ爲應召スルコト能ハサル者ハ令狀又ハ通報受領後二十四時間以内ニ聯隊區司令官ニ宛タル届書ニ醫師ノ診斷證書及令狀ヲ添ヘ之ヲ本籍地町村長ニ差出スヘシ但シ寄留又ハ旅行先ヨリ届出ツル者ハ本籍地町村長ニ宛發送スヘシ

令狀又ハ通報受領後出發迄ノ間ニ於テ傷疾疾病ノ爲應召スルコト能ハサルニ至リタル者ハ直ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

陸軍召集條例

リ令狀受領後二十四時間以内ニ聯隊區司令官ニ宛タル届書ニ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書及令狀ヲ添ヘ之ヲ本籍地町村長ニ差出スヘシ

第二項第二項ノ手續ヲ爲スニ方リ未タ令狀ヲ受領セサル者ハ受領後別ニ之ヲ差出スヘシ

第二十九條 前條ノ場合ニ於テ應召スルコト能ハサル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ本籍地町村長ニ届出テ指揮ヲ受クヘシ

町村長ハ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ聯隊區司令官ノ指定ニ基キ本人ニ出發ヲ命シ又ハ出發ヲ差止ムヘシ

前項ニ依リ出發スル者集合場ニ到着スヘキ者ナルトキハ直ニ召集部隊ニ到着スヘシ

第三十條 應召員ハ途中ニ於テ傷疾疾病ニ罹リ到着ヲ遅延スルノ虞アルトキハ直ニ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ召集部隊長ニ届出テ出發スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ速ニ到着ノ上召集事務所ニ届出ツヘシ

傷疾疾病ノ外止ムヲ得サル事故ニ因リ到着ヲ遅延スルノ虞アルトキハ其ノ地ノ郡長町村長憲兵警察官吏船長又ハ驛長ノ證明書ヲ受ケ到着ノ上召集事務所ニ届出ツヘシ

前二項ノ場合ニ於テ集合場ニ到着スヘキ者ハ直ニ召集部隊ニ到着スヘシ

第三十一條 應召員ハ非常事變ニ因リ交通斷絶シタル爲到着地ニ到着スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ最寄諸部團隊諸部團隊無キ地ニ在テハ郡長町村長憲兵又ハ警察官吏ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタル者ハ適宜ノ處置ヲ爲シ本人ヲシテ到着地ニ到着セシメ得ルニ至レハ證明書ヲ與ヘ出發セシムヘシ但シ集合場ニ到着スヘキ者ニ在テハ直ニ召集部隊ニ到着セシムヘシ

第三十二條 應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者ハ陸軍服役條例第八條第二十九條第八十條第

百十八條第百三十七條ノ例ニ依リ届出ツヘシ補充兵ニ在テハ同條例第百三十七條ノ例ニ依リ届出ツヘシ其ノ召集ニ應スル以前ノ寄留地ニ歸ル者ノ本籍地聯隊區司令官ニ差出スヘキ届書ニハ寄留地町村長ノ證明ヲ受クヘシ

第四款 充員召集ノ解除

第三十三條 充員召集ノ解除ハ復員令ニ依リ之ヲ實施ス

第三十四條 復員令ノ達及通知ニハ第二十條乃至第二十二條ヲ準用ス

第三十五條 郡長ハ復員令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

第三十六條 召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第三章 補充召集

第三十七條 補充召集トハ充員召集實施後缺員ヲ補充スル爲在郷軍人ヲ召集スルヲ謂フ

第三十八條 師團長ハ補充召集令ヲ聯隊區司令官ニ達シ警視總監地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第三十九條 聯隊區司令官ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ直ニ補充召集令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第四十條 郡長ハ令狀ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ送付スヘシ

第四十一條 補充召集ニ關シテハ第十六條第二十四條乃至第三十一條及第三十三條ヲ準用ス

應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者及召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第四章 國民兵召集
第四十二條 國民兵召集トハ國民軍ヲ動員スル爲國民兵ヲ召集スルヲ謂フ

國民兵召集ヲ分テ第一國民兵召集第二國民兵召集ノ二種トス

第四十三條 町村長ハ其ノ管内ニ在籍スル國民兵ノ人員表及退役將校同相當官准士官ノ名簿ヲ作り之ヲ郡長ニ差出スヘシ

第四十四條 郡長ハ前條ノ人員表及名簿ヲ受ケタルトキハ其ノ管内ニ在籍スル國民兵ノ人員表及退役將校同相當官准士官ノ名簿ヲ作り之ヲ警視總監地方長官及聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第四十五條 師團長ハ國民兵ヲ召集スルニハ召集スヘキ國民兵ノ種類年齢集合場其ノ他必要ノ事項ヲ聯隊區司令官ニ達シ其ノ種類年齢及集合場ヲ警視總監地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第四十六條 聯隊區司令官ハ國民兵召集令ノ達ヲ受ケタルトキハ召集スヘキ國民兵ノ種類年齢集合場及集合場到着日時ヲ郡長ニ達スヘシ

第四十七條 國民兵召集ニ關シテハ第二十二條ヲ準用ス

第四十八條 郡長ハ國民兵召集令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ達シ應召員到着日時前ニ吏員ヲ集合場ニ派遣スヘシ

第四十九條 町村長ハ國民兵召集令ノ達ヲ受ケタルトキハ直ニ應召員ニ其ノ旨ヲ達シ指定ノ日時迄ニ之ヲ集合場ニ引率シ聯隊區司令官又ハ聯隊區司令部ノ職員ニ交付スヘシ但シ將校同相當官准士官ハ直ニ集合場ニ到着スヘシ

第五十條 聯隊區司令官又ハ聯隊區司令部ノ職員ハ集合場ニ於テ應召員ノ身體検査ヲ行ヒ召集ニ適セサル者ハ歸郷セシムヘシ

第五章 演習召集
集合場ニ在ル郡ノ吏員ハ聯隊區司令官又ハ聯隊區司令部ノ職員ノ要求ニ應シ其ノ事務ヲ補助スヘシ

第五十一條 演習召集トハ演習ノ爲在郷軍人第二補充兵ヲ除クヲ召集スルヲ謂フ

第五十二條 臨時演習召集ハ本章ノ規定ニ依ラス臨時規定スルモノヲ除ク外第二章第三款及第四款ヲ準用ス

第五十三條 演習召集ハ本籍所在ノ師管ニ於テス但シ其ノ師管ニ於テ演習ヲ爲スヘキ部隊無キ者ハ他ノ師管ニ於テス

近衛師團ニハ第一師管外ニ在籍スル者ヲ召集スルコトアルヘシ

第五十四條 寄留地ニ於テ演習召集ニ應スヘキ許可ヲ受ケタル者ハ寄留地所管ノ師團長之ヲ召集ス

第五十五條 一年志願兵終末試験及第證書ヲ所持スル者ヲ士官ニ任スル爲行フ演習召集ニ關シテハ陸軍補充條例ニ依ルノ外仍本章ノ規定ニ依ル

第五十六條 師團長ハ演習召集ノ日時人員日數及部隊ヲ定メ之ヲ聯隊區司令官ニ達シ警視總監地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

前項ノ召集日數ハ演習ノ成績ニ依リ之ヲ増加スルコトアルヘシ

第五十七條 聯隊區司令官ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ演習召集令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第五十八條 應召員中傷痍疾病犯罪所在不明等ノ爲應召スルコト能ハサル者ハ應召員又ハ之ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ヨリ到着日時迄ニ聯隊區司令官ニ宛タル届書及其ノ令狀ヲ本籍地町村長寄留地ニ於テキ許可ヲ受ケタル者ニ在テハ寄留地町村長ニ差出スヘシ但シ傷痍疾病ニ係ルトキハ醫師ノ診斷證書犯罪所在不明等ニ係ルトキハ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添フヘシ

前項ノ手續ヲ爲スニ方リ未タ令狀ヲ受領セサル者ハ受領後別ニ之ヲ差出スヘシ

陸軍召集條例

第五十九條 應召員中父母ノ疾病危篤又ハ死亡ノ爲召集ノ延期ヲ願ハントスル者ハ將校同相當官准士

官ニ在テハ師團長、下士兵卒及補充兵ニ在テハ聯隊區司令官ニ宛タル願書ヲ本籍地町村長寄留地ニ於スヘキ許可ヲ受ケタル者ニ差出スヘシ但シ父母ノ疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ

第六十條 第五十八條ノ場合ニ於テ應召スルコト能ハサル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ本籍地町村

長寄留地ニ於テ召集ニ應スヘキ者ニ在テハ寄留地町村長ニ届出テ指揮ヲ受クヘシ

町村長ハ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ聯隊區司令官ノ指定ニ基キ本人ニ出發ヲ命シ又ハ出發ヲ差止ムヘシ

第六十一條 演習召集ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者及召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第六章 教育召集

第六十二條 教育召集トハ教育ノ爲第一補充兵ヲ召集スルヲ謂フ

第六十三條 聯隊區司令官ハ教育召集ノ達ヲ受ケタルトキハ教育召集令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第六十四條 教育召集ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者又ハ召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第七章 補缺召集

第六十五條 補缺召集トハ平時ニ於テ臨時ニ兵員ノ補缺ヲ要スルトキ歸休兵ヲ召集スルヲ謂フ

第六十六條 補缺召集ハ陸軍大臣ノ認可ヲ得テ師團長之ヲ行フ

第六十七條 聯隊區司令官ハ補缺召集ノ達ヲ受ケタルトキハ補缺召集令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第六十八條 補缺召集ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

第八章 簡閱點呼

第六十九條 簡閱點呼トハ豫備役後備役下士兵卒歸休兵及第一補充兵ヲ集合シテ之ヲ點檢査閱スルヲ謂フ

第七十條 師團長ハ簡閱點呼ノ時期ヲ定メ之ヲ聯隊區司令官ニ達スヘシ

第七十一條 師團長ハ部下ノ佐官又ハ尉官ニ簡閱點呼執行官ヲ命シ之ニ必要ナル訓示ヲ授クヘシ

第七十二條 聯隊區司令官ハ第七十條ノ達ヲ受ケタルトキハ點呼場點呼區域及點呼日割ヲ定メ之ヲ師團長ニ差出シ警視總監地方官憲兵隊長簡閱點呼執行官及郡長ニ通知スヘシ

第七十三條 地方長官東京府ニ在テハ警視總監及郡長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ地方長官東京府ニ在テハ警視總監ハ之ヲ警察署長、郡長ハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

憲兵隊長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵分隊長ニ達スヘシ

第七十四條 聯隊區司令官ハ點呼令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第七十五條 簡閱點呼ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

令狀又ハ參會ノ通報ヲ受ケタル者ハ指定ノ日時ニ點呼場ニ到着シ簡閱點呼執行官ニ届出

ツヘシ

第七十七條 町村長ハ簡閱點呼ニ參列シ簡閱點呼執行官ノ要求ニ應シ其ノ事務ヲ補助スヘシ又必要アルトキハ點呼參會者ニ訓示ヲ與フルコトヲ得

第七十八條 令狀又ハ參會ノ通報ヲ受ケタル者ニシテ傷疾疾病犯罪所在不明等ノ爲參會スルコト能ハサル者ハ本人又ハ本人ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ヨリ參會日時迄ニ簡閱點呼執行官ニ宛タル届書及其ノ令狀ヲ本籍地町村長^{寄留地ニ於テ簡閱點呼ニ參會スヘキ計}可テ受ケタル者ニ在テハ寄留地町村長ニ差出スヘシ但シ傷疾疾病ニ係ルトキハ醫師ノ診斷證書、犯罪所在不明等ニ係ルトキハ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添フヘシ

第七十九條 簡閱點呼執行官ハ遲參ノ爲簡閱點呼ヲ終ラサル者ニハ他ノ點呼場ヲ指定シテ參會ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ令狀ヲ作リ之ヲ交付シ受領證ヲ受取ルヘシ

第九章 罰則

第八十條 正當ノ事由無クシテ第二十五條ノ規定及之ヲ準用シタル規定ニ違背シタル者並簡閱點呼參會者ニシテ點呼場ニ於テ簡閱點呼執行官ノ命ニ服セス又ハ其ノ職務ノ執行ヲ妨害シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第八十一條 正當ノ事由無クシテ第二十六條第二項第二十八條第一項乃至第三項第二十九條第一項第三十條第一項第二項第三十一條第一項第五十八條第一項第六十條第一項第七十八條ノ規定及之ヲ準用シタル規定ニ違背シタル者並正當ノ事由無クシテ簡閱點呼ニ參會セサル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十二條 正當ノ事由無クシテ第三十二條ノ規定及之ヲ準用シタル規定ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第八十三條 臺灣ニ於テ演習召集教育召集及簡閱點呼ヲ行フニ際シテハ陸軍大臣適宜其ノ方法ヲ規定スルコトヲ得

第八十四條 豫備役後備役屯田兵下士卒ノ召集事務ニ關シ郡長町村長ノ職務ハ屯田兵村監視之ヲ行フ

第八十五條 士官適任證書所持者ヲ士官ニ任スル爲行フ演習召集ニ關シテハ第五十五條ヲ準用ス

第八十六條 當分ノ内第七師團ニ於テハ演習ノ爲他ノ師管在籍ノ者ヲ召集スルコトヲ得

第八十七條 本條例ハ明治三十二年十月二十日ヨリ施行ス但シ師團長ハ七箇月以内一部ノ施行ヲ延期シ舊令ニ依ルコトヲ得

○陸軍召集條例施行細則 三十二年十月十一日 陸軍省令第二十九號

陸軍召集條例施行細則左ノ通定ム

第一章 總則

第一條 召集ニ關係アル官吏公吏ハ動員手簿ヲ作リ之ニ充員召集補充召集及國民兵召集ニ關シ自ラ計畫準備シタル事項ノ要領ヲ記シ召集實施ニ方リ其ノ景況及參考ト爲スヘキ事項ノ要領ヲ記スヘシ
第二條 召集ニ關係アル官吏公吏ニ於テ召集ニ關シ保管スル諸名簿及諸表ハ其ノ異動ヲ知リタル毎ニ直ニ訂正スヘシ

第三條 動員令^{第一}及國民兵召集令ノ通達ハ至急官報ノ電信、使丁等確實迅速ノ方法ヲ用キルモノトス其ノ使丁ヲ用キルトキハ一時間ニ一里半ノ行進速度ヲ以テ基準トス
充員召集令狀ヲ郡長ヨリ町村長ニ送付シ及市町村長ヨリ各自ニ交付スル爲ニ用キル使丁行進速度ノ基準モ前項ニ依ル

第四條 前條ノ電信ヲ受領シタル者ハ其ノ電信ノ全文^{第二}ヲ至急官報ヲ以テ返電スヘシ

第五條 充員召集補充召集及國民兵召集實施ニ方リ其ノ事務ニ係ル文書^{第三}ヲ發送スルニハ動員用封筒^{第三}ヲ用ウヘシ其ノ文書ヲ受領シタル者ハ封筒上ニ設ケタル位地ニ受領時刻ヲ記入シ捺印ノ上返付スヘシ但シ本人ニ代テ受領シタル者ハ其ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ

第六條 市町村長ヨリ各自ニ交付スルニハ普通ノ封筒ヲモ用キサルモノトス
軍人名簿又ハ第一國民兵名簿ニ記載セル事項ヲ轉籍地市町村長ニ通知スヘシ但シ第一國民兵ニ係ルトキハ仍其ノ戰時名簿ヲ送付スヘシ

第七條 郡長ハ令狀送付^{第四}ヲ作リ令狀ヲ町村長ニ送付スルニ方リ同時ニ送付スヘシ

第八條 師團長警視總監地方長官憲兵司令官及憲兵隊長ハ條例第四條ノ檢閲ヲ爲シタルトキ及爲サシメタルトキハ其ノ狀況ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ憲兵隊長ノ報告ハ憲兵司令官ヲ經由スヘシ

第九條 師團長ハ召集事務ニ關シ規定ヲ定メタルトキハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ其ノ規定ヲ公示シタル場合ニ於テハ仍其ノ旨ヲ報告スヘシ

第十條 本則中何日迄ニ何日以内ニ又ハ前何日ニ達、通知、送付、差出、報告スヘシトアルハ到達ノ期日ヲ謂フ

第十一條 本則中聯隊區司令官ノ職務ハ警備隊區ニ在テハ警備隊司令官又ハ警備隊區司令官、郡長ノ職務ハ島司ヲ置キタル島嶼ニ在テハ島司、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在テハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者、北海道ノ區制ヲ施行セサル地方ニ在テハ支廳長、市長ノ職務ハ東京市京都市大阪市及北海道沖繩縣ノ區ニ在テハ區長、島司郡長又ハ之ニ準スヘキ者ヲ置カサル島嶼ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者、町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第二章 充員召集

第一款 充員召集準備
第十二條 郡市長ハ聯隊區司令官ヨリ充員召集名簿待命員名簿及充員召集令狀^{第五}ヲ受ケタルトキハ其ノ令狀ヲ充員召集名簿ニ照較シ動員ノ區分ニ從ヒ各別^{郡長ニ在テハ先ツ動員ノ區分ニ從ヒ町村}ニ袋ニ納レ保管スヘシ

第十三條 郡市長ハ聯隊區司令官ヨリ充員召集名簿待命員名簿訂正ノ通知及其ノ訂正ニ伴フ令狀ヲ受ケタルトキハ該名簿ヲ訂正シ令狀ハ前條ノ例ニ依リ保管スヘシ不用ニ歸シタル令狀アルトキハ之ヲ聯隊區司令官ニ返付スヘシ

第十四條 郡市長ハ演習召集教育召集中ノ者及短期在營ノ現役兵ニシテ入營中ノ者ノ充員召集令狀ハ其ノ召集又ハ入營期間別ニ保管スヘシ

第十五條 郡市長ハ在郷軍人死亡轉籍其ノ他異動ノ届書ヲ受ケタルトキハ充員召集名簿待命員名簿ヲ訂正シ其ノ届書ニ令狀ヲ添ヘ聯隊區司令官ニ送付スヘシ但シ管内ニ於テ轉籍シタル者又ハ氏名ヲ變更シタル者ニ在テハ名簿及令狀ヲ訂正スヘシ

第十六條 警視總監地方長官ハ集會場ニ於ケル召集事務所ノ準備ニ關シ師團長ヨリ通知ヲ受ケタルト

キハ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第十七條 地方長官東京府ニ在テハ軍用旅舎ヲシテ召集實施ニ方リ二十日間旅舎ニ掲クヘキ看板及標旗
第六 又ハ標燈第七 式ヲ準備セシムヘシ但シ平常之ヲ掲ケシムルモ妨無シ

第十八條 地方長官東京府ニ在テハ師團長ノ通知ニ基キ必要ノ事項ヲ警察署長及警察分署長ニ指示シテ
集會場ニ於ケル召集事務所其ノ他必要ノ地ニ警察官吏ヲ派遣スルノ準備ヲ爲サシムヘシ但シ憲兵ノ
配置アル地方ニ在テハ警察官吏ヲシテ豫メ之ト協議セシムヘシ

第十九條 憲兵ハ警察官吏ト協議シテ集會場ニ於ケル召集事務所其ノ他必要ノ地ニ部下憲兵ヲ派遣ス
ルノ準備ヲ爲スヘシ但シ衛戍地ニ於ケル召集事務所ニ關シテハ憲兵ノ主務トシテ準備スヘキモノト
ス

第二款 充員召集實施

第二十條 郡市長ハ動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ到著日數ヲ動員令ニ示ス動員第一日ヨリ起算シテ實
際ノ曆日ニ換算シ令狀表面到著日時ヲ記入スヘキ空位ニ記入シ直ニ豫定ノ方法ヲ以テ郡長ハ之ヲ町
村長ニ送付シ市長ハ之ヲ各自ニ交付スヘシ但シ第十四條ニ依リ保管スル令狀ハ此ノ限ニアラス

第二十一條 町村長ハ郡長ヨリ令狀ヲ受ケタルトキハ直ニ豫定ノ方法ヲ以テ之ヲ各自ニ交付スヘシ
第二十二條 郡長ハ聯隊區司令官ノ通知ニ基キ傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ因リ應召スルコト能ハサル者
事故止ミ町村長ニ届出テタル場合ニ於テ之ヲ出發セシムヘキ最終期日ヲ町村長ニ達スヘシ
第二十三條 市町村長ハ令狀ヲ交付ヲ終リタルトキハ直ニ其ノ發送及交付ヲ終リタル月日時時刻及交付
人員ヲ市長ハ聯隊區司令官ニ通知シ町村長ハ郡長ニ報告スヘシ

市町村長ハ令狀ノ受領證ニ依リ令狀ヲ交付シタル者ノ人名及其ノ召集部隊ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通
知スヘシ

全家所在不明等ノ爲令狀ヲ交付スルコト能ハサル者アリタルトキハ其ノ人名及事由ヲ市長ハ聯隊區
司令官及憲兵又ハ警察官吏ニ通知シ町村長ハ郡長ニ報告シ憲兵又ハ警察官吏ニ通知スヘシ
前三項ノ手續ヲ終リタル後令狀ヲ交付シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ前項ノ例ニ依リ報告及通知スヘ
シ

第二十四條 市町村長ハ傷疾疾病犯罪所在不明等ノ爲應召スルコト能ハサル者ノ届書及令狀ヲ受ケタ
ルトキハ調査ノ上其ノ届書ハ毎日之ヲ取纏メ市長ハ聯隊區司令官ニ町村長ハ郡長ニ差出シ令狀ハ之
ヲ保管スヘシ又其ノ人名及事由ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通知スヘシ
前項ノ應召スルコト能ハサル者其ノ事故止ミ市町村長ニ届出テタルトキハ市長ハ聯隊區司令官ニ町
村長ハ郡長ノ通達ニ基キ出發セシムヘキ期日前ナルトキハ其ノ令狀ノ餘白ニ事由及出發日時ヲ記シ
之ヲ本人ニ交付シテ出發セシムヘキ期日後ナルトキハ其ノ出發ヲ差止メ其ノ旨ヲ市長ハ聯隊區司令官及
憲兵又ハ警察官吏ニ通知シ町村長ハ郡長ニ報告シ憲兵又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

第二十五條 市町村長ハ全家所在不明等ノ爲交付スルコト能ハサル令狀及應召セサル爲返付ヲ受ケタ
ル令狀アルトキハ市長ハ其ノ人名及事由ヲ待命員名簿ニ記入シ其ノ令狀ハ召集期日後二十五日以内
ニ聯隊區司令官ニ送付スヘシ町村長ハ其ノ令狀ヲ取纏メ召集期日後十五日以内ニ郡長ニ差出スヘ
シ

市長ハ第十四條ニ依リ保管スル令狀アルトキハ前項ノ令狀ト共ニ送付スヘシ
第二十六條 市町村長ハ令狀ノ受領證ヲ編綴シ召集期日後三十日間保存スヘシ

陸軍召集條例施行細則

第二十七條 郡長ハ第二十三條第一項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ一表ニ作リ之ニ令狀ノ發送ヲ終リタル月日時刻及各町村長ノ令狀ヲ受領シタル月日時刻ヲ記入シ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第二十八條 郡長ハ第二十三條第三項第四項及第二十四條ノ報告及屆書ヲ受ケタルトキハ毎日之ヲ取纏メテ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第二十九條 郡長ハ第二十五條ノ令狀ヲ受ケタルトキハ其ノ人名及事由ヲ待命員名簿ニ記入シ其ノ令狀ハ召集期日後二十五日以内ニ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第三十條 憲兵又ハ警察官吏ハ勅員令ノ達ヲ受ケタルトキハ軍用旅舎ニ勅員ヲ命セラレタル旨ヲ告知シ看板及標旗又ハ標燈ヲ掲ケシムヘシ

第三十一條 憲兵及警察官吏ハ豫定ノ召集事務所其ノ他必要ノ地ニ出張シ應召員ニ便宜ヲ與フヘシ但シ停車場司令部ノ設ケアル停車場ニ在テハ該司令部ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十二條 郡市長ハ聯隊區司令官ヨリ應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者及復員ニ先チ召集ヲ解除セラレタル者ノ人名及事由ヲ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ待命員名簿ニ記載後備役補充兵役又ハ兵役ニ堪ヘサル者ヲ除ク

第三十三條 町村長ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

第三十四條 憲兵及警察官吏ハ遠令ノ者無カラシムル爲相當ノ處置ヲ爲シ必要ニ應シ其ノ景況ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第三款 充員召集ノ解除

第三十五條 警視總監地方長官憲兵隊長及聯隊區司令官ノ復員令ヲ通達スルニハ電信ヲ用キス使丁又

ハ郵便ニ依ルヲ例トス

第三十六條 郡市長ハ聯隊區司令官ヨリ復員ニ方リ召集ヲ解除セサル者召集ヲ解除スルモ歸郷セシメサル者ヲ包含スノ人名及事由又ハ召集中部隊ヲ變更シタル爲召集解除ノ期日ヲ異ニスル者又ハ復員ニ方リ現役ヨリ豫備役後備役ニ轉入スヘキ者ノ人名ノ通知ヲ受ケタルトキハ郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ市長ハ之ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

第三十七條 町村長ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

第三十八條 憲兵及警察官吏ハ復員令ノ達ヲ受ケタルトキハ遠令ノ者無カラシムル爲相當ノ處置ヲ爲シ必要ニ應シ其ノ景況ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第三章 補充召集

第三十九條 郡市長ハ聯隊區司令官ヨリ補充召集令狀ヲ受ケタルトキハ直ニ待命員名簿ニ照較シ該名簿ニ召集部隊及到着期日ヲ記入シ郡長ハ其ノ令狀ヲ町村長ニ送付シ市長ハ其ノ令狀ヲ各自ニ交付スヘシ

待命員名簿ニ記載セサル者ヲ召集スル場合ニ於テハ前項ニ依リ該名簿ニ記載スヘシ

第四十條 補充召集ニ關シテハ第二十一條乃至第二十四條第二十五條第一項第二十六條乃至第二十八條第二十九條第一項第三十二條乃至第三十四條及第三十六條乃至第三十八條ヲ準用ス

第四章 國民兵召集

第四十一條 郡長ハ聯隊區司令官ヨリ第一國民兵役ニ轉入スヘキ者ノ人名書ヲ受ケタルトキハ之ヲ十月三十一日迄ニ町村長ニ送スヘシ

第四十二條 郡市長ハ聯隊區司令官ヨリ國民軍編入ヲ許可セラレタル指令ノ送付ヲ受ケタルトキハ郡

長ハ之ヲ町村長ニ送付シ市長ハ第一國民兵名簿ニ追記スヘシ

第四十三條 町村長ハ前條指令ノ送付ヲ受ケタルトキハ第一國民兵名簿ニ追記スヘシ

第四十四條 市町村長ハ國民兵ノ現在員國民兵役ニ轉入スヘキ者及國民軍編入ヲ許可サレタル者ニ基

キ國民兵人員表第八式及退役將校名簿第九式ヲ作り市長ハ十一月三十日迄ニ警視總監地方長官及聯隊區

同司令官ニ町村長ハ十一月十五日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

第四十五條 郡長ハ前條ノ人員表及名簿ニ基キ國民兵人員表及退役將校名簿ヲ作り十一月三十日迄ニ

警視總監地方長官及聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第四十六條 郡長ハ聯隊區司令官ヨリ第一國民兵役ニ轉入シタル者ノ戰時名簿ヲ受ケタルトキハ直ニ

之ヲ町村長ニ送付スヘシ

第四十七條 市町村長ハ第一國民兵役ニ轉入シタル者ノ戰時名簿ヲ受ケタルトキハ之ニ依テ其ノ人名

及其ノ他ノ事項ヲ第一國民兵名簿ニ追記スヘシ

第四十八條 市町村長ハ退役將校同相當官准士官ノ増減アリタルトキハ市長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ通

知シ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第四十九條 郡長ハ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第五十條 市町村長ハ應召員ヲ其ノ集合場ニ引率スルニ方リ應召員ノ人名書退役將校名簿第一國民兵

名簿及應召員ノ戰時名簿ヲ携帶スヘシ

第五十一條 警視總監地方長官ハ師團長ヨリ國民兵召集ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ國民軍ヲ成立

セシムル爲第一條ニ依リ計畫準備シタル事項ノ外臨機適應ノ處置ヲ爲スヘシ

第五章 演習召集、教育召集

第五十二條

師團長ハ演習又ハ教育ノ爲召集スヘキ者ノ兵種階級及兵役年級ヲ聯隊區司令官ニ送ス聯

隊區司令官ハ之ニ該當スル者ヲ調査シ其ノ管内ニ本籍ヲ有スル者及寄留ノ者ヲ區別シタル人員將校

召集スヘキ者ハ人名以下同シヲ師團長ニ報告ス師團長ハ之ニ依テ少クモ召集期日前二十日ニ召集ノ日時兵

種階級人員日數及部隊ヲ定メテ之ヲ諸部團隊長ニ送スヘシ

師團長ハ其ノ所管ニアラサル聯隊區司令官ニ前項ノ送ヲ爲サントスルトキハ其ノ所管師團長ニ通知

スヘシ所管師團長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ送スヘシ又聯隊區司令官ノ報告ハ所管師團長ニ差出スヘシ

該師團長ハ之ヲ召集部隊所管ノ師團長ニ送付スヘシ

第五十三條

師團長ハ師管内ニ演習召集ヲ爲スヘキ部隊無キ者アルトキハ演習ヲ爲サシメントスル部

隊所管ノ師團長ニ協議シテ召集日時等ヲ定メ前條第一項ノ例ニ依リ聯隊區司令官ニ送スヘシ部隊所

管ノ師團長ハ之ヲ部隊長ニ送スヘシ

第五十四條

師團長ハ士官ニ任スル爲演習ニ召集スヘキ者ノ中他ノ師管ニ居住ノ者ヲ召集スルニハ召

集ノ日時人員日數及部隊ヲ定メ少クモ召集期日前二十五日ニ本人居住地所管ノ師團長ニ通知スヘシ

該師團長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ送スヘシ其ノ居住地本籍地師管ナラサルトキハ仍本籍地所管ノ師團

長ニ通知スヘシ本籍地所管ノ師團長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ送スヘシ

第五十五條

聯隊區司令官ハ第五十二條乃至第五十四條ノ達ニ基キ速ニ召集名簿第十式及令狀第十一式

作り其ノ令狀ハ直ニ郡市長ニ送付シ其ノ名簿ハ召集期日前日ヨリ到着時刻迄ノ間ニ於テ召集部隊長

ニ送付スヘシ名簿調製後發送迄ノ間ニ異動ヲ生シタルトキハ該名簿應否事故ノ區畫ニ記入シ爾後ニ

生シタル異動ニシテ必要ナル事項ハ其ノ都度召集部隊長ニ通知スヘシ

第五十六條

師團長ハ召集延期又ハ事故ニ因リ應召ヲ遅延スル者ノ最終ノ出發期日ヲ定メテ聯隊區司

聯軍召集條例施行細則

令官ニ達シ應召員中途中ニ於テ傷痍疾病ニ罹リ到着ヲ遅延スル者アリタルトキ之ニ歸郷ヲ命スヘキ
 期日ヲ定メテ召集部隊長ニ達スヘシ
 師團長ハ其ノ所管ニアラサル聯隊區司令官ニ前項ノ達ヲ爲サントスルトキハ其ノ所管師團長ニ通知
 スヘシ所管師團長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ達スヘシ
 第五十七條 聯隊區司令官ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡市長ニ通知スヘシ
 第五十八條 師團長聯隊區司令官ハ召集延期ヲ許可スルニ方リ其ノ期ノ召集ニ應セシメサル者ノ指令
 ニハ令狀ヲ市町村長ニ返付スヘキコトヲ附記スヘシ
 第五十九條 師團長ハ進級ノ爲又ハ事故ノ爲召集日數ヲ増加スヘキ者アルトキハ召集部隊長ヲシテ之
 ヲ各自ニ達セシムヘシ
 第六十條 寄留地ニ於テ召集ニ應スヘキ許可ヲ受ケタル者ヲ召集セントスルトキハ召集ノ日時日數及
 部隊ヲ將校同相當官ニ在テハ寄留地所管ノ師團長ヨリ本籍地所管ノ師團長ニ准士官以下ニ在テハ寄
 留地所管ノ聯隊區司令官ヨリ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ
 前項ノ通知ヲ受ケタル師團長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ達スヘシ
 第六十一條 召集部隊長ハ召集期日ニ至レハ召集事務所ヲ開設シ應召員到着スルトキハ直ニ身體検査
 ヲ行ヒ召集名簿ニ應召不應召其ノ他ノ事故ヲ記シ之ヲ召集期日後三日以内ニ聯隊區司令官ニ宛發送
 スヘシ
 傷痍疾病ニ因リ演習又ハ教育ニ堪ヘサル者ハ軍隊手牒ニ其ノ旨ヲ記シテ歸郷セシメ召集期日後三日
 以内ニ其ノ診断證書常備役後備補充兵役又ハ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ルヲ聯隊區司令官ニ宛發送スヘシ
 第一項ニ依リ名簿發送後召集ニ應シタル者アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ其ノ

召集ニ應シタル者ニ就テハ前二項ノ手續ニ依ルヘシ
 第六十二條 召集部隊長ハ應召員中途中ニ於テ傷痍疾病ニ罹リ到着ヲ遅延スル者アリタルトキハ師團
 長ノ達ニ基キ之ニ歸郷ヲ命シ其ノ旨ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ
 第六十三條 聯隊區司令官ハ召集名簿中ニ他ノ聯隊區ノ者アリタルトキハ第六十一條第六十二條ノ通
 知ニ基キ其ノ應召不應召ヲ直ニ其ノ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ本籍地所管ノ聯隊區司
 令官ハ應召シタル者ノ人名召集期日及日數ヲ郡市長ニ通知スヘシ
 第六十四條 聯隊區司令官ハ應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者ノ人名及事由並應召セサル者
 ノ中其ノ届書ヲ受ケサル者ノ人名ヲ郡市長ニ通知スヘシ
 第六十五條 郡市長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ市長ハ之ヲ憲兵又ハ警察
 官吏ニ通知スヘシ
 第六十六條 町村長ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通知スヘシ
 第六十七條 召集部隊長ハ召集中ノ者ニシテ父母ノ疾病危篤又ハ死亡其ノ他止ムヲ得サル事故ノ爲休
 暇ヲ願出ツル者ニ許可ヲ與フルニ方リ其ノ休暇中ニ召集解除ヲ爲スヘキ者ハ直ニ召集ヲ解除スヘ
 シ
 第六十八條 召集部隊長ハ演習又ハ教育ヲ終リタルトキハ軍隊手牒ニ所要ノ記入ヲ爲シ在ルヤ否ヲ點
 檢シテ召集ヲ解除スヘシ
 第六十九條 召集部隊長ハ令狀ニ指定スル期日ニ召集ヲ解除シ召集解除スルモ歸郷セサル者アルトキハ其
 ノ人名事由及解除期日ヲ聯隊區司令官ニ通知シ召集解除ヲ延期スル者ノ中其ノ期日ヲ豫定スルコト
 能ハサル者ニ在テハ召集ヲ解除シ召集解除ノ者ニ歸郷スルトキ更ニ其ノ通知ヲ爲スヘシ士官ニ任スル爲ノ

陸軍召集條例施行規則

演習召集ヲ本籍地及寄留地ニアラサル師管ニ於テ行フ場合ニ於テハ居住地所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

前項ニ該ル者ノ居住地本籍地及寄留地所管ノ聯隊區警備隊區ヲ包含スナラサルトキハ仍本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

寄留地ニ於テ召集ニ應シタル者ノ中期日ニ先チ召集ヲ解除スル者アルトキハ仍本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第七十條 聯隊區司令官ハ前條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡市長ニ通知スヘシ
前條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキ亦同シ

第七十一條 郡市長ハ前條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ市長ハ之ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

第七十二條 町村長ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

第七十三條 演習召集教育召集ニ關シテハ第二十三條第二十四條第二十五條第一項第二十六條乃至第二十八條第二十九條第一項第三十四條ヲ準用ス但シ郡長ハ令狀ヲ町村長ニ郵送シタル場合ニ於テハ第二十七條ニ依リ送付スル表中ニ其ノ旨ヲ附記シ市町村長ノ第二十三條第二項ニ依リ令狀ヲ交付シタル人名及其ノ召集部隊ヲ通知スルニハ召集日數ヲ附記スルモノトス

第七十四條 聯隊區司令官ハ郡市長ヨリ令狀ノ送達ニ關スル通知ヲ受ケタルトキハ一表ニ作リ之ヲ師團長ニ差出スヘシ

第六章 補缺召集
第七十五條 師團長ハ補缺召集ヲ行フニハ歸休兵ノ兵種等級人員召集部隊到着日時ヲ定メ召集部隊長

及聯隊區司令官ニ達スヘシ
師團長ハ其ノ所管ニアラサル聯隊區司令官ニ前項ノ達ヲ爲サントスルトキハ其ノ所管師團長ニ通知スヘシ所管師團長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ達スヘシ

第七十六條 聯隊區司令官ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ補缺召集令狀第十一條ノ様式ニ準スヲ作リ之ヲ郡市長ニ送付シ充員召集名簿又ハ待命員名簿ヲ訂正スヘシ

第七十七條 郡市長ハ補缺召集令狀ヲ受ケタルトキハ其ノ召集ヲ令セラレタル者ノ充員召集令狀ハ之ヲ聯隊區司令官ニ返付シ充員召集名簿又ハ待命員名簿ヲ訂正スヘシ

第七十八條 補缺召集ニ關シテハ第二十三條第二十四條第二十五條第一項第二十六條乃至第二十八條第二十九條第一項第三十四條第五十六條乃至第五十八條第六十一條第一項第三項第六十二條第六十四條乃至第六十六條及第七十四條ヲ準用ス但シ郡長ハ令狀ヲ町村長ニ郵送シタル場合ニ於テハ第二十七條ニ依リ送付スル表中ニ其ノ旨ヲ附記スルモノトス

第七章 簡閱點呼
第七十九條 師團長ハ簡閱點呼執行官ニ當該聯隊區司令部書記一名ヲ附屬セシメ點呼ニ關スル庶務ヲ處理セシムヘシ

第八十條 師團長ハ簡閱點呼執行官ノ官氏名ヲ聯隊區司令官ニ達スヘシ

第八十一條 師團長ハ簡閱點呼ヲ省略スル場合ニ於テハ其ノ狀況ヲ悉シテ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第八十二條 聯隊區司令官ハ簡閱點呼開始前三十日ニ條例第七十二條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ點呼場間ノ里程及參會人員ニ應シ成ルヘク半日間ニ點呼ヲ結了シ他ノ半日ハ旅行ニ充ツルヲ要ス

第八十三條 聯隊區司令官ハ第十二様式ニ依リ點呼令狀ヲ作ルヘシ

第八十四條 聯隊區司令官ハ各點呼場參會人員概算表及點呼名簿ヲ作り簡閱點呼執行官ニ送付スヘシ
但シ名簿ハ點呼場毎ニ各別ニ作り逐次ニ送付スルモ妨無シ

第八十五條 市町村長ハ令狀ヲ受ケタルトキハ簡閱點呼期日前十五日ニ之ヲ各自ニ交付シ終ルヘシ

第八十六條 市町村長ハ簡閱點呼ノ免除又ハ猶豫ヲ受ケタル者アルトキハ前條令狀ノ交付ヲ終リタルトキ其ノ人名ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

第八十七條 市町村長ハ全家所在不明等ノ爲令狀ヲ交付スルコト能ハサル者アリタルトキハ其ノ人名及事由ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

前項ノ手續ヲ終リタル後令狀ヲ交付シタル者アリタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第八十八條 市町村長ハ傷痍疾病犯罪所在不明等ノ爲簡閱點呼ニ參會スルコト能ハサル者ノ届書及令狀ヲ受ケタルトキハ調査ノ上毎日之ヲ取纏メテ其ノ人名及事由ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

第八十九條 市町村長ハ全家所在不明等ノ爲交付スルコト能ハサル令狀及傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ參會スルコト能ハサル者ノ届書及令狀ヲ携ヘ點呼場ニ於テ簡閱點呼執行官ニ差出スヘシ簡閱點呼參列ノ爲出發後點呼時刻迄ニ受ケタル届書及令狀ハ點呼ヲ終ル迄ニ之ヲ差出スヘシ

第九十條 市町村長ハ簡閱點呼ニ參列スルニ方リ在郷軍人名簿ヲ携帶スヘシ

第九十一條 簡閱點呼執行官ハ呼名點檢ヲ行ヒ平常ニ於ケル異動取扱ノ確否其ノ他所要ノ調査ヲ爲シ參會者ニ必要ノ訓示ヲ與フヘシ

第九十二條 簡閱點呼ニ關シテハ第二十三條第一項第二十六條第二十七條第三十四條及第七十四條ヲ準用ス

附則

第九十三條 屯田兵下士兵卒ノ演習召集簡閱點呼ニ關シテハ第七師團長本則ニ準シ適宜其ノ方法ヲ規定シ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第九十四條 本則ハ明治三十二年十月二十日ヨリ施行ス但シ師團長ハ七箇月以内一部ノ施行ヲ延期シ舊則ニ依ルコトヲ得

第一様式

勅第 號

何師團動員(何師團何動員)ヲ令セラル動員第一日ハ何月何日ナリ

明治 年 月 日

師團長(地方長官)(憲兵隊長)(聯隊區司令官)氏名

- 一 發簡番號ノ符號動ノ字ノ下ニ適宜ノ符號ヲ記入スルコトヲ得
- 二 何動員ノ何ハ動員ノ區分ヲ示ス符號ニシテ此ノ符號ハ必要ニ應ジ記入スルモノトス
- 三 電文中ニ數字ヲ記スニハ假名字ヲ用井其ノ下ニ括弧ヲ置キ之ニ同一ノ數字ヲ記入スヘシ
- 四 電文中ニハ發簡番號及發信年月日ヲ記入セス又發信者ハ官名又ハ職名ノミヲ記シ其ノ氏名ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二様式

第三師團動員ヲ令セラル動員第一日ハ九月一日ナリ

静岡縣知事

本様式ハ静岡縣知事返電ノ例ヲ示ス

第三様式

陸軍召集條例施行細則

- 一 封筒用紙ハ適宜ニシテ紅色トス
- 二 勅ノ字ノ下ニ適宜ノ符號ヲ記入スルコトヲ得

第四様式

勅 第 號 通	受領時刻	年 月 日 午 時 分
	受領證	

勅 第 號
 何師團何動員充員召集令狀何通入
 (點呼令狀何通入)
 右送付ス
 明治 年 月 日
 何 郡 長 團

- 一 發簡番號ノ符號勅ノ字ノ下ニ適宜ノ符號ヲ記入スルコトヲ得但シ勅ノ字ヲ附スルハ充員召集令狀補充召集令狀送付ノトキニ限ル
- 二 何動員ノ何ハ動員ノ區分ヲ示ス符號ニシテ此ノ符號ハ必要ニ應シ記入スルモノトス

第五様式

表

(尺曲)分五寸七

受領證
 一 何月何日何隊へ召集ノ(何隊へ召集ノ爲何月何日何集合場へ到者スヘキ)充員(補充)召集令狀
 右受領ス
 明治 年 月 日 午 前 時 分
 後

兵役員(兵種等級第何補充兵何兵) 何 某 團
 召集通報人其ノ他本人ニ代リ受領シタル者ハ左ニ署名捺印ヲ爲スヘシ
 何 聯 隊 區 司 令 部
 御 中

四寸五分(曲尺)

充員(補充)召集令狀

何府縣郡市町村
 兵役員(兵種等級) 何 某
 (第何補充兵何兵)

右充員(補充)ノ爲何部隊へ召集ヲ令セラル明治何年何月何日午何時
 (午前八時ヨリ午後四時)迄ニ何地ニ到者シ此ノ令狀ヲ以テ當該部
 隊(集合場)召集事務所ニ届出ツヘシ
 但何月何日午 何時何分何驛(何港)發ノ汽車(汽船)ニ乘ルヘシ

何聯隊區司令部 團

(尺曲)寸四

召集ニ應スル爲汽車(汽船)ニ乘ルヘキ者ハ指定ノ日時場所以外ニ於テ乘
 車(乘船)ノ準備無キヲ注意スヘシ
 乘車(乘船)切符ヲ求ムルトキ及乘車(乘船)スルトキハ此ノ令狀ヲ係員ニ示
 スヘシ

五寸(曲尺)

陸軍召集條例施行細則

- 一 用紙ハ適宜ニシテ紅色トス
- 二 字及番地ハ必要ニ應ジ記入スルモノトス
- 三 到着地ハ何市何區何町又ハ何國何郡何村ノ何所ト詳密ニ記載スヘシ
- 四 但書及欄外記註ハ一例ヲ示シタルニ過キス聯隊區司令部ニ於テ必要ト認メタル事項ヲ記入スヘキモノトス

第五様式

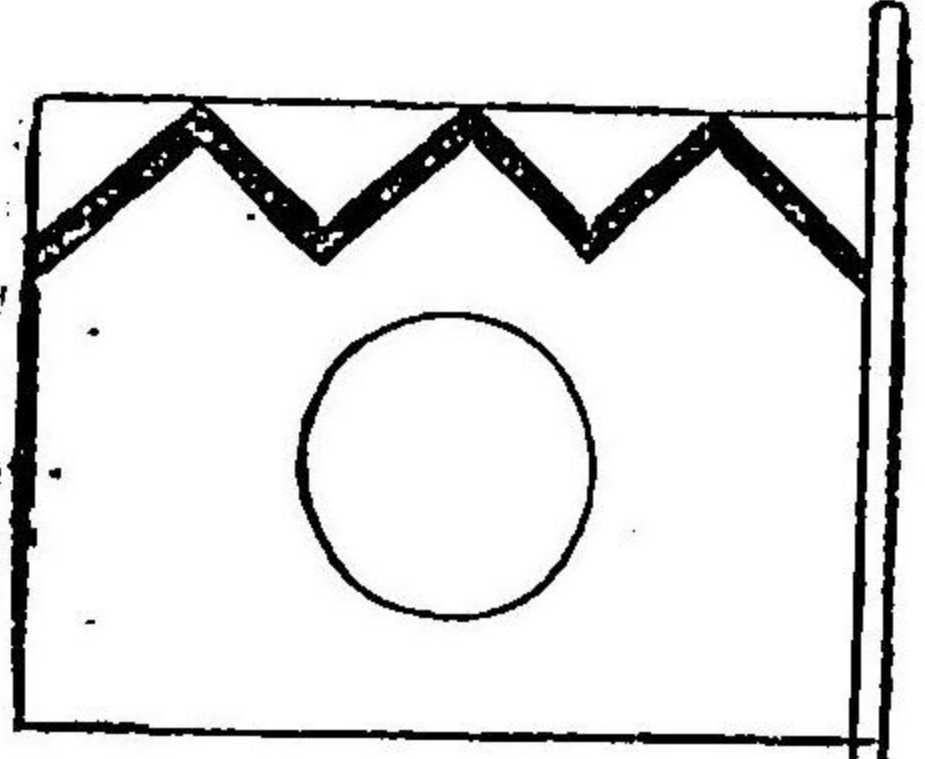
召集旅費金何圓何拾錢
 右何所ニ於テ支給ス依テ此ノ令狀ヲ係員ニ示シテ受領スヘシ代人ヲシテ受領セシムル
 トキ爲シ得レハ其ノ委任狀中ニ召集部隊及到着地ヲ記入スヘシ

裏 面

- 一 色ハ適宜トス
- 二 聯隊區司令部ニ於テ令狀裏面ニ應召員及應召員ニ代リ令狀ヲ受領スヘキ者ノ心得ト爲ルヘキ事項ヲ記入スルコトヲ得

第六様式

旗 標



(赤ハ章日)

燈 標



第七様式

一 字及番地ハ必要ニ應シ記入スルモノトス
二 寄留地ヨリ召集ニ應スル者ノ住所區畫ニハ現住所ノ下ニ「寄留」ト書シ其ノ傍ニ本籍聯隊區名及所在地ヲ朱記スヘシ
第十一様式

表 面

(尺曲)分五寸七

受領證
一 何月何日ヨリ何日間何隊へ召集ノ演習(教育)召集令狀
右受領ス
明治 年 月 日 午前 時 分 後

召集通報人其ノ他本人ニ代リ受領シタル者ハ左ニ署名捺印ヲ爲スヘシ
兵役官(兵種等級第一補充兵何兵)何某團
何聯隊區司令部 御中

(尺曲)寸四

演習(教育)召集令狀
何府縣郡市町村
兵役官(兵種等級第一補充兵何兵) 何 某
右演習(教育)ノ爲何日間何部隊へ召集ヲ令セラル明治何年何月何日
午 何時何地ニ到着シ此ノ令狀ヲ以テ當該部隊召集事務所ニ届出ツ
ヘシ
何聯隊區司令部印

四寸五分(曲尺)
五寸(曲尺)

一 字及番地ハ必要ニ應シ記入スルモノトス
二 到着地ハ何市何區何町又ハ何國何郡何町村ノ何所ト詳密ニ記載スヘシ
第十一様式

裏 面

召集旅費金何圓何拾錢
右何所ニ於テ支給ス依テ此ノ令狀ヲ係員ニ示シテ受領スヘシ代人ヲシテ受領セシムル
トキ爲シ得レハ其ノ委任狀中ニ召集部隊及到着地ヲ記入スヘシ

聯隊區司令部ニ於テハ應召員及應召員ニ代リ令狀ヲ受領スヘキ者ノ心得ト爲ルヘキ事項ヲ記入スルコトヲ得

陸軍召集條例施行細則

第十二様式

一點呼令狀
右受領ス

明治 年 月 日 午前 時 分

召集通報人其ノ他本人ニ代リ受領シタル者ハ左ニ署名捺印ヲ爲スヘシ
何 聯 隊 區 司 令 部
御 中

點呼令狀

何府縣郡市町村
兵役官(兵種等級)
(第一補充兵何兵) 何 某

右簡閱點呼ノ爲委會チ令セラル明治何年何月何日午 何時何地ニ到
著シ此ノ令狀ヲ以テ簡閱點呼執行官ニ届出ツヘシ
何聯隊區司令部

四寸五分(曲尺)
五寸(曲尺)

(尺曲)分五寸七
(尺曲)寸四

一 字及番地ハ必要ニ應シ記入スルモノトス
二 到着地ハ何市何區何町又ハ何國何郡何村ノ何所ト詳密ニ記載スヘシ
三 本令狀ノ裏面ニハ聯隊區司令部ニ於テ點呼委會者及之ニ代リ令狀ヲ受領スヘキ者ノ心得ト爲ルヘキ事項ヲ記入スルコトヲ得

○陸軍召集諸費支出規程

明治三十三年一月二十三日
陸軍省令第一號

陸軍召集諸費支出規程左ノ通改正ス

陸軍召集諸費支出規程

- 第一條 充員召集補充召集ニ係ル諸費ハ臨時費ニ屬シ定期演習召集教育召集及補缺召集ニ係ル諸費ハ經常費ニ屬ス
- 臨時演習召集ニ係ル諸費ノ所屬ハ臨時之ヲ定ム
- 第二條 召集諸費ヲ分テ召集旅費歸郷旅費召集雜費トス召集旅費ハ應召員ノ旅費、歸郷旅費ハ應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者ノ旅費、召集雜費ハ召集事務所ノ諸費應召員ノ引率諸費召集ニ關係アル官吏公吏ノ出張旅費、諸部團隊官衙公署ニ要スル郵便電信料使丁賃金等トス
- 第三條 召集諸費ノ仕拂命令官ハ師團監督部長トス
- 第四條 召集諸費ノ出納官吏現金前渡ヲ受クル者ハ諸部團隊、道廳警視廳、府縣廳ノ官吏及郡市長東京市京都市大阪府市及北海道沖繩縣ノ區ニ在テハ區長、北海道ノ區制ヲ施行セサル地方ニ在テハ支隊長、島司支隊長、島司ニ置キタトス但シ必要ニ應シ北海道沖繩縣ノ區制ニ在テハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者、以下同シ郡書記北海道沖繩縣ノ區制ニ在テハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者、以下同シ同ニ出納官吏又ハ分任出納官吏ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得
- 第五條 師團長ハ召集旅費支給ノ地方區域及其ノ區域ニ於ケル出納官吏又ハ分任出納官吏ノ官(職)名ヲ定メ一月三十一日迄ニ聯隊區司令官警備隊司令官、警備隊區司令官ヲ包含ス以下同シニ達シ警視總監、地方長官ニ通知スヘシ但シ應召員ノ到着地ニ到着シタル後ニ於テ旅費ヲ支給セシムヘキモノアルトキハ之ヲ其ノ出納官吏又ハ分任出納官吏所屬ノ諸部團隊長ニモ達スヘシ

召集旅費支給ノ區域ハ數郡市島嶼ヲ併セ一區ト爲シ若ハ郡ノ一部ヲ他ノ郡市ニ分屬シテ一區ト爲シ
或ハ一郡ヲ二區以上ニ分ツコトヲ得

第六條 召集諸費ノ出納官吏分任出納官吏ノ任命ハ郡市長ヲ除クノ外ハ諸部團隊長、警視總監又ハ地
方長官ニ於テスヘシ

第七條 諸部團隊長、警視總監、地方長官ハ召集諸費前渡ヲ受クヘキ官吏及公吏ノ官(職)氏名ヲ師團
長ニ通知スヘシ師團長ハ之ヲ當該任拂命令官及聯隊區司令官ニ通達シ大藏省ニ報告スヘシ爾後異動
アルトキ亦同シ

第八條 陸軍部外ノ出納官吏分任出納官吏ニシテ事故ニ因リ代理ヲ要スルトキ其ノ代理者ノ命免、會
計規則第九十一條第九十二條及第百條ニ依リ要スル検査員立會員若ハ計算書ヲ調製セシムヘキモノ
ノ任命ハ警視總監、地方長官ニ於テスヘシ

會計規則第九十三條ノ檢定書ハ師團長ニ提出スヘシ
第九條 諸部團隊長、警視總監及地方長官ハ第五條第一項ノ通達ヲ受ケタルトキハ之ヲ所轄出納官吏
又ハ分任出納官吏ニ達スヘシ

第十條 郡市長ハ充員召集補充召集實施ニ方リ郡市役所東京市京都市大阪市及北海道沖繩縣ノ區ニ在テハ區役所、
タル島嶼ニ在テハ島嶼、島司又ハ郡長ヲ置カサ町村役場北海道ノ區制ヲ施行セサル地方ニ在テハ支廳、島司ヲ置キ
ル島嶼ニ在テハ島嶼ニ準スヘキモノ、以下同シニ要スル召集雜費ヲ計算シ召集諸費
概算表第一ヲ作り二月十五日迄ニ聯隊區司令官ニ送付スヘシ

第十一條 聯隊區司令官ハ充員召集補充召集實施ニ依リ召集旅費及充員召集補充召集實施ニ方リ聯
隊區司令部警備隊司令部、警備隊區司令部ヲ包含ス、以下同シニ要スル召集雜費ヲ計算シ且前條ノ概算表ヲ調査シ之ト共ニ一表
ニ取纏メ召集諸費概算表第二ヲ作り二月二十八日迄ニ師團長ニ差出スヘシ

他ノ聯隊區ノ郡市町村長又ハ其ノ分任出納官吏ヨリ召集旅費ノ支給ヲ受クヘキ應召員アルトキハ其
ノ概算表ハ別ニ之ヲ作りテ二月二十日迄ニ當該聯隊區司令官ニ送付シ該聯隊區司令官ハ前項ノ概算
表ニ合記スヘシ

第十二條 師團監督部長ハ充員召集補充召集實施ニ方リ監督部ニ要スヘキ召集雜費ヲ計算シ召集諸費
概算表ヲ作り第二二月二十八日迄ニ師團長ニ差出スヘシ

第十三條 憲兵隊長ハ充員召集補充召集實施ニ方リ憲兵隊本部、憲兵分隊本部、憲兵屯所及憲兵分屯
所ニ要スヘキ召集雜費ヲ計算シ召集諸費概算表ヲ作り第二二月二十八日迄ニ師團長ニ差出スヘシ

第十四條 警視總監、地方長官ハ充員召集補充召集實施ニ方リ道廳、警視廳、府縣廳、警察署、警察
分署、巡查駐在所、巡查派出所及集合場ニ於ケル召集事務所ノ設置ニ要スヘキ雜費ヲ計算シ召集諸
費概算表ヲ作り第二二月二十八日迄ニ師團長ニ送付スヘシ

第十五條 師團長ハ充員召集ニ應スヘキ將官同相當官ノ旅費召集ニ關シ各隊ヨリ集合場其ノ他ニ派遣
スヘキ者ノ旅費召集事務所集合場ニ於ケル、
後ノ設置後ノ雜費應召員中事故ニ因リ歸郷セシムヘキ者ノ旅費應召員
ノ引率諸費及其ノ他ノ雜費ヲ計算シ第十一條乃至第十四條ノ概算表ヲ調査シ之ト共ニ一表ニ取纏メ
召集諸費概算表第四通第三ヲ作り三月十日迄ニ陸軍大臣ニ差出スヘシ

第十六條 聯隊區司令官ハ十二月一日ニ於ケル充員召集名簿待命員名簿ノ現在員ヲ豫定シ更ニ第十一
條ノ召集諸費概算表ヲ作り十月三十一日迄ニ師團長ニ差出スヘシ
他ノ聯隊區ノ郡市町村長又ハ其ノ分任出納官吏ヨリ召集旅費ノ支給ヲ受クヘキ應召員アルトキハ其
ノ概算表ハ別ニ之ヲ作り十月二十日迄ニ當該聯隊區司令官ニ送付シ該聯隊區司令官ハ前項ノ概算表
ニ合記スヘシ

第十七條 師團長ハ前條ノ概算表ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ更ニ第十五條ノ召集諸費概算表四通ヲ作リ十一月十日迄ニ陸軍大臣ニ差出スヘシ

第十八條 陸軍大臣ハ第十五條又ハ第十七條ノ概算表ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シテ大藏大臣ニ送付シ當該仕拂命令官ニ下付ス同時ニ其ノ概算表ノ有効期限ヲ定メ大藏大臣ニ通知シ當該師團長及仕拂命令官ニ令達ス但シ有効終期迄ニ次期概算表師團長及仕拂命令官ニ令達セス且金庫ニ到達セサルトキハ前期概算表ヲ有效トス

第十九條 師團長ハ其ノ計算シタル召集諸費中諸部團隊ノ出納官吏ニ前渡ヲ受ケシムヘキ金額ノ費目ヲ区分シ其ノ金額ヲ當該諸部團隊長ニ達シ諸部團隊長ハ之ヲ出納官吏ニ達スヘシ

第二十條 聯隊區司令官ハ其ノ計算シタル召集旅費中各出納官吏金庫ヨリ現金直送ノ分ニ前渡ヲ受ケシムヘキ金額ヲ該出納官吏ニ通知スヘシ但シ諸部團隊附ノ者ニ在テハ其ノ諸部團隊長ニ通知シ諸部團隊長ハ之ヲ出納官吏ニ達スヘシ

第二十一條 聯隊區司令官ハ郡市長中其ノ所管外ノ地ニ本籍ノ在ル應召員ニ旅費ヲ支給スヘキ者アルトキ及町村長ニシテ召集旅費ヲ支給スヘキ者アルトキハ其ノ應召員ノ官等級氏名居住地、到著地集合場ナルトキハ召集部隊トモ及旅費額ヲ毎年二回該郡市長及町村長ニ通知スヘシ其ノ第一回ハ三月二十日第二回ハ十一月二十日迄トス但シ他ノ聯隊區ニ係ルモノハ第一回ハ三月十日第二回ハ十一月十日迄ニ該司令官ニ通知シ該聯隊區司令官ハ本文ニ依リ取扱フモノトス
諸部團隊ノ出納官吏中召集旅費ヲ支給スヘキ者アルトキハ前項ニ準シ諸部團隊長ニ通知シ諸部團隊長之ヲ當該出納官吏ニ達スヘシ
前二項ノ通知後ニ於テ異動アレハ其ノ都度通知スルモノトス

第二十二條 召集旅費ノ支給ヲ爲スヘキ官吏及公吏ハ平時ニ於テ召集旅費受領證書第五式ヲ作り置クヘシ

第二十三條 郡市長ハ召集旅費區分表第六式二通ヲ作り一通ハ聯隊區司令部ニ送付シ一通ハ郡市役所ニ備ヘ置キ爾後異動アル毎ニ之ヲ訂正シ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十四條 聯隊區司令官ハ前條ノ區分表ヲ受ケタルトキハ之ヲ一表ニ製シ第六式應召員ヲ編入スヘキ諸部團隊長ニ送付シ其ノ異動ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ都度之ヲ通知スヘシ
他ノ師團ノ諸部團隊長ニハ動員ノ際之ヲ送付スルコトヲ得

第二十五條 諸部團隊長ハ前條ノ區分表ヲ受ケタルトキハ之ヲ保管シ歸郷旅費計算ノ用ニ供スヘシ

第二十六條 師團長ハ平時豫メ召集諸費仕拂請求書ヲ作り置クヘシ

第二十七條 仕拂命令官ハ平時ニ於テ仕拂命令發行ノ準備ヲ爲シ置クヘシ

第二十八條 陸軍大臣ハ平時ニ於テ召集諸費ノ豫算要求書及仕拂豫算計算書ヲ作り置キ充員召集若ハ補充召集ニ際シ其ノ要求書ハ大藏大臣ニ送付シ其ノ裁定濟ノ通知ヲ得テ即時當該師團長及仕拂命令官ニ令達シ其ノ計算書ハ大藏省、會計検査院及仕拂命令官ニ送付ス

第二十九條 師團長ハ前條ノ令達ヲ受ケタルトキハ動員ノ區分ニ應シ召集諸費概算表ノ金額ニ基キ現金前渡ノ仕拂ヲ當該仕拂命令官ニ請求スヘシ

第三十條 仕拂命令官ハ前條ノ請求書ヲ調査シ直ニ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ送金ニ係ルモノハ電信ノ便アレハ電信送金ト爲スヲ要ス

第三十一條 出納官吏及分任出納官吏前條ノ仕拂命令ヲ受ケタルトキハ現金ヲ受領シ所要ノ仕拂ヲ爲スヘシ其ノ召集旅費ノ支給ヲ爲ストキハ第二十二條ノ受領證書氏名ノ下ニ捺印セシムヘシ若シ印章

ヲ携帶セサル者アルトキハ捺印セシムルモ妨ナシ
前項ノ受領證書ニ記載シタル者ニシテ前渡金ノ決算ヲ爲ス迄ニ旅費ヲ支給セサル者アルトキハ朱線
ヲ以テ其ノ氏名ヲ塗抹シ捺印ヲ捺スヘシ

第三十二條 充員召集補充召集實施ニ方リ其ノ諸費ニ係ル事務ハ晝夜ヲ分タス之ヲ處辨シ其ノ通達ニ
ハ至急官報ノ電信、使丁等確實迅速ノ方法ヲ用キルモノトス其ノ使丁ヲ用キルトキハ一時間ニ一里
半ノ行進速度ヲ以テ基準トス

第三十三條 前條ノ電信ヲ受領シタル者ハ其ノ電信ノ全文ヲ至急官報ヲ以テ返電スヘシ
第三十四條 充員召集補充召集實施ニ方リ其ノ諸費ニ係ル諸部團隊官衙及公署ノ往復書類ニハ動ノ字
ヲ冠シタル番號ヲ附スルモノトス但シ必要ニ應シ動ノ字ノ下ニ他ノ文字ヲ加フルコトヲ得

第三十五條 充員召集補充召集實施ニ方リ其ノ諸費ニ係ル文書ヲ發送スルニハ動員用封筒第七ヲ用ウ
ヘシ其ノ文書ヲ受領シタル者ハ封筒上ニ設ケタル位地ニ受領時刻ヲ記入シ捺印ノ上返付スヘシ但シ
本人ニ代テ受領シタル者ハ其ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ

第三十六條 出納官吏ハ前渡金受領ノ日ヨリ三十日內ニ會計検査院ニ提出スヘキ仕拂計算書及證憑書
類ヲ師團司令部ヲ經テ仕拂命令官ニ送付シ其ノ仕拂殘金ハ仕拂命令官ノ返納告知書ヲ得テ金庫ニ納
付スヘシ但シ返納告知書ヲ受ケサル前ニ於テ嗣後ノ召集アルトキハ其ノ殘金ヲ以テ支拂ヲ爲スヘキ
モノトス

分任出納官吏ノ仕拂計算書及證憑書類ハ主任出納官吏ニ提出シ該官吏ハ自己ノ計算ニ併算スルモノ
トス

第三十七條 召集旅費ハ本籍地ヨリ到著地迄ノ里程ニ應シテ本籍地所屬ノ旅費支給區域ニ於ケル出納

官吏ヨリ支給スルモノトス但シ必要ニ應シ本籍地支給區域外最寄ノ旅費支給所ニ於テ支給スルコト
ヲ得

演習召集又ハ教育召集中他ノ部隊ノ充員召集及補充召集ニ應スヘキ者ノ召集旅費ハ甲乙部隊間ノ順
路ニ依リ演習召集又ハ教育召集部隊ニ於テ支給スヘシ其ノ部隊動員セサル場合ニ於テハ其ノ召集旅
費ハ應召員本籍所管聯隊區司令官ノ請求ニ基キ充員召集及補充召集部隊所管ノ師團司令部ヨリ送付
スルモノトス

第二十八條 到著地ニ到著シタル後ニ於テ召集旅費ヲ支給スル場合ニ於テハ召集部隊又ハ部隊ヨリ集
合場ニ派遣シタル出納官吏又ハ分任出納官吏ヨリ支給スルヲ例トス
第二十九條 集合場ニ到著スヘキ應召員ニシテ事故ニ因リ直ニ召集部隊ニ到著スヘキ者其ノ他事故ニ
因リ更ニ旅費ヲ支給ヲ受クヘキ者ハ其ノ召集旅費ノ支給ヲ受クヘキ出納官吏又ハ分任出納官吏若ハ
其ノ所在地最寄ノ出納官吏又ハ分任出納官吏ニ就キ其ノ旅費ノ支給ヲ受クヘシ

前項ニ依リテ召集旅費ヲ支給シタル者ハ直ニ其ノ金額氏名ヲ應召員ノ到著スヘキ部隊ニ通知スヘシ
第四十條 召集部隊長ハ途中ニ於テ傷疾疾病ニ罹リタル應召員ニ歸郷ヲ命スル場合ニ於テハ該部隊ヨ
リ其ノ滞在中ノ日當及歸郷旅費召集旅費ノ剩ヲ支給スルモノトス但シ應召員所在地ノ召集諸費出納官
吏又ハ分任出納官吏ニ於テ之ヲ支給シ得ルトキハ其ノ旨ヲ通知シ之ニ支給ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十一條 應召員中召集旅費ヲ受領シ傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ因リ該旅費ノ返納ヲ要スルトキ第三
十六條ノ決算後ニ在テハ仕拂命令官ヨリ其ノ徵收ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第四十二條 復員後ニ於テハ更ニ召集諸費概算表ヲ作ルモノトス但シ概算表調製以前ニ於テ充員召集
ヲ實施スル場合ニ於テハ動員ヲ行ヒシトキニ於ケル第十五條又ハ第十七條ノ概算表ニ依ルモノトス

第四十三條 臨時演習召集諸費支出ノ手續ハ第二條乃至第六條第八條第九條第二十九條乃至第四十一條ニ準據シ取扱フモノトス

第四十四條 定期演習召集、教育召集ニ應スル者ノ旅費及其ノ歸郷旅費應召中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者及召集解除ヲ命セラレタル者ノ旅費並補缺召集旅費ハ第三條乃至第六條第八條第九條第二十九條乃至第三十一條第三十六條乃至第三十八條第四十條及第四十一條ニ準據シ取扱フヘシ但シ旅費額ハ諸部團隊聯隊區司令部ニ於テ計算シ普通ノ手續ヲ以テ仕拂命令官ニ請求スルモノトス

第三十六條ニ依リ出納官吏ノ提出スヘキ仕拂計算書及證憑書類ハ聯隊區司令部及師團司令部ヲ經由スルモノトス

第四十五條 寄留地ニ於テ演習召集又ハ教育召集ノ許可ヲ受ケタル者竝陸軍補充條例第五十九條第六十五條及第七十七條ニ依リ召集スルトキ之ニ支給スヘキ旅費ハ現住地ヨリ召集地迄ノ里程ニ應シ本人現住地所管ノ師團ヨリ支給スルモノトス但シ召集中住居ヲ轉シタル者ト雖應召前ノ現住地迄ノ里程ニ應シテ歸郷旅費ヲ給ス

第四十六條 國民兵召集諸費ノ支出ニ關シテハ臨時之ヲ定ム

第四十七條 師團長ハ島嶼ニ於テ本規程ヲ實施スルコト能ハサルモノアルトキハ適宜ノ方法ヲ規定シ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附則

本規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス但シ明治三十三年ニ限リ第五條ノ期日ハ師團長ニ於テ適宜之ヲ延期スルコトヲ得

様式(略)

○徵發令

明治十五年八月十二日
太政官布告第四十三號

徵發令別冊ノ通制定ス

(別冊)

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動かスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

一 「陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官」

二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長

三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官分遣艦隊長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發ス可キモノノ種類ニ依リ徵發區會社モ之ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 第十二條第一項ハ

二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ

三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ

府縣
郡區
町村

徵發令

會社

- 四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ汽車ハ
- 第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル
- 第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事「縣令」郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ
- 第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事「縣令」郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス
- 第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應スヘキ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス
- 第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事「縣令」郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ
- 第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事「縣令」郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ
- 第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ
 - 一 米麥秣芻鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭
 - 二 乘馬駄馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
 - 三 人夫
 - 四 宿舍厩圍及ヒ倉庫
 - 五 飲水石炭

- 六 船舶
- 七 鐵道汽車
- 八 演習ニ要スル地所
- 九 演習ニ要スル材料器具
- 第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外徵發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス
 - 一 造船所工作所及軍事ノ工作ニ要スル材料器具
 - 二 職工鑛夫洗濯人ノ類
 - 三 被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ繃帶具
 - 四 水車搗春ノ類
 - 五 病院
- 第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
 - 一 皇族所用ノ車馬
 - 二 外國公使館並ニ領事館ニ屬スル車馬
 - 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
 - 四 郵便用ノ車馬
 - 五 公認セラレタル種牛種馬
- 第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
 - 一 公務ニ屬スル廳署

- 二 皇族ノ邸宅
- 三 外國公使館領事館及其所屬館
- 四 鐵道電信郵便ノ建造物
- 五 陸海軍將校竝ニ同等官現住ノ家屋
- 六 博物館書籍館
- 七 病院盲啞院棄兒院
- 八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス
- 九 製造場内機械室
- 第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス
- 第十七條 第十二條第二項ニ掲クルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得
- 第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス
- 第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム
- 第二十條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアルヘシ
- 第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス厩園倉庫亦同シ

- 第二十二條 宿舍厩園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス
- 第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム
- 第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ
- 第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得
- 第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ニ際シニ限ル但船橋及ヒ解船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス
- 第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル流車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ニ際シニ限ル
- 第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境內ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得
- 第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス
- 第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス
- 第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス
- 第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事「縣令」郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

一 西洋形船舶

七日間

二 地所

評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件

一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ケ年間ノ平均價ヲ取り之ヲ定ム其平均價ノ取り難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上タルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

- 一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃
- 二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乗載量五分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃
- 三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航泊實費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船舶及ヒ解船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償

ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第二十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從テ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ忌避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事「縣令」郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サハルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲安ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

○徵發費用怠納者處分並ニ其費用ニ關シ出訴方
 明治十五年十二月十八日
 太政官布達第二十六號

○徵發費用怠納者處分並ニ其費用ニ關シ出訴方
 明治十六年八月八日
 太政官布告第三十一號

徵發令ニ據リ負擔ス可キ費用ノ怠納者ハ明治十年十一月第七十九號布告ニ依リ處分ス可シ但財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ徵發區ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス

右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ明治十五年五月第二十二號布告ニ依ル可シ

○徵發事務條例
 明治十五年十二月十八日
 太政官布達第二十六號

(別冊)
 徵發事務條例

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス

第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコトヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長艦隊司令長官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲クル特命司令官艦隊司令官艦隊司令官分遣艦長ハ其獨立中ニ限リ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルトキハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令官ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長以上ヲ言ヒ第三項中ニ掲クル操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長ヲ言ヒ艦長トハ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ

置クト雖トモ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發着ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限り其團隊長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

徵發令第三條第二項中ニ掲クル師團長ニハ近衛都督、旅團長ニハ屯田兵司令官ヲ包含ス(二十三年九月九十六號ヲ以テ追加)

第七條 徵發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ

第八條 徵發物件其徵發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶長及ヒ證人二人其町村内ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同物品營業者ノ内ヨリ戶長ノ撰定スルモノ立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシムヘシ

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作

所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事「縣令」郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス

可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付スヘキモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡長ニ付スヘキモノヲ町村ニ付シ店長ニ付スヘキモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領證票ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事「縣令」郡區長戶長若クハ店長ニ其旨ヲ通知スヘシ

徵發令第十二條第二項ノ物件ニ限り場合ニ依リ徵發書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ付スルコトヲ得(二十三年九月五日勅令第百九十六號ヲ以テ追加)

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告ス可シ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事「縣令」ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戶長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事「縣令」ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ檢査セシムルコトアル可シ郡區長府知事「縣令」其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事「縣令」ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事「縣令」徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條 府知事「縣令」郡區長及ヒ戶長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖モ正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲クル受領證票ハ附錄第二號雜形ニ依リ調製ス可シ

第十七條 受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵用濟ノ後之ヲ交付ス可シ但徵用濟ノ後交付スル場合ニ於テハ同令

第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲クルモノヲ除クノ外當初領收ノ際假受領證ヲ交付ス可シ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及第十三條第二項ニ掲クルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ竝ニ同令第十二條第六項ニ掲クルモノ船及ヒ船ヲ借切トシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領證票ヲ交付スルコトアル可シ

第十九條 徵用十五日以上ニ及フモノハ一箇月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲クルモノ、徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セサルトキニ限り他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒラサラシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ

二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三 秣藪ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區長ハ附錄第三號一ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出スヘシ(十九年閣令第十一號ヲ以テ改正)

鐵道局長及鐵道會社社長ハ陸軍省ヨリ送付スル所ノ雛形ニ依リ毎年十二月三十一日調ヲ以テ鐵道表ヲ製シ翌年三月三十一日限り同省ヘ送付スヘシ又新タニ鐵道ヲ布設シ若クハ改築シタルトキハ其時々鐵道表ヲ製シ陸軍省ヘ送付スヘシ(二十三年九月勅令第百九十六號ヲ以テ追加)

第二十二條 (十九年閣令第十一號ヲ以テ改正)

第二十三條 (十九年閣令第十一號ヲ以テ改正)

第二十四條 北海道廳長官府縣知事ハ三箇年毎ニ附錄第三號二三ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ郡區市長ヨリ差出シタル表ト共ニ翌年三月三十一日限り陸軍省ヘ送付スヘシ(二十三年九月勅令第百九十六號ヲ以テ改正)

第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ附錄第四號一二三ノ雛形ニ依リ西洋形船舶器械製造修履場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上裝置鐵工場表ヲ製シ毎年三月三十一日限り海軍省ヘ送付スヘシ

北海道廳長官府縣知事ハ附錄第五號一二ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限り海軍省ニ送付シ管内ニ於テ新造シ若クハ買入レタル登簿噸數百噸以上ノ汽船アリタルトキハ第五號三ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ其時々海軍省ニ送付スヘシ但海軍大臣ハ便宜ニ依リ船舶會社ヲシテ直チニ送付セシムルコトヲ得(二十三年九月勅令第百九十六號ヲ以テ改正)

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給ス可キモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限り其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖厨ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舗農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸坐敷貸廐等ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

- 一 廩署 陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋
- 二 將官其參謀部ト共ニ 一家屋
- 三 上長官又ハ同等軍屬一名 一室

- 四 士官又ハ同等軍屬二名 一室
- 五 下士又ハ同等軍屬一名 一疊半乃至二疊
- 六 卒又ハ同等軍屬一名 一疊乃至一疊半
- 七 徵發ニ應シタル人員三名 二疊

第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿割主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サスト雖モ若シ該

家ニ病者死者アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令

第三十二條ニ揭クル日限ヲ更新スルモノニアラス

第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率于左ノ如シト雖モ陸海軍給與

ノ規則ニ由リ定量以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一人 精米每食二合 朝夕飯一汁一菜漬物 午飯一菜漬物

二馬 駐軍中 朝大麥二升秣藁五百目喰藁百五十目 晝秣藁五百目喰藁百五十目 夕大麥二升

秣藁五百目喰藁二百目

演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣藁五百目 晝大麥一升 夕大麥二升秣藁一貫目喰藁五百

目

小麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣藁ニ代用スルトキ 朝小麥一升喰藁一貫目 晝小麥五合 夕小麥一

升五合喰藁二貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣藁ニ代用スルトキ 朝搗麥又ハ裸麥一升喰藁一貫目 晝搗

麥又ハ裸麥一升 夕搗麥又ハ裸麥二升喰藁一貫目

寢蓐ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火竝ニ其他ノ慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢

共ニ每室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス徵發令第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ公有家屋社寺亦同食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲ爲

シ能ハサルノ證アルトキハ戶長ニ於テ賄ノ請負ヲ立ツル歟若クハ物品及ヒ手傳人ヲ其本ハニ供スル

等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ準ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戶長ニ

於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ準シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明スル

トキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定價ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ

於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但時宜ニ依リ徵發區外ニ設クルコ

トヲ得

差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス(二十三年九月初令第九十九號ヲ以テ本條改正ス)

第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メ

ニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トスヘキモノトス但差出場所ヲ徵發區外ノ地ニ設ケタルトキ其區外ニ

係ル輸送費ハ當該官憲ヨリ賠償スヘシ(二十三年九月初令第九十九號ヲ以テ改正ス)

徵發事務條例

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセンカ爲メ豫テ隣郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事「縣令」郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事「縣令」郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證書ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲クルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツ可シ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載ス可シ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三箇月ノ期限ハ受領證書ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ違算若クハ不合法ニ依リ推問往復ノ爲メ消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ依ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ戶長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ヨリ生シタルモノ

ト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ評價委員ニ付ス可シ

戶長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢査シ其調査書ヲ作リ供給者ノ請求金額ヲ其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況並請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲クル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラズ但變災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事「縣令」ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號雜形ニ依リ調製シ毎年三月三十一日限リ陸軍省ニ差出スヘシ

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

第五十一條 徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ掲クル平常ノ賃價雇賃借賃ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ掲クル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戶長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中船舶實費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ船舶中現ニ消耗シタルモノノ代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セス但船

國籍

○國籍法 明治三十二年三月十五日
法律第六十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國籍法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國籍法

- 第一條 子ハ出生ノ時其父カ日本人ナルトキハ之ヲ日本人トス其出生前ニ死亡シタル父カ死亡ノ時日本人ナリシトキ亦同シ
- 第二條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ前條ノ規定ハ胎前ニ始ニ遡リテ之ヲ適用ス
前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
- 第三條 父カ知レサル場合又ハ國籍ヲ有セサル場合ニ於テ母カ日本人ナルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス
- 第四條 日本ニ於テ生マレタル子ノ父母カ共ニ知レサルトキ又ハ國籍ヲ有セサルトキハ其子ハ之ヲ日本人トス
- 第五條 外國人ハ左ノ場合ニ於テ日本ノ國籍ヲ取得ス
一 日本人ノ妻ト爲リタルトキ

國籍法

二 日本人ノ入夫ト爲リタルトキ
 三 日本人タル父又ハ母ニ依リテ認知セラレタルトキ
 四 日本人ノ養子ト爲リタルトキ
 五 歸化ヲ爲シタルトキ
 第六條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
 一 本國法ニ依リテ未成年者タルコト
 二 外國人ノ妻ニ非サルコト
 三 父母ノ中先ツ認知ヲ爲シタル者カ日本人ナルコト
 四 父母カ同時ニ認知ヲ爲シタルトキハ父カ日本人ナルコト
 第七條 外國人ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ歸化ヲ爲スコトヲ得
 内務大臣ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ非サレハ其歸化ヲ許可スルコトヲ得ス
 一 引續キ五年以上日本ニ住所ヲ有スルコト
 二 滿二十年以上ニシテ本國法ニ依リ能力ヲ有スルコト
 三 品行端正ナルコト
 四 獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資産又ハ技能アルコト
 五 國籍ヲ有セス又ハ日本ノ國籍ヲ取得ニ因リテ其國籍ヲ失フヘキコト
 第八條 外國人ノ妻ハ其夫ト共ニスルニ非サレハ歸化ヲ爲スコトヲ得ス
 第九條 左ニ掲ケタル外國人カ現ニ日本ニ住所ヲ有スルトキハ第七條第二項第一號ノ條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得

一 父又ハ母ノ日本人タリシ者
 二 妻ノ日本人タリシ者
 三 日本ニ於テ生マレタル者
 四 引續キ十年以上日本ニ居所ヲ有スル者
 前項第一號乃至第三號ニ掲ケタル者ハ引續キ三年以上日本ニ居所ヲ有スルニ非サレハ歸化ヲ爲スコトヲ得ス但第三號ニ掲ケタル者ノ父又ハ母カ日本ニ於テ生マレタル者ナルトキハ此限ニ在ラス
 第十條 外國人ノ父又ハ母カ日本人ナル場合ニ於テ其外國人カ現ニ日本ニ住所ヲ有スルトキハ第七條第二項第一號、第二號及ヒ第四號ノ條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得
 第十一條 日本ニ特別ノ功勞アル外國人ハ第七條第二項ノ規定ニ拘ハラズ内務大臣勅裁ヲ經テ其歸化ヲ許可スルコトヲ得
 第十二條 歸化ハ之ヲ官報ニ告示スルコトヲ要ス
 歸化ハ其告示アリタル後ニ非サレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 第十三條 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ妻ハ夫ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス
 前項ノ規定ハ妻ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ之ヲ適用セス
 第十四條 日本ノ國籍ヲ取得シタル者ノ妻カ前條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ取得セザリシトキハ第七條第二項ニ掲ケタル條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得
 第十五條 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ子カ其本國法ニ依リテ未成年者ナルトキハ父又ハ母ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス
 前項ノ規定ハ子ノ本國法ニ反對ノ規定アルトキハ之ヲ適用セス

第十六條 歸化人、歸化人ノ子ニシテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者及ヒ日本人ノ養子又ハ入夫ト爲リタル者ハ左ニ掲ケタル權利ヲ有セス

一 國務大臣ト爲ルコト

二 樞密院ノ議長、副議長又ハ顧問官ト爲ルコト

三 宮内勅任官ト爲ルコト

四 特命全權公使ト爲ルコト

五 陸海軍ノ將官ト爲ルコト

六 大審院長、會計検査院長又ハ行政裁判所長官ト爲ルコト

七 帝國議會ノ議員ト爲ルコト

第十七條 前條ニ定メタル制限ハ第十一條ノ規定ニ依リテ歸化ヲ許可シタル者ニ付テハ國籍取得ノ時ヨリ五年ノ後其他ノ者ニ付テハ十年ノ後内務大臣勅裁ヲ經テ之ヲ解除スルコトヲ得

第十八條 日本ノ女カ外國人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ

第十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者ハ離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ其外國ノ國籍ヲ有スヘキトキニ限リ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十條 自己ノ志望ニ依リテ外國ノ國籍ヲ取得シタル者ハ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十一條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子カ其者ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十二條 前條ノ規定ハ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及ヒ子ニハ之ヲ適用セ

ス但妻カ夫ノ離縁ノ場合ニ於テ離婚ヲ爲サス又ハ子カ父ニ隨ヒテ其家ヲ去リタルトキハ此限ニ在ラ

ズ

第二十三條 日本人タル子カ認知ニ因リテ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ但日本人

ノ妻、入夫又ハ養子ト爲リタル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條 滿十七年以上ノ男子ハ前五條ノ規定ニ拘ハラヌ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルトキ又ハ之

ニ服スル義務ナキトキニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス

現ニ文武ノ官職ヲ帶フル者ハ前六條ノ規定ニ拘ハラヌ其官職ヲ失ヒタル後ニ非サレハ日本ノ國籍ヲ

失ハス

第二十五條 婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ婚姻解消ノ後日本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大

臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得

第二十六條 第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ日本ニ住所ヲ有スル

トキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得但第十六條ニ掲ケタル者カ日本ノ國籍

ヲ失ヒタル場合ハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十三條乃至第十五條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

第二十八條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○帝國臣民外國ニ於テ婚姻スルニ方リ證明書

差出方 明治三十三年七月十六日

司法省令第二十五號

帝國臣民外國ニ於テ婚姻スルニ方リ證明書差出方

下卷 二九九

帝國臣民外國ニ於テ婚姻ヲ爲サントスルニ方リ帝國ノ法律ニ依リ其婚姻ノ障礙ト爲ルヘキ事項ノ存セ
 サル旨又ハ婚姻ヲ爲ス男カ其婚姻ニ因リ日本ノ國籍ヲ喪失スルコトナク之ヲ其妻及ヒ嫡出子ニ取得セ
 シムルコトヲ得ル旨ヲ證スル當該吏員ノ證明書ヲ差出スコトヲ要スル場合ニ於テハ本籍地ノ市區町村
 長又ハ之ニ準スヘキ吏員ニ證明書ノ下付ヲ申請スルコトヲ得但婚姻ニ付キ戸主、父母、後見人又ハ親族
 會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ申請書ニ同意ノ證書ヲ添付スルコトヲ要ス
 市區町村長又ハ之ニ準スヘキ吏員ハ證明書下付ノ申請ヲ適當ト認ムルトキハ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺
 シタル證明書ヲ下付スルコトヲ要ス

○外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スノ件 明治三十一年七月九日 法律第二十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治六年第三百三號布告改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治六年第三百三號布告左ノ通改正ス

- 第一條 日本人カ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スニハ内務大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス
 第二條 内務大臣ハ外國人カ左ノ條件ヲ具備スルニ非サレハ前條ノ許可ヲ與フルコトヲ得ス
 一 引續キ一年以上日本ニ住所又ハ居所ヲ有スルコト
 二 品行端正ナルコト

○外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントシ及歸化又ハ國籍ヲ回復

セントスル者出願方 明治三十二年九月十四日 內務省令第五十一號

明治三十一年法律第二十一號ニ依リ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントスル者ハ本籍地又ハ寄留地地方
 應ヲ經由シ内務大臣ニ願出ツヘシ
 本年法律第六十六號ニ依リ歸化ヲ爲シ又ハ國籍ヲ回復セントスル者ハ其ノ住所ノ地方廳ヲ經由シテ内
 務大臣ニ願出ツヘシ

○國籍喪失者ノ權利ニ關スル件 明治三十二年三月二十八日 法律第九十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國籍喪失者ノ權利ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 日本ノ國籍ヲ失ヒタル家族カ日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合ニ於テ一年內
 ニ之ヲ日本人ニ讓渡ササルトキハ其權利ハ國庫ニ歸屬ス

外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スノ件 外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントシ及歸化又
 ハ國籍ヲ回復セントスル者出願方 國籍喪失者ノ權利ニ關スル件

學事

○地方學事通則 明治二十三年十月二日
法律第八十九號

朕地方學事通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方學事通則

第一條 町村ハ教育事務ノ爲勅令ノ規程ニ依リ町村學校組合ヲ設ク

町村學校組合ニハ町村制第十七條ヲ適用ス

第二條 市町村及町村學校組合ハ勅令ノ規程ニ依リ小學校教育事務ノ爲之ヲ數區ニ分畫ス

前項ノ場合ニ於テ其區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ市制第十三條町村制第十四條ノ規程ヲ適用ス

一區若クハ數區ヲシテ專ラ使用セシムル小學校ニ關シテハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲナス者ニ於テ設立維持ヲ負擔スヘシ但其區ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツヘシ

市制第六十條町村制第六十四條ノ區長並其代理者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行ス

第三條 教育事務ニ關シテハ市町村内ノ區及町村學校組合若クハ其區ニ對シ市若クハ町村ニ關スル法律ノ規程ヲ適用スルコトヲ得

第四條 町村及町村學校組合若クハ其區ハ郡長ノ指定ニ從ヒ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ノ兒童教育事務ノ委託ニ應スヘシ

第五條 町村學校組合ヲ解ク場合町村學校組合内ノ某町村ヲシテ其小學校數校中ノ一校若クハ若干校ノ設立維持ヲ一町村限リ負擔セシムル場合又ハ町村學校組合内ノ某町村ヲシテ兒童教育事務ノ委託ヲ一町村限リ負擔セシムル場合ニ於テ財產處分ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ議決スヘシ

兒童教育事務ノ委託ニ對スル報酬金ノ給否金額及其他必要ノ事項ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第六條 府縣郡市町村及町村學校組合ハ教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ小學校教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クコトヲ得

第七條 市町村立學校長其他校員學務委員及區長並其代理者等ノ執行スル國ノ教育事務ハ市制第三十條第一條第二本文町村制第三十三條第二本文ニ依ルノ限ニ在ラス

第八條 府縣郡市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ其懲戒ノ規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 府縣郡市町村及町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ學校基本財産ヲ設クルコトヲ得

學校基本財産ハ單ニ某學校ノ爲之ヲ設ケ又ハ通シテ數學校ノ爲之ヲ設クルコトヲ得
學校基本財産ノ設置及處分ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ(二十九年法律第八十一號ヲ以テ改正)

學校基本財産ノ收入ヲ教育ニ關スル目的ノ外ニ使用スルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 府縣郡市町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ教育ニ關スル寄附金等アルトキハ學校基本財産トナスヘシ但寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

公立學校ノ授業料入學試驗料書器使用料等ハ學校基本財産トナスコトヲ得

府縣郡市町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ歳出ノ殘餘ヲ以テ學校基本財産トナス又ハ特ニ歳入ノ幾分ヲ増加シテ學校基本財産トナスコトヲ得(二十九年法律第八十一號ヲ以テ改正)

第十一條 從前學校ノ爲設ケタル積立金等ニシテ市制第八十一條町村制第八十一條ニ依リ市町村基本財産ニ加入シタルモノハ本法實施後二年間ハ府縣郡參事會ノ許可ヲ受ケ之ヲ區分シテ學校基本財産トナスコトヲ得

第十二條 府縣制郡制市制町村制ニ規定シタル内務大臣ノ職務及關係ハ教育ニ關スル事項ニ就キテハ内務文部兩大臣ニ屬スルモノトス

第十三條 本法ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

○寄附財産ヲ以テ設置スル官立公立學校ニ關スル件

明治三十三年三月三十日
勅令第三百三十六號

朕寄附財産ヲ以テ設置スル官立公立學校ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

寄附財産ヲ以テ設置スル官立公立學校ニ關スル件

第一條 學校ヲ設置維持スル爲財産ヲ國府縣郡又ハ市町村ニ寄附シ學校ノ設置維持ヲ願出テタル者アルトキハ國府縣郡又ハ市町村ハ其ノ寄附財産ヲ受ケ寄附者ノ指定シタル學校ヲ設置維持スルコトヲ得

第二條 本令ニ依リ設置スル公立學校ノ會計ハ特別會計ト爲スヘシ

第三條 本令ニ依リ設置スル學校ハ寄附者ノ志望ニ依リ名稱ヲ付スルコトヲ得

第四條 本令ニ依リ設置シタル學校ノ毎年度經費豫算ニ關シテハ調製前寄附者又ハ其ノ相續人ノ意見ヲ聞クヘシ

第五條 本令ニ依リ設置シタル學校ニ於テハ寄附者又ハ其ノ相續人ニ特別ノ關係アル生徒ニ對シ試驗料入學料又ハ授業料ヲ減額シ又ハ免除スルコトヲ得但シ第六條ニ依リ一般會計ヨリ補足ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 國府縣郡又ハ市町村ハ本令ニ依リ設置シタル學校ノ毎年度經費中職員ノ俸給ニ要スル費用ニ充ツル爲一般會計ヨリ補足ヲ爲スコトヲ得

前項ノ補足金ハ毎年度經費中寄附財産ヲ以テ支辨スル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 本令ニ依リ設置シタル學校ヲ廢止シタル場合ニ於テ寄附者又ハ其ノ相續人アルトキハ殘餘財産ヲ之ニ還付スヘシ

第八條 前數條ノ規定ハ幼稚園圖書館及博物館ニ準用ス

附則

第九條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 諸學校通則ハ之ヲ廢止ス但シ同令第一條ニ依リ設置シタル學校及書籍館ハ仍一箇年以内存續スルコトヲ得

第十一條 前條但書ニ依リ存續シタル學校及書籍館ハ其ノ寄附者ニ於テ前條但書ノ期間内ニ本令ノ規定ニ依リ更ニ出願シタルトキハ繼續ト看做スコトヲ得

○小學校令 明治二十三年十月六日 勅令第二百十五號

朕小學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小學校令

第一章 小學校ノ本旨及種類

第一條 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス

市町村若クハ町村學校組合又ハ其區ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシ一人若クハ數人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス

徒弟學校及實業補習學校モ亦小學校ノ種類トス

第三章 小學校ノ編制

第三條 尋常小學校ノ教科目ハ修身讀書作文習字算術體操トス

土地ノ情況ニ依リ體操ヲ缺クコトヲ得又日本地理日本歴史圖書唱歌手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加ヘ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得

第四條 高等小學校ノ教科目ハ修身讀書作文習字算術日本地理日本歴史外國地理理科圖書唱歌體操トス女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルモノトス

土地ノ情況ニ依リ外國地理唱歌ノ一科目若クハ二科目ヲ缺クコトヲ得又幾何ノ初歩外國語農業商業手工ノ一科若クハ數科目ヲ加フルコトヲ得

第五條 尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併セ置クコトヲ得

第六條 高等小學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ農科商科工科ノ一科若クハ數科ノ專修科ヲ置クコトヲ得其專修科ハ正教科ニ併セ置キ又ハ之ニ代フルモノトス

第七條 尋常小學校又ハ高等小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

第八條 尋常小學校ノ修業年限ハ三箇年又ハ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ハ二箇年三箇年又ハ四箇年トス

第九條 專修科補習科徒弟學校及實業補習學校ノ教科目及修業年限ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 小學校ノ某教科目ハ文部大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ之ヲ隨意科目トナシ又ハ之ヲ學習シ能ハサル兒童ニ課セサルコトヲ得

第十一條 第三條又ハ第四條ニ依リ小學校ノ教科目ヲ加除スルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市參事會又ハ町村長ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併セ置キ又ハ其併置ヲ止ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受

クヘシ

第六條第七條又ハ第八條ニ依リ正教科專修科若クハ補習科ヲ設置廢止シ又ハ修業年限ヲ定ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 小學校教則ノ大綱ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條 小學校ノ單級多級ノ制男女ヲ區別シ教授スヘキ場合多級ノ學校ニ學校長ヲ置クヘキ場合一教員ノ教授シ得ヘキ兒童ノ數等ニ關シテハ文部大臣之ヲ規定ス

第十四條 小學校ノ休業日ハ日曜日ヲ除クノ外毎年九十日ヲ超エサルモノトス但徒弟學校實業補習學校補習科等ニ就キテハ此限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケテ前項ニ依ラサルコトヲ得傳染病ノ流行其他非常變災アルトキハ市内ニアル小學校ニ就キテハ府縣知事町村內ニ在ル小學校ニ就キテハ郡長ニ於テ一時之ヲ閉サシムヘシ其急迫ナル場合ニ於テハ市町村長ニ於テモ亦之ヲ閉ツルコトヲ得

第十五條 小學校ノ每週教授時間ノ制限及祝日大祭日ノ儀式等ニ關シテハ文部大臣之ヲ規定ス

第十六條 小學校ノ教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審査委員ニ於テ審査シ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ルヘシ

審査委員ハ府縣ニ置キ府縣官吏府縣參事會員尋常師範學校長教員及小學校教員ヲ以テ之ヲ組織ス
審査委員及審査ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

小學校令

第十七條 小學校ニ於テハ校舍校地校具體操場ヲ備ヘ又農科ヲ設クル小學校ニ於テハ農業練習場ヲ備フヘキモノトス

特別ノ事情アルトキハ體操場農業練習場ヲ備ヘサルコトヲ得此場合ニ於テハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘク市内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事町村内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 校舍校地校具體操場農業練習場ハ非常變災ノ場合ヲ除ク外小學校ノ目的ニ關セサル事件ノ爲使用スルコトヲ得ス若シ特別ノ事情アリテ之ヲ使用セントスルトキハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村長ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘク市内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事町村内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 校舍校地校具體操場農業練習場ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣定ムル所ノ準則ニ基キ府縣知事ニ於テ土地ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第三章 就學

第二十條 兒童滿六歳ヨリ滿十四歳ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童ヲシテ尋常小學校ノ教科ヲ卒ラサル間ハ就學セシムルノ義務アルモノトス

前項ノ義務ハ兒童ノ學齡ニ達シタル年ノ學年ノ始メヨリ生スルモノトス

學齡兒童ヲ保護スヘキ者ト認ムヘキ要件ハ文部大臣之ヲ規定ス

第二十一條 貧窮ノ爲又ハ兒童ノ疾病ノ爲其他已ムテ得サル事故ノ爲學齡兒童ヲ就學セシムルコト能ハサルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ就學ノ猶豫又ハ免除ヲ市町村長ニ申立ツヘシ

市町村長ハ前項ノ申立ニ依リ必要ナリト認ムルトキ又ハ前項ノ申立ナキモ猶必要ナリト認ムルトキハ學齡兒童若クハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ニ就キテ検査ヲ行フコトヲ得

市町村長ハ本條第一項ノ申立又ハ第二項ノ検査ニ依リ就學ヲ猶豫シ又ハ免除スルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二十二條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童ヲ市町村立小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ニ出席セシムヘシ若シ家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ其市町村長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條 傳染病若クハ厭惡スヘキ疾病ニ罹ル兒童又ハ一家中ニ傳染病者アル兒童又ハ不良ノ行爲アル兒童又ハ課業ニ堪ヘサル兒童等ハ小學校ニ出席スルコトヲ許サス

前項ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定ム

第四章 小學校ノ設置

第二十五條 各市町村ニ於テ其市町村内ノ學齡兒童ヲ修學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置ス

町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ本令ニ關シテハ之ヲ一町村ト同視ス

第二十六條 市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ府縣知事其市ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ町村ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ郡長其町村ノ意見ヲ聞キ之ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二十七條 郡長ハ一町村ノ資力其町村ニ相當スヘキ尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スル場合ニ於テハ其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定ムヘシ

第二十八條 郡長ハ一町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認定スル場合又ハ一町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルモ道路ノ遠隔若クハ困難ナルカ爲適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認定スル場合ニ於テハ左ノ例ニ依ルヘシ

- 一 其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定ムヘシ
- 二 其町村ヲシテ其町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託セシムヘシ

郡長ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ道路ノ遠隔若クハ困難ナルカ爲其兒童ヲシテ其町村ノ尋常小學校ニ通學セシムルコト能ハサル事情アリト認定スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ルヘシ

第二十九條 郡長ハ第二十七條及第二十八條ニ依リ町村學校組合ヲ設ケシムルトキハ關係町村及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定ムルトキモ亦同シ

郡長ハ第二十八條ニ依リ兒童教育事務ヲ委託セシムルトキハ關係町村町村學校組合及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十條 府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ市内ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ市ヲ分畫シテ數區トナシ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル負擔ノ爲其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得

郡長ハ町村若クハ町村學校組合ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキ其他必要ノ事情アルトキハ町村内若クハ町村學校組合内ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ町村若クハ町村學校組合ヲ分畫シテ數區トナシ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル負擔若クハ兒童教育事務委託ノ爲其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得

- 一 町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ
 - 二 町村内若クハ其一部内又ハ町村學校組合ノ一部内ノ就學スヘキ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託スルコトヲ要スル場所數箇所アルトキ
 - 三 町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ト其一部内ノ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託スルコトヲ要スル場所トアルトキ
- 本條第一項ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係市及區ノ意見ヲ聞クヘシ
本條第二項ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十一條 郡長ハ第二十八條第一項ノ事情アルモ同項ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其町村ヲシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關ル義務ヲ免レシムルコトヲ得

郡長ハ第二十八條第二項若クハ第三項ノ事情アルモ同項ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ府縣知

事ノ許可ヲ受ケ其町村若クハ町村學校組合ヲシテ其一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務委託ニ關ル義務ヲ免レシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テモ町村若クハ町村學校組合ハ特別ノ事情アルトキハ猶郡長ノ許可ヲ受ケテ尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得其小學校ノ位置ハ其町村若クハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十二條 郡長ハ町村學校組合ヲ解カシムルトキハ關係町村及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

郡長ハ町村内若クハ其一部内又ハ町村學校組合ノ一部内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託セシムルコトヲ止ムルトキハ關係町村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十三條 町村ハ一町村限リノ負擔ヲ以テ尋常小學校ヲ設置スルニ比シ猶優等ナル尋常小學校ヲ得ヘキ場合又ハ其費用ヲ輕減シ得ヘキ場合ニ於テハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケテ學校組合ヲ設ケ其學校組合ニ相當スル尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ其學校組合ヲ設ケルノ協議ヲナスノ際併セテ之ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十四條 前條ノ町村學校組合ハ郡長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ解クコトヲ得ス

郡長ハ前條及本條ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十五條 府縣知事ハ市内ニ私立尋常小學校アルトキハ其市立小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備ヲ猶豫シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

郡長ハ町村内若クハ町村學校組合内ニ私立尋常小學校アルトキハ其町村立學校ノ設置若クハ其一部ノ設備又ハ兒童教育事務委託ノ事ヲ猶豫シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

私立小學校代用ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第三十六條 市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ高等小學校ヲ設置シ又ハ其區ヲシテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

第三十七條 町村ハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケテ町村學校組合ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受ケテ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

郡長ハ前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

本條ノ學校組合ニ就キテハ第三十四條ヲ適用ス

第三十八條 第三十六條及第三十七條ノ規程ハ徒弟學校及實業補習學校ニ關シ之ヲ適用ス

第三十九條 第三十一條末項第三十三條第三十六條第三十七條及第三十八條ニ掲クル小學校ノ廢止ハ其設立ノ例ニ依ルヘシ

第四十條 市町村ハ幼稚園、圖書館、盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十六條第三十七條及第三十九條ノ規程ヲ適用ス(三十二年勅令第四百二十九號ヲ以テ圖書館ヲ廢止ス)

第四十一條 私立ノ小學校幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ノ設立ハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其廢止ハ之ヲ府縣知事ニ上申スヘシ(同上)

第四十二條 第四十條及第四十一條ノ學校等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五章 小學校ニ關スル府縣郡市町村ノ負擔及授業料

小學校令

- 一 校舍校地校具體操場農業練習場ノ供給及支持
- 二 小學校教員ノ俸給旅費等
- 三 小學校ニ關スル諸費

第四十四條 市町村立小學校ニ就學スル兒童ヲ保護スヘキ者ハ授業料規則ニ依リ授業料ヲ納ムヘシ
 授業料ハ市町村ニ屬スル收入トス

一家ノ兒童同時ニ數名就學スルトキハ授業料ヲ減スルコトヲ得

市町村長ハ兒童ヲ保護スヘキ者貧窮ナル場合ニ於テハ授業料ノ全額若クハ一部ヲ免除スヘシ
 授業料ハ物品若クハ勞力ヲ以テ之ニ代フルヲ許スコトヲ得

(三十年勅令第四百七
號ヲ以テ第六項創設)

第四十五條 郡長ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ學校組合内ノ某町村ヲ
 シテ其數校中ノ一校若クハ若干校ノ設置ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得

郡長ハ第二十八條ニ依リ町村學校組合ヲシテ兒童教育事務ヲ委託セシムルトキハ其學校組合内某町
 村ヲシテ其委託ノ事ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得

本條ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受
 クヘシ

第四十六條 郡長ニ於テ町村學校組合ノ資力其學校組合ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト
 認定シ又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力其學校組合費用ノ分擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ郡
 ハ郡費ヲ以テ其學校組合若クハ町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ
 前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十七條 郡長ニ於テ第二十七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ郡ハ郡費ヲ
 以テ其町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十八條 府縣知事ニ於テ市ノ資力其市ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スルトキ
 ハ府縣ハ府縣費ヲ以テ其市ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十九條 府縣知事ニ於テ郡ノ資力第四十六條又ハ第四十七條ノ補助ヲ負擔スルニ堪ヘスト認定ス
 ルトキハ府縣ハ府縣費ヲ以テ其郡ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第五十條 區長並其代理者及學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村若ク
 ハ町村學校組合ノ負擔トス但區長並其代理者及區ノ學務委員ニ關スルモノハ市町村會又ハ町村學校
 組合會ノ議決ヲ以テ區ノ負擔トナスコトヲ得

第五十一條 (廢止)

第五十二條 小學校教員檢定委員及檢定ニ關スル費用ニシテ府縣ニ屬スルモノ並小學校教科用圖書審
 査委員及審査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第六章 小學校長及教員

第五十三條 小學校ノ教員中小學校ノ某教科目ヲ教授スル者ヲ專科教員トシ其他ノ者ヲ本科教員トス
 小學校ノ教員中小學校ノ科目ヲ補助教授シ又ハ一時教授スル者ヲ准教員トシ其他ノ者ヲ正教員ト
 ス

三十二年六月
 勅令第二百六
 第十二號ヲ以テ
 第五十一條及
 第六十一條乃
 至第六十六條
 第六十九條乃
 廢止

第五十四條 小學校ノ教員ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ
第五十五條 小學校教員免許狀ヲ得ルニハ檢定ニ合格スルコトヲ要ス
檢定ハ府縣ニ小學校教員檢定委員ヲ置キ之ヲ施行ス但シ某種ノ小學校教員ノ檢定ハ文部省ニ於テ之
ヲ施行ス

檢定委員ノ組織權限檢定ノ科目方法受檢者ノ資格教員免許狀教員候補者等ニ關スル規則ハ文部大臣
之ヲ定ム
第五十六條 小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
第五十七條 市町村立小學校長及教員ノ名稱及待遇法ハ別ニ定ムル所ニ依ル
第五十八條 市町村立小學校長及教員ノ任用解職ハ府縣知事之ヲ行フ
第五十九條 市町村立小學校長ハ府縣知事其學校ノ教員中ニ就キテ之ヲ兼任スルモノトス(二十六年勅令
第二十六號)

第六十條 市町村立小學校教員ノ給料額及旅費額ノ標準並給料旅費其他諸給與ノ支給方法ハ府縣知事
ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ
(二十九年十二月勅令第
二號ヲ以テ第二項刪除)

市町村立小學校教員ノ給料ノ若干分ハ土地ノ使用又ハ物品ヲ以テ之ヲ換給スルコトヲ得但シ其歩合ハ
府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ
前項ニ依リ換給スル土地ノ使用又ハ物品ノ價格ハ市町村ノ申出ニ依リ監督官廳之ヲ確定ス其確定シ
タル價格ハ監督官廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ訂正スルコトヲ得又監督官廳ハ
前項ノ換給ヲ適當ナラスト認ムルトキハ之ヲ許サハルコトヲ得

第六十一條 小學校長及教員ノ職務及服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム
第六十二條 市町村立小學校教員ハ學務委員ニ任セラレタルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得ス
第六十三條 小學校長及教員ハ兒童ニ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第六十四條 市町村立小學校長及教員職務ヲ粗略ニシ若クハ職務上違奉スヘキ指命ニ違背シ又體面ヲ
汚辱スルノ行爲アルトキハ府縣知事懲戒處分ヲ行フヘシ其處分ハ譴責罰俸免職免許狀褫奪トス
私立小學校長及教員ニシテ前項ノ行爲アルトキハ其情狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其職務ヲ停止シ又ハ
免許狀ヲ褫奪スヘシ
免職若クハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ十四日以内ニ文部大臣ニ訴願スルコトヲ
得

市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ニ關スル規則並私立小學校長及教員ノ業務停止及免許狀褫奪ニ
關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
第六十五條 小學校教員禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用若クハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ
處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其職ヲ失ヒ免許狀ヲ褫奪セラル、モノトス

第七章 管理及監督
第六十六條 (廢止)
第六十七條 (廢止)
第六十八條 (廢止)
第六十九條 (廢止)
第七十條 市町村長ハ市町村ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス但學校長若クハ

首席教員ノ管理ニ屬スル事務ハ之ヲ監督ス

第七十一條 市町村長ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ市制第二百一十四條町村制第二百二十八條ヲ適用ス

第七十二條 市ハ教育事務ノ爲市制第六十一條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但市會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

委員ニハ市立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分之一ニ下ルコトヲ得ス
委員中教員ヨリ出ツル者ハ市長之ヲ任免ス

第七十三條 市ノ學務委員ハ市ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ市長ヲ補助ス

第七十四條 府縣知事ハ市ノ區長及其代理者ヲシテ市長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第七十五條 市ハ教育事務ノ爲市條例ノ規程ニ依リ市内ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得
委員ニハ市立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス

第七十六條 府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ市長區長並其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得

第七十七條 市ノ區長及其代理者並第七十二條及第七十五條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

- 一 市制第六十四條第五ノ規程ニ依リ市長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ市制第二百二十四條第二項第一ノ規程ヲ適用ス
- 二 市制第二百二十四條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第七十八條 第七十三條及第七十六條ノ事務執行ニ關スル市長區長及其代理者並學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第七十九條 町村ハ教育事務ノ爲町村制第六十五條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分之一ニ下ルコトヲ得ス
委員中教員ヨリ出ツル者ハ町村長之ヲ任免ス

第八十條 町村ノ學務委員ハ町村ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ町村長ヲ補助ス

第八十一條 府縣知事ハ町村ノ區長及其代理者ヲシテ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第八十二條 町村ハ教育事務ノ爲町村條例ノ規程ニ依リ町村内ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得
委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス

第八十三條 府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ町村長區長並其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得

第八十四條 町村ノ區長及其代理者並第七十九條及第八十二條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

- 一 町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ町村長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第二百一十八條第二項第一ノ規程ヲ適用ス
- 二 町村制第二百二十八條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第八十五條 第八十條及第八十三條ノ事務執行ニ關スル町村長區長及其代理者並學務委員ノ關係及其

他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第八十六條 町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規程ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規程ニ依リ學校組合内ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

本條ノ委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス

第八十七條 町村學校組合ノ學務委員ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ組合長ヲ補助ス

府縣知事ハ町村學校組合内ノ區ノ學務委員ヲシテ區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ組合長ヲ補助セシムルコトヲ得

第八十八條 第八十六條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一 町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ組合長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第二百一十八條第二項第一ノ規程ヲ適用ス

二 町村制第二百一十八條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第八十九條 第八十七條ノ事務執行ニ關スル組合長及學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第九十條 特別ノ事情アル町村若クハ町村學校組合ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ學務委員ヲ置カサルコトヲ得

第九十一條 文部大臣ハ私立小學校ニシテ法律命令ノ規程ニ戻ルモノアルトキハ府縣知事ニ命シテ之ヲ閉鎖セシムルコトヲ得

第九十二條 前諸條ニ掲クル教育事務トハ専ラ小學校教育ノ範圍ニ屬スル事務ヲ謂フ

第八章 附則

第九十三條 本令ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

第九十四條 幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ニ就キテハ本令ノ規程ヲ適用スルコトヲ得但尋常小學校設置ノ義務就學ノ義務等ニ關スル規程ハ此限ニ在ラス(三十二年勅令第四百二十號ヲ以テ圖書館廢止)

第九十五條 本令ニ依ラスシテ授與シタル小學校教員免許狀ハ仍其效力ヲ有スルモノトス但正教員准教員ノ別ハ文部大臣之ヲ定ム

第九十六條 明治十九年勅令第十四號小學校令其他本令ニ牴觸スル成規ハ本令施行ノ府縣ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

○小學校令ノ施行ニ關スル件 明治二十四年一月廿三日 勅令第五號

朕小學校令ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年勅令第二百五號小學校令ハ其全部施行シ難キ事狀アル地方ニ限リ府縣知事ノ具狀ニ依リ文部大臣ノ指揮ヲ以テ其一部ヨリ漸次施行スルコトヲ得

○小學校設備準則 明治三十二年七月十日 文部省令第三十七號

小學校令ノ施行ニ關スル件 小學校設備準則

明治二十四年文部省令第十五號小學校設備準則ヲ改正スルコト左ノ如シ

小學校設備準則

- 第一條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ開豁乾燥ニシテ衛生ニ適シ且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ擇フヘシ
- 校地ハ道徳上嫌忌スヘキ場所喧鬧ニシテ授業ニ妨アル場所及危險ナル場所ニ接近スヘカラス
- 第二條 體操場ハ方形若クハ之ニ類スル形狀ニシテ其面積ハ左ノ規定ニ依ルヘシ
 - 一 尋常小學校ニ於テハ生徒百名未満ハ百坪以上トシ生徒百名以上ハ一名ニ付一坪以上ノ割合トス
 - 二 高等小學校ニ於テハ生徒百名未満ハ百五十坪以上トシ生徒百名以上ハ一名ニ付一坪半以上ノ割合トス但特別ノ事情アルトキハ生徒一名ニ付一坪マテニ減スルコトヲ得
- 第三條 校地内ニハ善良ナル飲料水ヲ供給スルノ備ヲ爲シ又下水渠ヲ設クヘシ
- 第四條 校舍ノ建築ハ授業上管理上衛生上ノ便ヲ圖リ質朴堅牢ナルコトヲ要ス
校舍ハ特別ノ事情アル場合ヲ除ク外平屋造ト爲スヘシ
- 第五條 校舍ニハ各學級ニ應スル通常教室及教員室ヲ設クヘシ
前項ノ外唱歌、裁縫等ヲ課スル學校ニ於テハ便宜特別教室ヲ設ケ又必要アル場合ニ於テハ講堂、生徒控所、雨中體操場、宿直室、湯沸所、小使室、物置等ヲ設クヘシ
- 第六條 教室ノ構造ハ左ノ各項ニ準據スヘシ
多級學校ノ教室ハ幅三間以上四間以下長四間以上五間以下單級學校ノ教室ハ幅及長各四間以上五間以下ヲ常例トシ其大ハ生徒一人ニ付三尺平方ノ割合ヨリ小ナルヘカラス

- 天井ハ牀面ヲ距ルコト九尺以上トス
牀ノ高ハ二尺以上トシ牀下ノ四方ニ風抜ヲ設クヘシ
採光窓ノ總面積ハ牀面積ノ六分ノ一以上トシ其下縁ノ位置ハ牀上凡二尺五寸ニ定メ其上縁ハ牀上八尺五寸以上ニシテ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ
但採光窓ノ上部ハ欄間ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
窓ハ生徒座席ノ前面ニ設クヘラカス
教室内ノ壁ハ中性色(灰色淡黄色ノ類)トスヘシ
土地ノ情況ニ依リ成ルヘク暖房ノ裝置ヲ爲シ又ハ暖房器ヲ備フヘシ
各教室ニハ通常二箇ノ出入口ヲ設クヘシ
- 第七條 廊下ハ片廊下ヲ常例トシ其幅六尺以上ナルコトヲ要ス二階造ノ校舍ニ於テハ二箇以上ノ階段ヲ設クヘシ
階段ハ幅四尺五寸以上蹴上ケ五寸乃至六寸踏面八寸乃至一尺トシ成ルヘク曲折構造ト爲シ中間ニ踊場ヲ設ケ且手欄ヲ附スヘシ
 - 第八條 昇降口ハ成ルヘク男女ヲ區別シ常風ノ方向ヲ避クヘシ
 - 第九條 便所ハ別棟トシ夏季常風ノ方向ニ注意シ井ヲ距ルコト四間以上ノ位置ニ之ヲ設クヘシ
糞壺、尿溝、注壁等ハ不滲透物ヲ以テ之ヲ造ルヘシ
便所ハ男女ヲ區別シ男兒百名ニ付大便所二以上小便所四以上女兒百名ニ付五以上ノ割合ヲ以テ之ヲ設クヘシ
 - 第十條 尋常小學校ニ於テハ教科用圖書、地圖、度量衡、黑板、机、腰掛、時計、寒暖計其他必要ナル器具

及參考用圖書等ヲ備フヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ外理科教授用具體操器械等ヲ備フヘシ

第十一條 生徒用机及腰掛ノ寸法ハ別表ノ標準ニ依リ兒童ノ身長ニ適應セシムルコトヲ要ス

第十二條 土地ノ情況ニ依リ成ルヘク教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第十三條 校地及體操場ヲ選定シ校舍ヲ建築スルニハ地方長官ノ認可ヲ受ケシムヘシ

第十四條 本令ノ規定中校舍ノ建築校具ノ新調等ニ際スルニアラサレハ適用シ難キモノハ其時ヲ待テ之ニ依ルコトヲ得

(別表略)

○幼稚園保育及設備規程 明治三十二年六月二十八日 文部省令第三十二號

幼稚園保育及設備規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

幼稚園保育及設備規程

第一條 幼稚園ハ滿三年ヨリ小學校ニ就學スルマテノ幼兒ヲ保育スル所トス

第二條 保育ノ時數(食事時間ヲ含ム)ハ一日五時以内トス

第三條 保母一人ノ保育スル幼兒ノ數ハ四十人以内トス

第四條 一幼稚園ノ幼兒數ハ百人以内トス特別ノ事情アルトキハ百五十人マテ増加スルコトヲ得

第五條 保育ノ要旨ハ左ノ如シ

一 幼兒ヲ保育スルニハ其心身ヲシテ健全ナル發育ヲ遂ケ善良ナル習慣ヲ得シメ以テ家庭教育ヲ補

ハンコトヲ要ス

二 保育ノ方法ハ幼兒ノ心身發育ノ度ニ適應セシムヘク其會得シ難キ事物ヲ授ケ或ハ過度ノ業ヲ爲サシメ又ハ之ヲ強要シテ就業セシムヘカラス

三 常ニ幼兒ノ心性及行儀ニ注意シテ之ヲ正シクセシメハンコトヲ要ス

四 幼兒ハ極メテ模倣ヲ好ムモノナレハ常ニ善良ナル事例ヲ示サンコトニ注意スヘシ

第六條 幼兒保育ノ項目ハ遊嬉、唱歌、談話及手技トシ左ノ諸項ニ依ルヘシ

一 遊嬉

遊嬉ハ隨意遊嬉、共同遊嬉ノ二トシ隨意遊嬉ハ幼兒ヲシテ各自ニ運動セシメ共同遊嬉ハ歌曲ニ合ヘル諸種ノ運動等ヲナサシメ心情ヲ快活ニシ身體ヲ健全ナラシム

二 唱歌

唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ歌ハシメ聽器、發聲器及呼吸器ヲ練習シテ其發育ヲ助ケ心情ヲ快活純美ナラシメ徳性涵養ノ資トス

三 談話

談話ハ有益ニシテ興味アル事實及寓言、通常ノ天然物及人工物等ニ就キテ之ヲナンシテ徳性ヲ涵養シ觀察注意ノ力ヲ養ヒ兼テ發音ヲ正シクシ言語ヲ練習セシム

四 手技

手技ハ幼稚園恩物ヲ用ヒテ手及眼ヲ練習シ心意發育ノ資トス

第七條

幼稚園ノ設備ハ左ノ要項ニ依ルヘシ

一 建物ハ平屋造トシ保育室、遊嬉室、職員室、其他須要ナル諸室ヲ備フヘシ

幼稚園保育及設備規程

- 保育室ノ大サハ幼児四人ニ就キ一坪ヨリ小ナルヘカラス
- 二 遊園ハ幼児一人ニ就キ一坪ヨリ小ナルヘカラス
- 三 恩物、繪畫、遊嬉道具、樂器、黑板、机、腰掛、時計、寒暖計、暖房器其他須要ナル器品ヲ備フヘシ
- 四 敷地飲料水及採光窓ニ關シテハ小學校ノ例ニ依ルヘシ

附則

第八條 此規程ハ明治三十二年九月一日ヨリ施行ス

第九條 既設幼稚園ニシテ第四條及第七條ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ明治三十五年三月三十一日マテハ之ニ依ラサルコトヲ得但府縣立ニアラサルモノハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

○從來ノ市町村立小學校一時存續ノ件 明治二十四年三月三日 勅令第十九號

朕明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令ノ施行ニ際シ從來ノ市町村立小學校一時存續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 從來ノ市町村立尋常小學校ハ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ一時之ヲ存續シ左ノ各款ニ依リ處分スヘシ
- 一 新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレタル市町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ從來ノ市町村立尋常小學校ニシテ其位置新ニ指定セラレタル市町村立尋常小學校ノ位置ト同一ナルモノハ之ヲ繼續維持スヘシ

- 二 新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレタル市町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ從來ノ市町村立尋常小學校ニシテ不用ニ屬スヘキモノハ學齡兒童ヲ就學セシムルノ準備新ニ整フノ時ニ及ヒ之ヲ廢スヘシ
 - 三 兒童教育事務ヲ他ニ委託スヘキコトヲ命セラレタル市町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ第二款ノ例ニ依ルヘシ
 - 四 新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレ及兒童教育事務ヲ他ニ委託スヘキコトヲ命セラレタル市町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ第一款第二款ノ例ニ依ルヘシ
 - 五 聯合町村ヨリ成立スル尋常小學校設置區域及其他市町村ノ區域ト同一ナラサル尋常小學校設置區域ニ於テ設置スル尋常小學校ハ其區域ノ學齡兒童教育ノ事業ヲ引繼クヘキ市町村、町村學校組合又ハ市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ニ於テ學齡兒童ヲ就學セシムルノ準備整フノ時ニ及ヒ之ヲ廢スヘシ
- 第二條 市町村ニ於テ設置スル從來ノ高等小學校ハ其市町村會ノ議決ニ依リ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ一時之ヲ存續シ其市町村ニ於テ同令第三十六條ノ手續ヲ經タル上之ヲ繼續維持スルコトヲ得
- 第三條 聯合町村ヨリ成立スル高等小學校設置區域及其他市町村ノ區域ト同一ナラサル高等小學校設置區域ニ於テ設置スル高等小學校ハ其町村聯合會又ハ學區會ノ議決ニ依リ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ尙六ヶ月以内之ヲ存續スルコトヲ得
- 第四條 第一條乃至第三條ニ依リ一時存續スル小學校ニ係ル管理監督ノ事務ハ從來ノ職員ニ於テ從來

從來ノ市町村立小學校一時存續ノ件

ノ例ニ依リ之ヲ擔任スヘシ

第五條 第一條乃至第三條ニ依リ一時存續スル小學校ニ係ル費用及第四條ノ事務ニ係ル費用ハ從來ノ小學校設置區域ニ於テ從來ノ例ニ依リ之ヲ負擔スヘシ

第六條 第一條第五款及第三條ニ依リ一時存續シタル小學校ニ係ル事務引繼方等ニ關シテハ府縣知事之ヲ規定スルコトヲ得

第七條 本令ノ規程ニ依リ難キ場合ニ在テハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ經テ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

○私立小學校代用規則

明治二十四年三月十日
文部省令第一號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第三十五條ニ基キ私立小學校代用ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

私立小學校代用規則

第一條 市ハ其區域内ニアル私立尋常小學校ヲ以テ市立尋常小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備ニ代用セントスルトキハ該私立小學校設立者ト協議ノ上府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

町村及町村學校組合ハ其區域内ニアル私立尋常小學校ヲ以テ町村立尋常小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備又ハ兒童教育事務ノ委託ニ代用セントスルトキハ該私立小學校設立者ト協議ノ上郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 前條ニ依リ協議ヲ遂クヘキ事項概テ左ノ如シ

一 代用ノ期限

二 代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ住スル區域

三 代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ定員

四 代用私立小學校ニ對スル補助金ノ給否及金額

五 其他府縣知事ニ於テ必要トスル事項

第一條ノ許可ヲ經タル後協議ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其事項ニ就キ更ニ許可ヲ受クヘシ

第三條 代用ノ期限ハ代用セントスル私立尋常小學校ノ修業年限ノ二倍ニ超過スルコトヲ得ス但期限滿ルノ後更ニ代用スルコトヲ得

第四條 私立尋常小學校ハ設立以來三箇年ヲ經過シテ教育上相應ノ成績アルモノニアラサレハ代用私立小學校タルコトヲ得ス

第五條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村若クハ町村學校組合ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

一 小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校ノ修業年限ヲ改定セントスルトキ

二 小學校令第十一條第二項ノ許可ヲ受ケントスルトキ

三 多級ノ編制ヲ單級ノ編制ニ改メントスルトキ

四 學校ノ位置ヲ變更セントスルトキ

五 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合

第六條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市參事會、町村長若クハ町村組合長ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

一 小學校令第十一條第一項ニ依リ尋常小學校ノ教科目ヲ加除セントスルトキ
二 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合

第七條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村長若クハ町村組合長ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

一 小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校ノ補習科ヲ設置廢止セントスルトキ
二 單級ノ編制ヲ多級ノ編制ニ改メントスルトキ

三 小學校令第十七條及第十八條ニ依リ尋常小學校ニ關シテ許可ヲ受ケントスルトキ
四 學校長教員ヲ任用解罷セントスルトキ

五 第二條第三ノ定員ニ滿タサル場合ニ於テ第二條第二ノ區域外ノ兒童ノ入學ヲ許サントスルトキ
六 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合

第八條 代用私立小學校設立者ニ於テ市町村長等ニ報告スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事之ヲ規定ス

第九條 代用私立小學校授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ
代用私立小學校授業料ノ納付上ニ關シ設立者ノ取計ニ異存アル者ハ市町村長若クハ町村組合長ノ處分ヲ請フコトヲ得

第十條 代用私立小學校設立者ハ第二條第三ノ定員ニ滿タサル限リハ正當ノ理由ナクシテ第二條第二ノ區域内ノ兒童ノ入學ヲ拒辭スルコトヲ得ス

代用私立小學校ノ入學上ニ關スル設立者ノ取計ニ就キテハ前條第二項ヲ適用ス

第十一條 監督官廳ハ私立小學校ノ代用ヲ以テ學政上ニ必要ナラス若クハ不利ナリト認定スルトキハ其代用ヲ解除セシムヘシ

第十二條 市町村及町村學校組合ハ其代用ヲ解除セントスルトキハ代用私立小學校設立者ト協議ノ上監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ若シ其協議整ハサルトキハ監督官廳ノ處分ヲ請フコトヲ得

代用私立小學校設立者ハ其代用ヲ解除セントスルトキハ市町村若クハ町村學校組合ト協議ノ上市内ニ在ル學校ニ就キテハ府縣知事町村内ニ在ル學校ニ就キテハ郡長ノ許可ヲ受クヘシ若シ其協議整ハサルトキハ府縣知事若クハ郡長ノ處分ヲ請フコトヲ得

本條ノ許可又ハ處分ヲ請フハ三箇月前ニ於テスヘシ但特別ノ事情アル場合ニ於テハ此限ニアラス

第十三條 代用私立小學校設立者ハ先ツ代用解除ノ許可ヲ經ルニアラサレハ其學校ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十四條 府縣知事ハ此規則中ノ條規ニ依リ難キ場合ニ於テハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得(二十四年十一月文部省令第十七號ヲ以テ追加)

○市町村立小學校授業料ニ關スル件 明治三十年十一月六日 勅令第四百七號

朕市町村立小學校授業料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市町村立尋常小學校授業料ハ一箇月金參拾錢以内トシ土地ノ情況ヲ量リ地方長官之ヲ定ム

第二條 高等小學校ノ授業料ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 特別ノ規定アルモノ、外小學校授業料ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

附則

市町村立小學校授業料ニ關スル件

第四條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第四十四條第六項ハ本令施行ノ日ヨリ削除ス

○市町村立尋常小學校ニ就學スル兒童ノ授業料ニ關スル件

明治二十六年五月十七日
勅令第三十四號

朕市町村立尋常小學校ニ就學スル兒童ノ授業料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市町村ハ左ノ場合ニ限リ市町村會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受ケ尋常小學校ニ就學スル
全員又ハ或學級ノ兒童ノ授業料ヲ徵收セサルコトヲ得

一 學校基本財産ノ收入又ハ寄附金ニ依リ設備及維持ニ供給スルニ足ルトキ

二 設備及維持ニ供給スル爲ニ市町村ノ資力ニ對シ市町村稅ヲ過度ニ賦課スルニ至ラサルトキ

第二條 府縣知事ハ市町村會ノ議決前條ノ範圍ヲ超エ又ハ將來ニ尋常小學校ノ擴張ヲ妨クモノト認ム
ルトキハ之ヲ許可セサルヘシ

○小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則

明治二十四年十一月十七日
文部省令第二十號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第五十六條ニ基キ小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關
スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則

第一條 小學校教員ハ學校ノ種類學級ノ編制等ニ應シ相當ノ資格アル者ヲ任用スヘシ

第二條 市町村立小學校長ハ本科正教員中ニ就キ兼任スルヲ常例トス

第三條 府縣知事ニ於テ市町村立小學校ニ正教員ヲ任用スヘキ場合ニ當リ適當ノ正教員タルヘキ者ヲ
得ルコト能ハスト認ムルトキハ期限ヲ定メテ准教員ヲ任用スルコトヲ得
(三十二年省令第二號
ヲ以テ第二項削除)

第四條 府縣知事ニ於テ市町村立小學校正教員ヲ轉任セシメントスルニ當リ若シ之カ爲メ正教員ヲ准
教員トナシ又ハ俸給ヲ減少スヘキ場合ニ於テハ本人ノ意ニ反シテ之ヲ行フコトヲ得ス但特別ノ事情
アリト認ムルトキハ此限ニ在ラス

第五條 府縣知事ニ於テ市町村立小學校ノ正教員左ノ事項ニ該當スト認ムルトキハ其情狀ニ依リ休職
ヲ命スヘシ但休職ノ期限ハ一箇年以内トス

府縣知事ハ小學校正教員ニシテ高等師範學校、女子高等師範學校、工業教員養成所、尋常師範學校又
ハ尋常師範學校ニ於ケル小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ休職ヲ命スルコトヲ得
豫備後備ノ軍籍ニ在ル小學校正教員戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ當然休職ヲ命セラ
レタルモノトス

休職ノ期限ハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月トス(二十七年八月省令第二十二號
ヲ以テ第二項以下追加)
一 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者其職務ヲ行フニ妨ケアルコト二箇月以上ニ及フトキ

市町村立尋常小學校ニ就學スル兒童ノ授業料ニ關スル件
小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則

二 學校編制ノ變更等ニ依リ其人ヲ要セサルニ至リタルトキ
休職者ハ職務ニ從事セス及俸級ヲ減セラレ又ハ全ク之ヲ受ケサル等ノ外總テ本職者ト異ナルコトナ
シ

第六條 府縣知事ニ於テ市町村立小學校ノ正教員左ノ事項ニ該當スト認ムルトキハ退職ヲ命スヘシ

一 正當ノ理由ニ基キ退職ヲ願出テタルトキ

二 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ終身其職務ニ堪ヘサルトキ

三 (二十七年八月省令第
二十一號ヲ以テ削除)

四 休職者ノ代員トシテ任用セラレタル場合ニ於テ休職者ノ復職スルトキ

從前ノ成規ニ依リ授與シタル小學校教員免許狀又ハ之ト同一ノ效ヲ有スル小學師範學科卒業證書ヲ

有シ教員タル者ニシテ其有效期間滿ツルトキハ特ニ辭令書ヲ用ヒスシテ前項ニ依リ退職ヲ命シタル

者ト同一ニ見做スヘシ休職者ノ休職期限滿ツルトキ亦同シ(同上號ヲ以テ
本項中追加)

第七條 府縣知事ハ休職退職ノ事由ニ關シ第五條第六條ノ例ニ依リ難キモノアル場合ニ於テハ文部大

臣ノ指揮ヲ受ケテ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

第八條 市町村立小學校長及教員ノ任用休職復職退職等ニハ辭令書ヲ交付スヘシ

第九條 私立小學校長ハ其小學校ノ教員中ニ就キ兼任スルヲ常例トス

第十條 第三條准教員任用ノ規程ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用ス但任用ノ期限ハ其設立者ニ於テ之ヲ

定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 私立小學校ノ學校長及教員ノ任用解職ハ其設立者ヨリ府縣知事ニ開申スヘシ

第十二條 此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

○市町村立小學校教員俸給ニ關スル件 明治二十九年十二月二十九日
明治三十年勅令第貳號

朕市町村立小學校教員俸給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市町村町村學校組合及其ノ區ハ第三條ノ月俸平均額ニ基キ小學校ノ教員定數ニ應スル金額ヲ

支出スルノ義務アリ但シ市町村町村學校組合及其ノ區ハ土地ノ情況ニ依リ本項ノ義務額ヲ超エタル

金額ヲ支出スルコトヲ得

第二條 地方長官ハ前條ノ金額以內ニ於テ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムヘシ

地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ市町村町村學校組合及其ノ區ノ同意ヲ得テ前條ノ義務額ヲ超エ

各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムルコトヲ得但シ區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ其ノ經費ヲ議決

スル市町村又ハ町村學校組合ノ同意ヲ得ヘシ

義務額ヲ超エテ俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其ノ俸給額ヲ減

スルコトヲ得ス

第三條 市町村立尋常小學校本科正教員月俸ノ平均額ハ人口十萬以上ノ市ニ在リテハ十六圓其ノ他ノ

市ニ在リテハ十四圓トシ町村ニ在リテハ十二圓トス

市町村立高等小學校本科正教員月俸ノ平均額ハ人口十萬以上ノ市ニ在リテハ二十圓其ノ他ノ市ニ在

リテハ十八圓トシ町村ニ在リテハ十六圓トス

第四條 本科正教員ニ代リ一時教授スル准教員ノ俸給額ニ關シテハ第二條ヲ適用ス

市町村立小學校教員俸給ニ關スル件

第五條 専科教員及補助教授スル本科准教員ノ俸給額ハ地方長官ニ於テ市參事會町村長ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ但シ本條ニ依リ一旦定マリタル俸給額以內ニ於テ任用スル教員ノ俸給額ニ關シテハ市參事會町村長ノ意見ヲ聞クノ限ニアラス

第六條 小學校本科教員ノ月俸ハ左表ノ金額ヲ下スコトヲ得ス

		高等小學校		正教員 准教員
		女	男	
尋常小學校	女	八圓	十圓	
	男	五圓	七圓	
	女	六圓	八圓	
	男	四圓	五圓	

第七條 本令施行ノ際既ニ義務額ヲ超エテ教員俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ第二條ノ手續ヲ經タルモノト同視ス

第八條 本令中町村町村學校組合及其ノ區ニ關スル規定ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用シ町村長ニ關スル規定ハ島司郡區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者ニ適用ス

本令中市及市參事會ニ關スル規定ニシテ特ニ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ適用スルノ必要アルトキハ文部大臣之ヲ定ム此ノ場合ニ於テ市參事會ノ職務ハ區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

附則

第九條 本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第六十條第二項ハ本令施行ノ日ヨリ削除ス

○私立學校令 明治三十二年八月二日 勅令第三百五十九號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ私立學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

私立學校令

第一條 私立學校ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外地方長官ノ監督ニ屬ス

第二條 私立學校ヲ設立セントスル者ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

私立學校ノ廢止及設立者ノ變更ハ監督官廳ニ開申スヘシ

第三條 私立學校ニ於テハ校長若ハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

本令中校長ニ關スル規定ハ之ヲ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ニ適用ス

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ私立學校ノ校長又ハ教員ト爲ルコトヲ得ス

一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレ二箇年ヲ經過セス又ハ懲戒ヲ免除セラレサル者

五 教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經過セサル者

私立學校令

六 性行不良ト認ムヘキ者

第五條 私立學校ノ教員ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ除ク外其ノ學力及國語ニ通達スルコトヲ證明シ小學校、盲啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教員ニ在リテハ地方長官其ノ他ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ專ラ外國語、專門學科又ハ特種ノ技術ヲ教授スル教員及專ラ外國人ヲ入學セシムル爲ニ設立シタル學校ノ教員ハ國語ニ通達スルコトヲ證明スルコトヲ要セス

第六條 前條ノ證明ヲ不充分ト認メタルトキハ監督官廳ハ本人ノ志望ニ依リ試験ヲ施スコトアルヘシ

第七條 私立學校ノ校長又ハ教員ニシテ不適當ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ其ノ與ヘタル認可ヲ取消スコトヲ得

第八條 私立學校ニ於テハ公立學校ニ代用スル私立小學校ヲ除ク外學齡兒童ニシテ未タ就學ノ義務ヲ了ラサル者ヲ入學セシムルコトヲ得ス但シ小學校令第二十一條及第二十二條ニ依リ市町村長ノ許可ヲ受ケタル兒童ヲ入學セシムルハ此ノ限ニ在ラス

第九條 私立學校ノ設備授業及其ノ他ノ事項ニシテ教育上有害ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之カ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條 左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ私立學校ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

- 一 法令ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 安寧秩序ヲ紊亂シ又ハ風俗ヲ壞亂スルノ虞アルトキ
- 三 六箇月以上規定ノ授業ヲ爲ササルトキ

四 第九條ニ依リ監督官廳ノ爲セル命令ニ違反シタルトキ

第十一條 監督官廳ニ於テ學校ノ事業ヲ爲スモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ關係者ニ通告シ本令ノ規定ニ依ラシムヘシ

第十二條 第十條ニ依ル處分ニ對シテハ訴訟法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ通告ヲ受ケ第二條第一項ノ手續ヲ爲ササル者及第二條第二項ノ規定ニ違反シタル者竝第十條ニ依リ閉鎖ヲ命セラレタル後尙私立學校ヲ繼續スル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第三條又ハ第五條ノ認可ヲ得スシテ私立學校ノ校長又ハ教員タル者及第七條ニ依リ認可ヲ取消サレタル後尙私立學校ノ校長又ハ教員タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第八條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 本令ノ規定ハ私立幼稚園ニ準用ス

第十七條 文部大臣ハ本令施行ノ爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

附 則

第十八條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

第十九條 既設ノ私立學校ニシテ未タ設立ノ認可ヲ受ケサルモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ本令ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第二十條 本令施行ノ際現ニ私立學校ノ校長又ハ教員タル者ニシテ引續キ當該學校ノ校長又ハ教員タルント欲スル者ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル教員ヲ除ク外本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ

旨ヲ監督官廳ニ開申スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三條又ハ第五條ノ認可ヲ受クルヲ要セス

○私立學校令施行規則

明治三十二年八月三日
文部省令第三十八號

明治三十二年勅令第三百五十九號私立學校令第十七條ニ依リ私立學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

私立學校令施行規則

- 第一條 私立學校令第二條ニ依リ私立學校設立ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ニ校地、校舍、寄宿舎ノ圖面ヲ添ヘ監督官廳ニ申請スヘシ
- 一 目的
- 二 名稱
- 三 位置
- 四 學則
- 五 經費及維持方法
- 前項第一號乃至第三號及校地、校舍、寄宿舎ノ變更ハ監督官廳ニ開申シ第四號ノ變更ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二條 學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ
- 一 修業年限、學年、學期、休日ニ關スル事項
- 二 學科課程、授業時間ニ關スル事項

三 試驗ニ關スル事項

四 入學退學ニ關スル事項

五 授業料、入學料等ニ關スル事項

六 賞罰ニ關スル事項

七 寄宿舎ニ關スル事項

八 職員ノ職務ニ關スル事項

第三條 私立學校令第三條第一項又ハ第五條第一項ニ依リ私立學校ノ校長、學校代表者又ハ教員タルノ認可ヲ受ケントスル者ハ履歷書ヲ添ヘ監督官廳ニ申請スヘシ

第四條 私立學校令第六條ニ依リ施スヘキ試驗ハ小學校、盲啞學校及小學校ニ類スル各種學校教員ニ在リテハ小學校教員檢定委員、其ノ他ニ在リテハ師範學校、中學校、高等女學校教員檢定委員又ハ文部大臣ノ特ニ選定シタル委員ヲシテ之ヲ行ハシム

第五條 私立學校ノ種類ニ依リ別段ニ規定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附則

第六條 明治十四年文部省達第十五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

參照 明治十四年五月文部省達第十五號ハ府縣ニ於テ町村立私立學校ノ設置ヲ認可シタルトキ其教則等開申書式ノ件ナリ

○私立學校ノ設立認可ノトキ報告事項ノ件

明治三十二年十月二十七日
文部省訓令第十四號

私立學校令第二條ニ依リ私立學校ノ設立ヲ認可シタルトキハ其ノ修業年限、學科課程及生徒入學資格ヲ報告スヘシ其ノ變更ヲ認可シタルトキハ亦同シ
但小學校、盲啞學校及小學校ニ類スル各種學校ニ關シテハ此ノ限ニアラス

○圖書館令 明治三十二年十一月十日
勅令第四百二十九號

朕圖書館令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

圖書館令

- 第一條 北海道府縣郡市町村北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ムニ於テハ圖書ヲ蒐集シ公衆ノ閱覽ニ供セムカ爲圖書館ヲ設置スルコトヲ得
- 第二條 明治二十六年勅令第三十三號ノ規定ハ圖書館ニ關シ之ヲ準用ス
- 第三條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ圖書館ヲ設置スルコトヲ得
- 第四條 圖書館ハ公立學校又ハ私立學校ニ附設スルコトヲ得
- 第五條 圖書館ノ設置廢止ハ其ノ公立ニ係ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ私立ニ係ルモノハ文部大臣ニ開申スヘシ
- 第六條 公立圖書館ニハ館長及書記ヲ置キ地方長官之ヲ任免ス
館長書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク其ノ等級配當ニ關シテハ館長ニハ明治二十五年勅令第三十

九號中判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立中學校教諭ニ關スル規定、書記ニハ公立中學校書記ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條 公立圖書館ニ於テハ圖書閱覽料ヲ徵收スルコトヲ得

附 則

第八條 諸學校通則第三條中及小學校令中書籍館及圖書館ニ關スル規定ニ之ヲ廢止ス

○公立學校ニ學校醫設置方 明治三十一年一月八日
勅令第二號

朕公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 北海道府縣郡市町村ノ設置ニ係ル學校ニ學校醫ヲ置ク
地方長官ハ特別ノ事情アルトキハ村立學校及人口五千未満ノ町立學校ニハ當分ノ内學校醫ヲ置カサルコトヲ得
 - 第二條 學校醫ハ地方長官之ヲ囑託ス
 - 第三條 學校衛生事務ニ關シ學校醫ハ地方長官郡市町村長ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ述フヘク又之ニ建議スルコトヲ得
 - 第四條 學校醫ニハ其ノ學校經費ヨリ相當ノ手當ヲ給スヘシ
 - 第五條 學校醫ノ囑託執務及其他ニ關シ必要ナル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 附 則
- 第六條 本令ニ於テハ北海道沖繩縣ノ區ノ設置ニ係ル學校ハ町立學校ト同視シ沖繩縣ノ間切及島ノ設

置ニ係ル學校ハ村立學校ト同視ス
 第七條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本令中市町村長ニ關スル規定ハ島司郡長北海道ニ在テハ支廳長
 戶長又ハ之ニ準スヘキモノニ適用ス
 第八條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

○學校醫職務規程 明治三十一年二月二十六日 文部省令第六號

明治三十一年勅令第二號第五條ニ基キ學校醫職務規程ヲ定ムルコト左ノ如シ
 學校醫職務規程

- 第一條 學校醫ハ本令ニ規程アルモノ、外地方長官ノ命ヲ受ケ學校衛生ニ關スル職務ニ從事ス
- 第二條 學校醫ハ毎月少クトモ一回教授時間内ニ於テ當該學校ニ到リ衛生上ノ事項ヲ視察スヘシ
 學年ノ終及學期ノ始メニ於テハ特ニ當該學校ニ到リ視察スルコトヲ要ス
- 第三條 學校醫ハ學校視察ノ際左ノ事項ヲ調査シ之ヲ視察簿ニ記入スヘシ
 - 一 換氣ノ良否
 - 二 採光ノ適否
 - 三 机腰掛ノ適否
 - 四 前列及最後列ノ机ト黑板トノ距離
 - 五 暖爐ノ有無及暖爐ト最近生徒トノ距離
 - 六 室内ノ溫度
 - 七 圖書掛圖黑板ノ衛生上ノ適否

三十三年省令
 第五號ヲ以テ
 改正

全上ヲ以テ追
 加

全上改正

- 八 學校清潔方法實行ノ情況
 - 九 飲料水ノ良否
 - 十 其ノ他衛生上必要ナル事項
- 第四條 學校醫ハ學校視察ノ際疾病ニ罹レル生徒ヲ發見シタルトキハ其病症ニ依リ缺課休學又ハ療治ヲ爲サシムヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ
- 第五條 學校醫ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢查規程ニ依リ生徒ノ身體ヲ檢查シ身體查檢票ヲ調製スヘシ
- 學校醫ハ生徒ノ入學退學等ニ際シ學校長ノ請求ニ應シ其ノ生徒ノ身體ヲ檢查スヘシ
- 第六條 學校醫ハ學校ノ近傍若クハ學校内ニ於テ傳染病ノ發生シタルトキハ數次學校ニ到リ必要ナル豫防消毒方法ヲ施行シ尙其情況ニ依リ學校ノ全部若クハ一部分ノ閉鎖ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ管理
 理者及學校長ニ申告スヘシ
- 通學生徒ノ所在地ニ傳染病ノ發生シタル場合ニ於テ其通學生徒ノ昇校ヲ禁スヘキ必要ヲ認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スヘシ
- 第七條 學校醫ハ衛生上必要ト認メタル事項ニ就テハ管理者及學校長ニ申告スヘシ
- 第八條 此規程施行ノ爲メ必要ナル細則ハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得

○學校醫ノ資格 明治三十一年二月二十六日 文部省令第七號

明治三十一年勅令第二號第五條ニ基キ學校醫ノ資格ヲ定ムルコト左ノ如シ

學校醫職務規程 學校醫ノ資格

- 第一條 學校醫ヲ囑託スルニハ左ニ掲クル各項ノ一ニ該當シ且醫術開業免狀ヲ有スル者ノ中ニ於テス
ヘシ
- 一 帝國大學醫科大學醫學科卒業ノ者
 - 二 元東京大學醫學部醫學科本科又ハ別課卒業ノ者
 - 三 高等學校醫學部醫學科卒業ノ者
 - 四 元高等中學校醫學部醫學科卒業ノ者
 - 五 大坂府京都府愛知縣醫學部醫學科卒業ノ者
 - 六 元府縣立甲種醫學校卒業ノ者
- 第二條 第一條ノ資格ヲ具フル者ヲ得難キ場合ニ於テハ帝國大學醫科大學國家醫學講習科修了ノ者又ハ明治十六年布告第三十五號醫師免許規則第二條又ハ第四條ニ依リ醫術開業免狀ヲ有スル者ニ囑託スルコトヲ得

○教育基金令 明治三十二年十一月二十一日
勅令第四百三十五號

朕教育基金令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教育基金令

- 第一條 教育基金元資金ヨリ生スル收入ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ使用ス
- 第二條 文部大臣ハ教育基金特別會計法第四條ニ依リ一般ノ歳出トシテ毎年度豫算ニ於テ定マリタル

金額ヲ前年十二月三十一日現在ノ學齡兒童數ニ應シテ北海道廳及府縣ニ配當ス

第三條 前條ノ配當金ハ沖繩縣ヲ除クノ外府縣ニ下付スヘシ

府縣ハ前項ノ下付金ヲ以テ其ノ教育資金ト爲シ特別會計ヲ設置スヘシ

北海道廳及沖繩縣ノ配當金ハ文部大臣之ヲ管理ス

第四條 教育資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第五條 教育資金ハ第八條ノ場合ヲ除クノ外市町村立尋常小學校ノ校地校舍ヲ設備スル費用ニ充ツル

爲市制町村制ヲ施行シタル地方ニ於テハ之ヲ市町村町村組合町村學校組合ニ貸付シ其ノ他ノ地方ニ

於テハ之ヲ小學校設置區域ニ補助ス

第六條 貸付金額ハ市町村町村組合町村學校組合ノ申請ニ依リ第五條ノ設備ニ要スル費用ノ總額十分

ノ七以內ニ於テ地方長官之ヲ定ム

貸付金ノ償還期間ハ十箇年以內トシ年賦ヲ以テ之ヲ償還セシムヘシ

貸付金ニ對シテハ一箇年百分ノ五ノ利子ヲ附スヘシ

第七條 補助金額ハ第五條ノ設備ニ要スル費用ノ總額十分ノ三以內ニ於テ地方長官之ヲ定ム

第八條 府縣ハ毎年配當ヲ受ケタル金額十分ノ三以內ヲ限リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ市町村立小學校教

員ノ獎勵其ノ他普通教育ニ關スル費用ニ充ツルコトヲ得

第九條 府縣知事ハ教育資金使用ニ關スル規則ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 北海道廳及沖繩縣ノ配當金ノ使用ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第十一條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 教育基金中本令施行以前ニ生シタル利子額ニ相當スル金額ノ使用方法ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○教育基金令ニ依リ北海道廳及沖繩縣ノ配當金使用ニ

關スル規程 明治三十三年二月十六日
文部省令第三號

明治三十二年勅令第四百三十五號教育基金令第十條ニ基キ北海道廳及沖繩縣ノ配當金ノ使用ニ關スル規程左ノ通定メ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス
教育基金令第二條ニ依リ北海道廳及沖繩縣ニ配當シタル金額ハ公立尋常小學校ノ校地校舍ノ設備ニ充ツル爲之ヲ區町村間切島ニ補助ス但配當金ノ一部ヲ以テ公立小學校教員ノ獎勵其ノ他普通教育ニ關スル費用ニ充ツルコトアルヘシ

○教育基金令ニ依ル配當金ノ使用ニ關スル件 明治三十三年二月二十日
文部省訓令第二號

北海道廳 沖繩縣

- 一 明治三十二年勅令第四百三十五號教育基金令第三條第三項ノ配當金ノ使用ニ關スル事務ハ其道廳長官及縣知事之ヲ行フヘシ
- 二 道廳長官及縣知事ハ前項配當金使用ニ關スル規則ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○市町村立小學校教育費國庫補助法 明治三十三年三月十五日
法律第六十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル市町村立小學校教育費國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村立小學校教育費國庫補助法

- 第一條 市町村立小學校教育費ヲ補助スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス
- 第二條 前條ノ補助金ハ市町村立小學校教員ノ年功加俸及市町村立尋常小學校教員ノ特別加俸ニ充ツ其ノ加俸ニ關スル方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 第一條ノ補助金ハ學齡兒童數及就學兒童數ノ和ニ比例シテ之ヲ北海道廳及府縣ニ配賦ス北海道廳及沖繩縣ノ配賦金ハ文部大臣之ヲ管理シ其ノ他ハ之ヲ府縣ニ下付スヘシ

附則

- 第四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス
 - 第五條 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法及小學校教育費國庫補助法ハ之ヲ廢止ス
 - 第六條 本法施行ノ際市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ニ依リ現ニ年功加俸ヲ受クル者ニハ同一學校ニ勤績スル間仍其ノ加俸ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ本法ニ依リ年功加俸ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ニ依リ支給スル金額ハ第三條ノ配賦金ヨリ支出ス

○市町村立小學校教員加俸令 明治三十三年三月三十日
勅令第三百三十三號

朕市町村立小學校教員加俸令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教育基金令ニ依リ北海道廳及沖繩縣ノ配當金使用ニ關スル規程 教育基金令ニ依ル配當金ノ使用ニ關スル件 市町村立小學校教育費國庫補助法 市町村立小學校教員加俸令

市町村立小學校教員加俸令

- 第一條 沖繩縣ヲ除クノ外府縣ハ市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第二項ノ下付金ヲ以テ市町村立小學校教員加俸資金トナシ特別會計ヲ設置スヘシ
- 前項ノ資金ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得
- 第二條 市町村立小學校教員加俸資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ
- 第三條 市町村立小學校本科教員ニシテ五箇年以上同一府縣内ノ市町村立小學校ニ勤績シ地方長官ニ於テ成績佳良ナリト認メタル者ニハ年功加俸ヲ給ス
- 年功加俸ハ正教員ニ在リテハ年額二十四圓トシ准教員ニ在リテハ年額十八圓トス但シ年功加俸ヲ受ケタル後勤績年數五箇年ヲ加フル毎ニ正教員ニ在リテハ年額十八圓ヲ加ヘ准教員ニ在リテハ年額十二圓ヲ加フルコトヲ得
- 第四條 兵役ニ服スル爲其ノ職ヲ去リタル者兵役ヲ終リタル後九十日以内更ニ就職シタルトキハ前後ノ在職年數ヲ勤績年數ニ通算ス學校ノ廢止若ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日以内更ニ就職シタルトキ亦同シ
- 第五條 師範學校訓導ニ在職シタル年數ハ之ヲ勤績年數ニ通算ス
- 第六條 年功加俸ヲ受ケタル者懲戒處分ヲ受ケタルトキ又ハ地方長官ニ於テ成績佳良ナラスト認メタルトキハ年功加俸ヲ支給セズ
- 第七條 市町村立尋常小學校本科正教員ニシテ單級學校ニ勤務スル者ニハ年額二十四圓以下ノ特別加俸ヲ給ス其ノ僻陬ノ地ニ在ル多級學校ニ勤務スル者ニハ地方長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ年額十八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條 小學校令ヲ施行セサル地方ニ於ケル訓導及訓導ノ資格アル學校長ハ本令ニ於テハ本科正教員ト看做ス

第九條 市町村立小學校教員加俸給與ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附則

- 第十條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十一條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ依リ支給ヲ受ケタル者ニシテ本令第三條第一項ニ依リ年功加俸ヲ受ケ其ノ額同法ニ依リ受ケル額ヨリ寡キトキハ同一學校ニ勤績スル間其ノ差額ヲ加給ス

○市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法 明治二十三年十月二日 法律第九十號

朕市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

- 第一條 市町村立小學校ノ正教員ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受ケルノ權利ヲ有ス
- 第二條 在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス
 - 一 年齡六十歳ヲ超ヘ退職ヲ命シタルトキ
 - 二 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ
 - 三 廢校ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

第三條 左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退隱料ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加退隱料ヲ給ス

一 職務ニ依リ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲
退職ヲ命シタルトキ

二 職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

第四條 官吏恩給法第五條第一項第四項第五項第六條第十一條及第十二條第一項ハ退隱料ニ適用ス
退隱料等ノ支給上ニ關スル在職年數ノ算定ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 (第一項削除)

退隱料ヲ受ル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其間退隱料ノ支給ヲ停止ス

一 公務ニ就キ退職現時ノ給料額ト同額以上ノ給料ヲ受クルトキ

二 五箇年以上受領ヲ怠リタルトキ

三 公權ヲ停止セラレタルトキ

第六條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ退隱料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス

第七條 市町村立小學校ノ准教員ハ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ第三條ニ該當スル者ニ限り退職現時ノ給料四分ノ一ノ退隱料ヲ終身給與ス

第八條 在職滿一年以上ニシテ退職シタル市町村立小學校正教員ニハ退職現時ノ給料半箇月分ヲ以テ在職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金員ヲ一時給與ス但休職滿期ニ依リ退職シタル者ハ其本職

最終ノ給料額ニ依リ之ヲ給與ス

第二條 第三條又ハ第七條ニ依リ退隱料ヲ受クル者自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ前項ノ限ニ在ラス

本條ノ退職給與金ヲ受ケタル者他日市町村立小學校正教員ニ再任シ爾後退職シタルトキハ第一項ノ在職年數ハ其再任ノ月ヨリ起算ス

第九條 退隱料ノ支給及第八條ノ給與ハ市町村長ノ證明ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス
官吏恩給法第十六條及第十八條ハ退隱料ニ適用ス

第十條 市町村立小學校正教員左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

- 一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ
- 二 在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ
- 三 退隱料ヲ受クル者死去シタルトキ

第十一條 官吏遺族扶助法第四條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス

官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ癆疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキ場合ニ適用ス

第十二條 在職十五年未滿ノ市町村立小學校正教員在職中職務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職三年未滿ノ者ニ在テハ本職最終ノ給料一箇月分ニ當ル金員ヲ給シ二年以後滿一年毎ニ給料年額百分ノ二ニ當ル金員ヲ加フ

第十三條 扶助料及扶助金ノ支給並第十一條第二項ノ給與ハ市町村長ノ申牒ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス

第十四條 府縣ハ小學校教員恩給基金ヲ備フヘキモノトス

市町村ハ其市町村立小學校ニ在職スル正教員ノ給料額百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年其府縣ニ納ムヘキモノトス

兼職ニ係ル加俸ニ對シテハ本條ノ納金ヲ要セス

本條第二項ノ納金ハ府縣小學校教員恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其利子ヲ以テ退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得サルモノトス

本條第二項ニ依リ各府縣ニ於テ收入シタル納金額二分ノ一ニ當ル金員ヲ收入年度ノ翌々年度毎ニ國庫ヨリ府縣ニ給與スルモノトス

退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ハ恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘキモノトス

恩給基金ノ管理並退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

恩給基金ノ管理並退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル費用ハ總テ府縣ノ負擔トス

第十五條 此法律中第一條乃至第十三條ハ明治二十六年度ヨリ第十四條ハ明治二十五年ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此法律ノ條規ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條納金收入ニ關スル件

明治二十四年十月九日 文部省訓令第三號

北海道廳 府縣

明治二十三年十月法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ノ納金收入ニ關スル規則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○府縣小學校教員恩給基金管理規則

明治二十四年十月九日 文部省令第七號

明治二十三年十月法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ニ基キ府縣小學校教員恩給基金管理規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

府縣小學校教員恩給基金管理規則

第一條 小學校教員恩給基金ハ他ノ府縣有財產ト區分シテ之ヲ管理スヘシ

第二條 小學校教員恩給基金ハ現金又ハ公債證書トシ總テ大藏省預金局ニ寄託スヘシ

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條納金收入ニ關スル件 府縣小學校教員恩給基金管理規則

第三條 當該年度ノ支出ニ充テタル小學校教員恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其他ノ收入ニシテ殘除アルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ恩給基金ニ加入シ又ハ翌年度へ繰越スヘシ

第四條 小學校教員恩給基金ノ整理方法ハ特別ノ規定ナキモノハ總テ他ノ府縣有財產ノ例ニ依ル

社寺

○古社寺保存法

明治三十年六月五日
法律第四十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル古社寺保存法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

古社寺保存法

- 第一條 古社寺ニシテ其ノ建造物及寶物類ヲ維持修理スルコト能ハサルモノハ保存金ノ下付ヲ內務大臣ニ出願スルコトヲ得
- 第二條 國費ヲ以テ補助保存スヘキ社寺ノ建造物及寶物類ハ歴史ノ證徴、由緒ノ特殊又ハ製作ノ優秀ニ就キ古社寺保存會ニ諮詢シテ內務大臣之ヲ定ム
- 第三條 前條ノ建造物及寶物類ノ修理ハ地方長官之ヲ指揮監督ス
- 第四條 社寺ノ建造物及寶物類ニシテ特ニ歴史ノ證徴又ハ美術ノ模範トナルヘキモノハ古社寺保存會ニ諮詢シ內務大臣ニ於テ特別保護建造物又ハ國寶ノ資格アルモノト定ムルコトヲ得
- 第五條 特別保護建造物及國寶ハ之ヲ處分シ又ハ差押フルコトヲ得ス但シ內務大臣ノ許可ヲ得テ國寶ヲ公開ノ展覽場ニ出陳スルハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 前條ノ物件ハ神職官國幣社ニ在テハ宮司、府縣郷社ニ在テハ社司、村社以下ニ在テハ社掌以下之ニ做フ若ハ住職之ヲ監守シ內務大臣ノ監督ニ屬スルモノトス但シ內務大臣ノ許可ヲ經テ別ニ監守者ヲ置クコトヲ得

古社寺保存法

第七條 社寺ハ内務大臣ノ命ニ依リ官立又ハ公立ノ博物館ニ國寶ヲ出陳スルノ義務アルモノトス但シ祭典法用ニ必要ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ命ニ對シテハ訴願ヲ爲スコトヲ得

第八條 前條ニ依リ國寶ヲ出陳シタル社寺ニハ命令ニ定メタル標準ニ從ヒ國庫ヨリ補給金ヲ支給スルモノトス

第九條 神職住職其ノ他ノ監守者ニシテ内務大臣ノ命ニ違背シ國寶ヲ出陳セサルトキハ内務大臣ハ其ノ出陳ヲ強要スルコトヲ得

第十條 社寺ニ下付シタル保存金ハ地方長官之ヲ管理ス
保存金ハ豫算金ヲ以テ之ヲ下付ス但シ精算ノ上剩餘アルトキハ内務大臣ハ之ヲ還付セシムルコトヲ得

第十一條 社寺ニ下付シタル保存金ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十二條 第十條及第十一條ノ保存金ハ其ノ利子ヲ包含スルモノトス

第十三條 監守者其ノ監守スル所ノ國寶ヲ竊取シ、毀棄シ、隱匿シ若ハ他ノ物件ト變換シ又ハ第五條ノ規定ニ違背シタルトキハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五條ノ物件ナルコトヲ知リテ之ヲ讓受ケ、借受ケ、擔保ニ取リ、寄藏シ若ハ其ノ牙保ヲ爲シタル者ハ六月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 監守者怠慢ニ由リ國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

過料ハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
過料ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徵收ス其ノ徵收ニ付テハ民事訴訟法第六編ノ規定ヲ準用ス但シ此ノ場

合ニ於ケル檢事ノ命令ハ執行文ノ效力ヲ有ス

第十五條 第七條ニ依リ出陳シタル國寶ノ監守者故意怠慢ニ由リ國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ國庫ハ命令ニ定メタル評價ノ方法ニ從ヒ其ノ損害ヲ賠償スルモノトス但シ其ノ評價額ニ關シテハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第十六條 本法ニ定メタル保存金及補給金トシテ國庫ヨリ支出スヘキ金額ハ一箇年拾五萬圓乃至貳拾萬圓トス

附則

第十七條 本法施行前社寺ニ下付シタル保存金ニ關シ内務大臣ハ第十條乃至第十二條ヲ適用スルコトヲ得

第十八條 第四條ニ該當スル物件ハ社寺ニ屬セサルモノト雖所有者ノ請求アルトキハ第七條第一項ニ掲ケタル博物館ニ出陳スルコトヲ許可シ之ニ補給金ヲ支給スルコトヲ得

第十九條 名所舊蹟ニ關シテハ社寺ニ屬セサルモノト雖仍本法ヲ準用スルコトヲ得

第二十條 本法施行上必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○古社寺保存法施行ニ關スル件

明治三十年十二月十三日
勅令第四百四十六號

朕古社寺保存法施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 古社寺保存法第七條ニ依リ國寶ヲ博物館ニ出陳セシメタルトキハ當該博物館ニ國寶監守ヲ置

古社寺保存法施行ニ關スル件

國寶監守ハ命ヲ内務大臣ニ承ケ出陳國寶ノ監守ニ關スル一切ノ責ニ任ス
 第二條 官立博物館ノ國寶監守ハ當該博物館ノ奏任待遇以上ノ館員ヲ以テ之ニ充ツ
 公立博物館ノ國寶監守ハ當該博物館長ヲ以テ之ニ充ツ
 第三條 國寶監守ハ身元保證金ヲ納ムヘシ
 前項ノ身元保證金ニ關シテハ明治二十二年勅令第六十號會計規則及明治二十三年勅令第四號ヲ準用ス

第四條 國寶監守故意怠慢ニ由リ其ノ監守スル國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ
 第五條 古社寺保存法第八條ニ依リ支給スヘキ補給金ハ國寶一箇ニ就キ一箇年二圓以上五十圓以下トシ内務大臣ハ出陳ヲ命スル都度之ヲ定ム但シ國寶ニシテ特ニ貴重ナルモノアルトキハ内務大臣ハ古社寺保存會ニ諮詢シ五十圓以上百圓以下ヲ支給スルコトヲ得
 第六條 出陳ニ要スル荷造運搬費等ハ總テ當該博物館ニ於テ支辨スヘキモノトス出陳ノ義務ヲ解除シタルトキ返送ニ要スル荷造運搬費等亦同シ

第七條 古社寺保存法第十五條ニ依リ損害賠償ヲ要スルトキハ内務大臣ハ賠償金額ヲ豫定シ古社寺保存會ノ議ニ附ス
 前項ニ依リ古社寺保存會ニ於テ議決シタル金額内務大臣ノ豫定金額ニ相違シタルトキハ内務大臣ノ豫定額ト古社寺保存會ノ議決額トヲ合セ之ヲ二除シタル額ヲ以テ賠償ノ實額トス
 第八條 本令ニ定ムルモノノ外古社寺保存法施行ニ要スル細則ハ内務大臣之ヲ定ム

○古社寺保存法施行細則 明治三十年十二月十五日
 内務省令第三十五號

古社寺保存法施行細則左ノ通相定ム

古社寺保存法施行細則

- 第一條 古社寺保存法第一條ニ依リ保存金ノ下付ヲ出願セントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ詳具シ之ヲ内務省ニ差出スヘシ
- 一 出願ノ事由
 - 二 修理スヘキ物件ノ名稱、所在、種類、品質、員數、形狀、寸尺、構造、坪數竝歴史ノ證徴、由緒ノ特殊又ハ製作ノ優劣等ヲ證見スルニ足ルヘキ要項
 - 三 建築又ハ製作ノ年代及其ノ後之ニ加ヘタル修理ノ年月
 - 四 修理ニ要スル工費豫算竝設計仕様等
 - 五 竣成期限
 - 六 出願者ノ資力ヲ證スルニ足ルヘキ事項
- 第二條 特別保護建造物及國寶ノ修理費ニ對シ國庫ヨリ補助スル場合ニ於テハ當該社寺ハ少クとも其ノ半額ヲ負擔スヘキモノトス但シ特別ノ事情アルモノニ限リ其ノ負擔ヲ輕減スルコトヲ得
- 第三條 保存金下付ノ後ニ於テ設計仕様ノ變更若ハ竣成期限ノ延期ヲ要スルトキハ其ノ事由及變更設計仕様書等ヲ具シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ關係者ノ願出ニ係ラス設計仕様ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

古社寺保存法施行細則

第四條 修理竣リタルトキハ精算書ヲ添ヘ二箇月以内ニ内務大臣ニ届出ツヘシ

第五條 本令ノ規程ニ違反シ若ハ保存金下付ノ條件ニ違反シタルトキハ内務大臣ハ保存金ノ全部若ハ一部ノ返付ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 國寶ハ分ツテ左ノ三種トス但シ神社ノ祭神若ハ寺ノ本尊ハ此ノ限ニ在ラス

甲種 製作ノ優秀ナルモノ

乙種 由緒ノ特殊ナルモノ

丙種 歴史ノ證徴トナルモノ

甲種ハ製作優秀ノ程度ニ依リ一等乃至四等ノ四等ニ分ツ

第七條 内務省ニ特別保護建造物臺帳竝國寶臺帳ヲ備置クモノトス

第八條 特別保護建造物ノ臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス

- 一 名稱
- 二 所有者及所在地
- 三 創立及沿革
- 四 構造、形式
- 五 寸尺

第九條 國寶臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス

- 一 名稱
- 二 所有者及所在地
- 三 作者及傳來

四 第六條ノ種別等級

五 種類

六 員數

七 品質

八 形狀

九 寸尺

第十條 特別保護建造物若ハ國寶ヲ臺帳ニ登記シタルトキハ特別保護建造物證書若ハ國寶證書ヲ其ノ物件所有者ニ交付ス

第十一條 古社寺保存法第六條但書ニ依リ別ニ監守者ヲ置カントスル者ハ其ノ氏名、履歷、資産調査ヲ添ヘ設置ノ事由ヲ詳具シテ内務大臣ニ願出ツヘシ

第十二條 特別保護建造物若ハ國寶ニシテ亡失毀損アリタルトキハ其ノ實況ヲ詳具シ五日以内ニ内務大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 補給金ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ支給ス

甲種一等	五十圓以下
同 二等	三十五圓以上 五十圓以下
同 三等	二十圓以上 三十五圓以下
同 四等	十圓以上 二十圓以下
乙種	二十圓以上 四十圓以下
丙種	十圓以上 二十圓以下

第十四條 前條ノ補給金ハ月割ヲ以テ計算シ一箇月ニ滿タサル端日數及厘位未滿ハ切捨トス
 第十五條 博物館ニ於テ國寶ヲ受領シタルトキハ受領證書ヲ交付シ又國寶ヲ返付スルトキハ該證書ト引換フヘシ
 第十六條 博物館ニ於テ國寶ヲ受授シタルトキハ其ノ都度内務大臣及當該地方長官ニ報告スヘシ
 第十七條 從前社寺ニ下付シタル保存金ニ關シテハ古社寺保存法第十七條ニ依リ同法第十條乃至第十二條ヲ適用ス
 第十八條 古社寺保存法第十九條ニ依リ保存金ノ下付ヲ出願セントスル者ハ第一條ノ規程ニ準據シテ願書ヲ差出スヘシ
 第十九條 本令ニ依リ内務大臣ニ差出ス書類ハ總テ所轄地方廳ヲ經由スヘシ

○神社、寺院及佛堂ニテ參拜料金、縦覧料金及寄附金

募集ニ關スル件 明治三十一年七月七日 内務省令第六號

第一條 神社寺院及ヒ佛堂ハ任意ノ賽物ノ外參拜者ニ對シ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ參拜セシムル爲メ特ニ料金ヲ徵收スルコトヲ得ス
 第二條 神社寺院及ヒ佛堂ニシテ其ノ殿堂、庭園、什寶等ヲ觀覽セシムルカ爲メ料金ヲ徵收セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
 第三條 神社、寺院、祠宇、佛堂其他宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ニシテ寄附

三十三年會令
 第三十八號ヲ以テ第三條以下改正

金又ハ負債ヲ募集セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
 前項募集ノ區域カ二以上ノ廳府縣ニ涉ルトキハ神社、寺院、祠宇、佛堂及法人ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
 第四條 神社、寺院、祠宇、佛堂及教派宗派其他宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル團體ノ用ニ供スル爲メ寄附金募集ヲ爲ス者亦前條ニ同シ
 第五條 寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ記シタル願書ヲ差出スヘシ
 一 募集ノ目的
 二 募集ノ方法
 三 募集ノ金額
 四 募集ノ區域
 五 募集ノ期間
 六 前各號ニ掲クルモノ、外負債ニ付テハ利率及償還ノ方法
 第六條 前條各號ニ掲クル事項ヲ變更セムトスルトキハ其事由ヲ記シ許可ヲ受クヘシ
 第七條 寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケタル者他人ヲシテ其募集ニ從事セシムトスルトキハ其住所氏名職業年齢ヲ記シタル願書ヲ差出シ募集地地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
 第八條 第一條乃至第四條第六條第七條ニ違背シタルトキハ神社、寺院、祠宇、佛堂及法人ニアリテハ事務擔當者其他ノ場合ニアリテハ違背者ヲ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第九條 本令ハ明治三十一年八月一日ヨリ施行ス

附則

神社、寺院及佛堂ニテ參拜料金、縦覧料金及寄附金募集ニ關スル件

第十條 本令實施前募集ノ行為ヲ爲シタルモノニシテ其募集ノ完了ニ至ラサルモノハ其部分ニ對シ本令ヲ適用ス

○宗教宣布ニ關スル届出方

明治三十二年六月二十七日

内務省令第四十一號

第一條 宗教ノ宣布ニ從事セントスル者ハ左記事項ヲ具シ履歷書ヲ添ヘ其住所、住所ナキトキハ居所ヲ管轄スル地方長官ヘ届出ヘシ

- 一 宗教ノ名稱
- 二 布教ノ方法

本令施行前ヨリ宗教ノ宣布ニ從事スル者ハ本令施行後二箇月以内ニ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

第二條 宗教ノ用ニ供スル爲メ堂宇會堂說教所又ハ講義所ノ類ヲ設立セントスル者ハ左記事項ヲ具シ其所在地ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 設立ヲ要スル理由
- 二 設置ヲ終ルヘキ期限
- 三 名稱、所在地並敷地及建物ニ關スル重要ナル事項但圖面ヲ添フヘシ
- 四 宗教ノ名稱
- 五 管理及維持ノ方法
- 六 擔當布教者ヲ置クトキハ其資格及選定方法

前項第二號ノ期限内ニ於テ前項ノ堂宇會堂說教所又ハ講義所ノ類ヲ設置セサルトキハ前項ノ許可ハ

其效力ヲ失フ

本令施行前ヨリ宗教ノ用ニ供スル堂宇會堂說教所又ハ講義所ノ類ノ設立者、設立者ナキトキ若ハ故障アルトキハ管理者ハ第一項ニ掲クル事項ヲ本令施行後二箇月以内ニ所轄地方長官ヘ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲シタルトキハ第一項ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三條 前條ノ設立者、設立者ナキトキ若ハ故障アルトキハ管理者ハ管理者及擔當布教者ノ履歷書ヲ所轄地方長官ニ差出スヘシ其管理者又ハ擔當布教者ヲ變更増加シタル場合亦同シ

第四條 第一條各號ニ掲クル事項ヲ變更シタルトキハ宗教ノ宣布ニ從事スル者ヨリ二週間以内ニ所轄地方長官ヘ届出ヘシ

第二條各號ニ掲クル事項ヲ變更セントスルトキハ設立者、設立者ナキトキ若ハ故障アルトキハ管理者ヨリ理由ヲ具シ更ニ所轄地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但所在地ノ變更ニ係ルトキハ移轉先地ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

宗教ノ用ニ供スル堂宇會堂說教所又ハ講義所ノ類ヲ廢止又ハ移轉シタルトキハ二週間以内ニ廢止又ハ移轉前ノ所轄地方長官ヘ届出ヘシ

第五條 神佛道ノ布教者及其寺院佛道教會所等ノ設立移轉廢止ニ關シテハ總テ從前ノ規定ニ依ル

第六條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

○宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設立等ニ關スル規程

明治三十三年八月一日

内務省令第三十九號

宗教宣布ニ關スル届出方
宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設立等ニ關スル規程

宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設立等ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル社團又ハ財團ヲ法人ト爲サムトスルトキハ設立者ハ定款又ハ寄附行爲ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

一 宗教ノ名稱及所屬教派宗派ノ名稱

二 儀式及布教ノ方法

三 布教者ノ資格及選定方法

四 信徒ト法人ノ關係

五 信徒及社員タルヘキ者ノ員數

六 宗教ノ用ニ供スル堂宇、教會所、會堂、說教所又ハ講義所ノ類ヲ備フルモノニ在テハ其名稱、所在地及設立許可ノ年月日

第二條 前條ノ法人カ前條第一項第一號又ハ第四號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ届出ツヘシ

第三條 第一條ノ法人カ第一條第一項第二號又ハ第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ違背シタルトキハ民法第七十一條ニ依リ其設立ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條 本令ニ依リ書面ヲ差出ス場合ニ於テ神佛道ノ教派又ハ宗派ニ屬スルモノニアリテハ凡テ管長ノ添書ヲ付スヘシ

○神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ

進退スルコトヲ管長ニ委任スルノ件 明治十七年八月十一日 太政官布達第十九號

自今神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトハ總テ各管長ニ委任シ更ニ左ノ條件ヲ定ム

第一條 各宗派妄ニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラス

第二條 管長ハ神道各派ニ一人佛道各宗ニ一人ヲ定ム可シ

但事宜ニ因リ神道ニ於テ數派聯合シテ管長一人ヲ定メ佛道ニ於テ各派管長一人ヲ置クモ妨ケナシ

第三條 管長ヲ定ム可キ規則ハ神佛各其教規宗制ニ由テ之ヲ一定シ「内務卿」ノ認可ヲ得可シ

第四條 管長ハ各其立教開宗ノ主義ニ由テ左項ノ條規ヲ定メ「内務卿」ノ認可ヲ得可シ

一 教規

一 教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事

一 教師ノ等級進退ノ事

一 以上神道管長ノ定ムヘキ者トス

一 宗制

一 寺法

一 僧侶並ニ教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事

一 寺院ノ住職任免及教師ノ等級進退ノ事

一 寺院ニ屬スル古文書寶物什器ノ類ヲ存スル事

一 以上佛道管長ノ定ムヘキ者トス

神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトヲ管長ニ委任スル件

第五條 佛道管長ハ各宗制ニ依テ古來宗派ニ長タル者ノ名稱ヲ取調ヘ「内務卿」ノ認可ヲ得テ之ヲ稱スルコトヲ得

○神佛各教宗派内ノ者出願處分ヲ要スルトキ願書差出方

明治二十二年五月二十七日
内務省訓令第二十二號

神佛各教宗派内ノ者其教宗派ノ事務ニツキ當省ニ出願處分ヲ要スヘキモノハ管長ヲ經由出願セシムヘシ但シ管長其ノ手續ヲ拒ミタルトキハ其次第ヲ具シ本人ヨリ願書ヲ直チニ當省ニ差出スコトヲ得

○官國幣社ノ神官ヲ廢シ神職ヲ置クノ件 明治二十年三月十七日
閣令第四號

官國幣社ノ神官ヲ廢シ更ニ左ノ神職ヲ置ク

- 宮司
- 禰宜
- 主典

宮司ハ内務省ニ於テ之ヲ補シ禰宜主典ハ北海道廳府縣ニ於テ之ヲ補ス靖國神社宮司以下ハ陸軍省海軍省ニ於テ之ヲ補ス

宮司ハ奏任ノ待遇ヲ受ケ禰宜主典ハ判任ノ待遇ヲ受ク

○府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件 明治二十七年二月二十七日
勅令第二十二號

朕府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府社縣社及郷社ニ左ノ神職ヲ置ク

- 社司 一人
- 社掌 若干人

社掌ノ員數ハ社司及氏子氏子ナキトキハ信徒總代之ヲ議定シ北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ
社司 一人
社掌 若干人

第二條 村社以下神社ニ左ノ神職ヲ置ク
社掌 若干人
社掌ノ員數ハ氏子氏子ナキトキハ信徒總代之ヲ議定シ北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第三條 社司ハ社掌ヲ指揮シテ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第四條 府社縣社及郷社ノ社掌ハ社司ノ命ヲ承ケテ神明ニ奉仕シ祭祀及庶務ニ從事ス

第五條 村社以下神社ノ社掌ハ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第六條 北海道廳長官府縣知事ハ氏子氏子ナキトキハ信徒總代ヲシテ社司及社掌ノ候補者ヲ推薦セシメ其ノ中ヨリ之ヲ補ス
候補者ノ資格及推薦ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム

神佛各教宗派内ノ者出願處分ヲ要スルトキ願書差出方 官國幣社ノ神官ヲ廢シ神職ヲ置クノ件 下卷 三七三
府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件

第七條 社司及社掌ハ判任官ノ待遇トス
第八條 社司社掌ノ服務及懲戒ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム

附則

第九條 本令施行ノ際祠官タル者ハ社司ニ祠掌タル者ハ社掌ニ補セラレタルモノト看做ス

○府社縣社以下神社神職登用規則 明治二十八年八月七日 内務省令第十號

府社縣社以下神社神職登用規則左ノ通相定ム

府社縣社以下神社神職登用規則

第一章 社司及社掌ノ資格

第一條 社司社掌試驗ニ及第シタル者ニアラサレハ社司社掌ニ補スルコトヲ得ス
第二條 左項ノ一ニ當ル者ニシテ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ試驗ヲ經スシテ社司ニ補スルコトヲ得

一 明治元年以前ニ於テ五代以上引續キ其神社ニ奉祀シタル者ノ子孫

二 神宮皇學館本科及專科ヲ卒業シタル者

三 皇典講究所六等以上ノ學階證書ヲ有スル者

四 滿二年以上判任待遇以上ノ職ニ在リタル者

第三條 左項ノ一ニ當ル者ニシテ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ試驗ヲ經スシテ社掌ニ補スルコトヲ得

トヲ得

一 明治元年以前ニ於テ五代以上引續キ其神社ニ奉仕シタル者ノ子孫

二 神宮皇學館本科及專科ヲ卒業シタル者

三 皇典講究所八等以上ノ學階證書ヲ有スル者

四 滿二年以上判任待遇以上ノ職ニ在リタル者

第四條 官國幣社神職及神職タリシ者ハ試驗ヲ經スシテ社司社掌ニ補スルコトヲ得

第二章 社司及社掌候補者ノ推薦

第五條 神社ニ神職ノ闕員アルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ十五日以内ニ氏子氏子ナキトキハ信徒總代ニ候補者ノ推薦ヲ命スヘシ

第六條 第五條ノ場合ニ於テ氏子氏子ナキトキハ信徒總代ハ命令ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ其候補者ノ履歷書及資格證明書ヲ具シ北海道廳長官府縣知事ニ推薦スヘシ

第七條 社司及社掌ノ候補者ハ闕員ノ二倍トス

第八條 氏子氏子ナキトキハ信徒總代ニ於テ候補者ヲ推薦シタルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ其履歷及資格ヲ調査シ學識德行其任ニ適スルモノヲ選擇シテ其職ニ補スヘシ

第九條 第八條ノ場合ニ於テ候補者其任ニ適セスト認ムルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ更ニ第五條ノ規定ニ依リ氏子氏子ナキトキハ信徒總代ニ候補者ノ推薦ヲ命スヘシ

第三章 附則

第十條 此規則ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス

第十一條 此規則施行前ヨリ在職ノ者ハ引續キ其職ニ在ルコトヲ得

府社縣社以下神社神職登用規則

第十二條 明治二十五年三月十日當省訓令第五號其他此規則ニ牴觸スル命令ハ總テ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○府縣社以下神社神職登用規則第一條乃至第四條ニ關スル件

明治二十八年九月七日
內務省訓令第六五六號

本年七月內務省令第十號府縣社以下神社神職登用規則第一條乃至第四條ニ該當ノモノト雖モ左ノ一項ニ當ルモノハ社司社掌ニ補スルコトヲ得ス

- 一 瘋癲白痴者
- 二 未成年者
- 三 女子
- 四 重罪ヲ犯シタル者
- 五 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
- 六 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權シタル後又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘタル後滿一箇年ヲ經過セサル者

○官國幣社神職試驗規則 明治二十八年九月九日
內務省訓令第十五號

北海道廳 府縣

官國幣社神職試驗規則左ノ通改定ス

官國幣社神職試驗規則

- 第一條 官司權官司ハ高等試驗合格ノ者禰宜主典ハ尋常試驗合格ノ者ヲ以テ之ニ補ス
- 第二條 年齡滿二十年以上ノ男子ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當セサル者ハ神職試驗ヲ受クルコトヲ得
 - 一 重罪輕罪ヲ犯シタル者
 - 二 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權シ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 第三條 高等試驗ハ內務省ニ委員ヲ置キ之ヲ施行ス尋常試驗ハ各地方廳ニ委員ヲ置キ施行スルモノトス
- 第四條 高等試驗合格者ニハ內務省ヨリ尋常試驗合格者ニハ地方廳ヨリ合格證書ヲ付與スヘシ
- 第五條 試驗ヲ施行スルトキハ豫メ其試驗期日及ヒ場所等ハ其時々官報又ハ新聞紙其他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
- 第六條 試驗ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

高等試驗科目

- 六國史口述 筆答 令義解同上
- 延喜式同上 萬葉集同上
- 法曹至要抄同上 現行神社法令筆答
- 作文宣命體 公文體 算術
- 尋常試驗科目
- 古事記口述 筆答 土佐日記同上

府縣社以下神社神職登用規則第一條第四條ニ關スル件 官國幣社神職試驗規則

職原抄同上
現行神社法令彙纂
祝詞式同上
作文祝詞
公文體
算術

- 第七條 試験ニ關スル細則ハ委員之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ
- 第八條 尋常試験問題ハ試験施行前豫メ内務大臣ノ認可ヲ經ヘシ
- 第九條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セス試験委員ノ銓衡ヲ經テ宮司權宮司ニ補スルコトヲ得
 - 一 維新前十代以上其神社ニ奉仕セシ重立タル神職ニシテ維新後引續キ奉仕セシ者ノ相續人
 - 二 其神社祭神ノ一族臣下ノ内祭神在世ニ於テ功蹟顯著史乘ニ著名ナル者ノ相續人
 - 三 滿五年以上判任官五級俸以上奉職セシ者
 - 四 神宮權禰宜以上在職ノ者
 - 五 舊教導職權少教正神道ノ分ニ限ル以上ニ補セラレシ者
 - 六 滿十年以上禰宜ヲ奉職シ其功勞顯著ナル者
 - 七 神宮皇學館本科卒業ノ者
 - 八 皇典講究所學階學正ヲ有スル者
- 第十條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セス試験委員ノ銓衡ヲ經テ禰宜主典宮掌ニ補スルコトヲ得
 - 一 維新前五代以上其神社ニ奉仕セシ神職ニシテ維新後引續キ奉仕セシ者ノ相續人
 - 二 滿五年以上判任官以上在職ノ者
 - 三 神宮々掌以上在職ノ者
 - 四 舊教導職權大講義神道ノ分ニ限ル以上ニ補セラレシ者

- 五 神宮皇學館本科及ヒ專科卒業ノ者
- 六 皇典講究所學階二等司業以上ヲ有スル者
- 第十一條 滿五年以上官國幣社神職ヲ勤メ退職シタル者ハ試験ヲ要セス前職同等若クハ其以下ノ神職ニ補スルコトヲ得
- 第十二條 滿五年以上雇員トシテ同一神社ニ奉職シタル者ハ試験委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ其神社ノ主典宮掌ニ補スルコトヲ得
- 附則
- 第十三條 此規則施行前ヨリ現ニ官國幣社ノ神職タル者ハ引續キ其職ニ在ルコトヲ得
- 第十四條 此規則ハ官幣小社波上宮別格官幣社靖國神社ニ限リ之ヲ施行セス

○社司社掌試験規則 明治二十八年九月二十日 内務省訓令第十六號

北海道廳 府縣

- 社司社掌試験規則左ノ通相定ム
- 社司社掌試験規則
- 第一條 地方廳ニ社司社掌試験委員長一名及社司社掌試験委員五名ヲ置キ社司社掌ノ試験ヲ行ハシム
- 第二條 社司社掌試験委員長及社司社掌試験委員ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ選任スヘシ
- 第三條 社司社掌試験委員ハ此規則ニ依リ試験ヲ施行シ試験委員長ヨリ其成績ヲ北海道廳長官府縣知事ニ具申スヘシ

社司社掌試験規則

第四條 北海道廳長官府縣知事ハ前條ノ具申ニ依リ合格ト認ムル者ニ合格證書ヲ付與スヘシ
第五條 年齡滿二十年以上ノ男子ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當セサル者ハ社司社掌試驗ヲ受クルコトヲ得

一 重罪輕罪ヲ犯シタル者

二 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セズ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
第六條 試驗ヲ施行スルトキハ豫メ其試驗期日及場所等ハ其時々官報又ハ新聞紙其他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第七條 社司ノ試驗科目左ノ如シ

古事記口述筆答

職原抄同上

祝詞式同上

作文祝詞體公文體

現行神社法令筆答

算術四則

第八條 社掌ノ試驗科目左ノ如シ

古事記上卷口述筆答

祝詞式同上

作文祝詞體公文體

現行神社法令筆答

算術四則

第九條 試驗問題ハ社司社掌試驗委員之ヲ定メ社司社掌試驗委員長ヨリ北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 此規則施行ニ必要ナル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ

○神官神職懲戒令 明治三十三年三月二十八日 勅令第七十九號

朕神官神職懲戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神官神職懲戒令

第一條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除クノ外神官ノ懲戒ハ本屬長官之ヲ行フ但シ勅任官ノ免官ハ狀ヲ具シ内閣總理大臣之ヲ奏請シ奏任官ノ免官ハ狀ヲ具シ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官之ヲ奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

第二條 官國幣社宮司權宮司ノ懲戒ハ内務大臣之ヲ行ヒ禰宜以下及府社縣社以下神職ノ懲戒ハ地方長官之ヲ行フ但シ靖國神社神職ノ懲戒ハ陸軍大臣海軍大臣之ヲ行フ

第三條 神官神職ノ懲戒ニハ文官懲戒令第二條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

官有財産

○官有財産管理規則

明治二十三年十一月二十四日
勅令第二百七十五號

朕官有財産管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有財産管理規則

- 第一條 此ノ規則ニ於テ官有財産ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物トス
- 第二條 官有財産ハ主管ノ各省大臣之ヲ管理ス
- 第三條 官有財産ノ買拂、讓與、交換及貸付ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ此規則ニ依ルヘシ
- 第四條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ
- 第五條 官有財産ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徴收スヘシ但シ公益ノ爲官有財産ヲ貸付シ又ハ森林經濟ノ爲森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依ル
- 第六條 官有財産ノ貸付料ハ毎年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ
- 貸付財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ
- 第七條 官有財産ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第一 樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以内